

# キャンパスライフ

## 第23回学生生活実態調査報告書



# ま え が き

キャンパスライフー第23回学生生活実態調査報告書ーをお届けします。この調査は、ほぼ2年毎に行われ、この報告書は、本学学生の生活全般にわたる現状を知ることのできる貴重な統計資料となっています。特に、2年前の調査からは調査対象を全学生に拡げ、結果をCD-ROMに収めて詳細なデータも利用できるようにしました。今回も7割に近い学生のみなさんから協力をいただきましたので、学科やコースといった小グループの単位でオリエンテーションの折りにデータを活用いただけるものと期待しています。

徳島大学の第一期基本計画の「教育と学生支援に関する基本方針」にも謳われていることですが、①学生の能力開発の観点から、教育と学生支援を一体として考えた大学教育を推進し、健全な体と心を養い、自立して学ぶ学生の立場に立った支援を行うこと、②そのための教育および学生支援に関する教職員の能力開発を積極的に推進し、専門能力を高めること等は、私たち教職員の日々心がけなければならない基本的事項であると考えられます。正規の授業時間以外での教員との交流について10年前の第19回の調査（平成8年度）と比較してみますと、教員と学生の交流は著しく良くなっています。また、サークルへの加入率や大学祭への参加率なども5～10%増加しています。これらはFD活動をはじめとする学習・教育環境の改善の成果なのでしょう。他方、大学事務室対応への満足度では、「満足・不満足どちらともいえない」の率が前回と同様4割近くとなっています。「どちらともいえない」を「ほぼ満足である」に変える努力、この日々行う小さな努力にこそ支援の本質があるのではないかと考えています。教職員の方々の座右にこの報告書を置いて頂き、折に触れて参照し、改善点を見つけていただいで、本学学生のキャンパスライフをより豊かなものとしていただければ幸いです。

最後になりましたが、この調査書は、学生支援センター学生生活支援室運営委員の先生方および学務部職員の方々のご努力により短期間で纏めていただきました。ご多忙の中、集中的にご討議いただき、早期完成を実現いただいたことに対し、逢坂昭治室長をはじめとするみなさんに心から敬意を表すとともに深く感謝いたします。また、調査に協力いただいた学生のみなさんにもこの場を借りて感謝いたします。

平成19年3月

徳島大学理事（教育担当）  
学生支援センター長

川 上 博

# 目 次

まえがき	1
序 章 学生生活実態調査の概要	4
1 調査の目的	4
2 調査の組織	4
3 調査の対象及び方法	4
4 調査の時期	4
5 調査の内容	4
6 調査票の回収状況	4
7 図中の％表示	5
8 略語等の表示	5
附表「平成18年度 学生生活実態調査票」	6
第1章 家族・住居、通学について	16
1-1 家庭の年間所得	16
1-2 住居区分	16
1-3 1か月の家賃	17
1-4 住居満足度	17
1-5 住居（部屋）の紹介・斡旋者	17
1-6 通学方法	18
1-7 通学時間	18
1-8 通学中の交通事故	19
第2章 収入・支出について	20
2-1 1か月の平均収入額	20
2-2 保護者等からの援助額	20
2-3 1か月の平均支出額	21
2-4 食費	21
2-5 経済状況	22
2-6 奨学金	22
2-7 アルバイト従事日数	23
2-8 アルバイト従事時間数	24
2-9 アルバイトと勉学	24
2-10 アルバイトの目的	25
2-11 アルバイトの種類	25
2-12 アルバイト収入	26
2-13 アルバイトの紹介者	27
2-14 アルバイトのトラブル内容	27
第3章 健康状態について	28
3-1 睡眠時間	28
3-2 気になる症状	29
3-3 主な悩みや不安	30
3-4 相談相手	31
3-5 現在の精神状態	32
3-6 保健管理センターの認識	33
第4章 食事について	34
4-1 朝食	34

4-2	昼食と夕食	35
4-3	昼食の利用場所	35
4-4	弁当を食べる場所	36
4-5	学生食堂について感じる事	36
<b>第5章</b>	<b>学生生活上の問題点</b>	<b>38</b>
5-1	大学生活の意義	38
5-2	迷惑行為	39
5-3	教職員との交流	45
5-4	友人の存在	48
5-5	大学事務室の対応への満足度	48
5-6	盗難等犯罪被害	49
<b>第6章</b>	<b>修学状況について</b>	<b>51</b>
6-1	本学を選んだ理由と所属学部の満足度	51
6-2	単位取得状況と授業出席状況	52
6-3	授業の満足度	54
6-4	授業予習復習時間とカンニング経験	55
6-5	オフィスアワーの利用状況	56
6-6	図書館の利用状況	57
<b>第7章</b>	<b>課外活動について</b>	<b>59</b>
7-1	サークル加入状況	59
7-2	活動状況	60
7-3	加入の動機	61
7-4	サークルに加入していない理由	63
7-5	学生行事	65
7-6	大学祭への参加状況	67
7-7	ボランティア活動	68
7-8	まとめと今後の課題	69
<b>第8章</b>	<b>進路・就職について</b>	<b>70</b>
8-1	進路情報入手手段	70
8-2	就職・進学希望について	70
8-3	就職先選択で重視するもの	70
8-4	希望する職種	71
8-5	就職セミナーへの参加	72
8-6	就職支援室の利用状況	72
8-7	就職情報入手方法	73
<b>第9章</b>	<b>学部の現状と課題</b>	<b>74</b>
9-1	総合科学部	74
9-2	医学部	75
9-3	歯学部	76
9-4	薬学部	77
9-5	工学部	78
<b>第10章</b>	<b>総括と提言</b>	<b>80</b>
	あとがき	83

※ 資料編はCDに収録する

# 序章 学生生活実態調査の概要

## 1. 調査の目的

この調査は、本学学生の生活の実状を把握し、今後の福利厚生施設等の改善並びに修学支援に資する基礎資料を得ることを目的として実施した。

## 2. 調査の組織

この調査は、徳島大学学生委員会及び学生生活支援室運営会議の次の委員が中心となり調査を実施し、分析作業を行った。

区分	氏名	所属	職名
委員長	逢坂昭治	大学院ソシオテクノサイエンス研究部	教授
委員	平木美鶴	総合科学部	教授
委員	山本真由美	〃	教授
委員	西村匡司	大学院ヘルスバイオサイエンス研究部	教授
委員	香川典子	医学部	教授
委員	野間隆文	大学院ヘルスバイオサイエンス研究部	教授
委員	北村清一郎	〃	教授
委員	中馬寛	〃	教授
委員	楠見武徳	〃	教授
委員	福富純一郎	大学院ソシオテクノサイエンス研究部	教授
委員	前田健一	保健管理センター	助教授

## 3. 調査の対象及び方法

この調査は、本学に在学する学部学生全員6,003人（平成18年11月1日に在籍する者のうち休学者を除いた者）を調査対象とした。

調査方法は、各学部の学務（教務）係及び学生委員会委員の協力を得て調査票を配布し、回答用紙（マークシート）を回収した。

## 4. 調査の時期

この調査は、平成18年11月1日から11月10日まで実施し、11月1日現在の実状について回答を依頼し、回答用紙の提出期限を11月13日までとした。

## 5. 調査の内容

調査項目は、調査の継続性も考慮しながら必要な見直しを行い、調査項目を精選するとともに1か月の家賃、住居の満足度、保護者等からの援助額、気になる症状、オフィスアワーの利用等の新たな項目を追加し、80項目とした。

## 6. 調査票の回収状況

調査票の回収状況は、調査対象者6,003人のうち回答数は4,023人で、回収率は67.0%であった。学部・学科別、学年別、男女別の回収状況は次表のとおりである。



## 7. 図中の％表示

端数処理の関係で合計が100%にならない場合がある。

## 8. 略語等の表示

本報告書中、工学部昼間コース・工学部夜間主コース名及び平成13年度学生生活実態調査・平成16年度学生生活実態調査を以下のとおり略語等で記載する。

工学部昼間コース → 工学部昼間

工学部夜間主コース → 工学部夜間

平成13年度学生生活実態調査（学部学生，大学院生） → 前々回調査

平成16年度学生生活実態調査（学部学生） → 前回調査

### 平成18年度学生生活実態調査 集計表

#### <学部学科別>

学 部	学 科	対象者数	回 収 数	回収率(%)
総 合 学 部	人 間 社 会 学 科	744	390	52.4
	自然システム学科	367	207	56.4
	計	1,111	597	53.7
医 学 部	医 学 科	577	478	82.8
	栄 養 学 科	203	195	96.1
	保 健 学 科	543	490	90.2
	計	1,323	1,163	87.9
歯 学 部	歯 学 科	329	252	76.6
薬 学 部	薬学科・創製薬科学科	87	45	51.7
	薬 学 科	133	49	36.8
	製 薬 化 学 科	146	39	26.7
	計	366	133	36.3
工 学 部	建 設 工 学 科	447	276	61.7
	機 械 工 学 科	558	318	57.0
	化学応用工学科	389	315	81.0
	電気電子工学科	537	358	66.7
	知能情報工学科	418	331	79.2
	生 物 工 学 科	307	143	46.6
	光 応 用 工 学 科	218	137	62.8
	計	2,874	1,878	65.3
合 計		6,003	4,023	67.0

注) 在学者数欄は11月1日現在で、休学者を除いた数である。

#### <学年別>

学 年	対象者数	回 収 数	回 収 率
1 年	1,394	933	66.9
2 年	1,520	934	61.4
3 年	1,370	893	65.2
4 年	1,422	1,003	70.5
5 年	142	129	90.8
6 年	155	131	84.5
計	6,003	4,023	67.0

#### <男女別>

学 部	回 収 率		
	男	女	計
総 合 学 部	42.5	58.1	52.1
医 学 部	78.9	87.7	83.7
歯 学 部	69.4	69.2	69.3
薬 学 部	27.3	45.8	36.3
工 学 部	61.9	68.4	62.7
計	61.2	69.7	64.1

注) 男女別の表において、回収率が学部・学科別及び学年別と異なるのは、回収したマークシートの男女識別不可数（173人）を除いて算出したためである。

# 平成 18 年度 学生生活実態調査

平成 18 年 11 月  
徳 島 大 学

## お 願 い

この調査は、みなさんの学生生活を把握し、今後の福利厚生施設等の改善並びに修学指導に資する基礎資料を得ることを目的として実施するものです。

本調査は、平成 18 年 11 月 1 日現在、本学に在学する学部学生全員を対象に行います。マークカードに無記名で記入していただき、他の目的に使用することはありませんので、ありのままを正確にお答えください。

質問事項も多く、大変とは思いますが、この調査の趣旨をご理解のうえ、ご協力をお願いします。

**[調査実施期間 11月1日～11月10日]**

**回答用紙(マークカード)の提出期限は、11月13日(月)です。  
所属学部の学務(教務)係へ提出してください。**

### 回答記入上の注意事項

- 1 平成 18 年 11 月 1 日現在で記入してください。
- 2 回答用紙はマークカードです。回答内容の該当するものを一つだけ選んで、その番号を塗りつぶして回答してください。  
ただし、複数回答可を指定している場合は、複数選んでも差し支えありません。
- 3 質問中、回答者を指定している箇所は、指定された人のみ回答してください。
- 4 マークカードの裏面に自由記入欄を設けていますので、質問 42 について、及び大学内における学生生活全般について、気づいたことや要望したいこと、あるいは期待することがあれば、自由に記入してください。
- 5 \*は、前回からの継続調査項目です。

## 学生生活実態調査票

### A. 基本的事項について

1 *	【全員】 国籍・性別はどれですか。	1. 日本人男            2. 日本人女 3. 留学生男           4. 留学生女
2 *	【全員】 所属学部はどこですか。	1. 総合科学部        2. 医学部            3. 歯学部 4. 薬学部            5. 工学部（昼間コース） 6. 工学部（夜間主コース）
3 *	【全員】 学科はどこですか。	総合科学部 〔1. 人間社会学科    2. 自然システム学科〕 医学部 〔1. 医学科        2. 栄養学科        3. 保健学科〕 歯学部〔1. 歯学科〕 薬学部〔1. 薬学科    2. 製薬化学科〕 （薬学部1年生については、〔1. 薬学科    2. 製薬化学科〕の選 択は不要） 工学部 〔1. 建設工学科            2. 機械工学科 3. 化学応用工学科       4. 電気電子工学科 5. 知能情報工学科       6. 生物工学科 7. 光応用工学科〕
4 *	【全員】 何年生ですか。	1. 1年生            2. 2年生            3. 3年生 4. 4年生            5. 5年生            6. 6年生

### B. 家族・住居，通学について

5 *	【全員】 あなたの家庭の年収（税 込み）はどれくらいです か。	1. 250万円未満                    2. 250～500万円未満 3. 500～750万円未満            4. 750～1,000万円未満 5. 1,000～1,500万円未満        6. 1,500万円以上
6 *	【全員】 あなたの住居区分はどれ ですか。	1. 自宅（家族と同居）    2. アパート・マンション（家族と別居） 3. 学生寮                    4. 間借り（下宿） 5. 親戚・知人宅            6. 国際交流会館・日亜会館 7. その他
7	【学生寮及び国際交流会 館・日亜会館居住者を除 く自宅外通学者】 一ヶ月の家賃（電気代， ガス代等諸費用を除く） はいくらですか。	1. 3万円未満                    2. 3万円～4万円未満 3. 4万円～5万円未満        4. 5万円～6万円未満 5. 6万円～7万円未満        6. 7万円～8万円未満 7. 8万円以上
8	【学生寮及び国際交流会 館・日亜会館居住者を除 く自宅外通学者】 現在の住居に満足してい ますか。	1. 満足している            2. やや満足している 3. どちらともいえない      4. やや不満足である 5. 不満足である



9	【問8で「4」「5」を選んだ方】 その理由はどれですか。 (複数回答可)	1. 狭い 3. 通学に不便 5. 周りの環境が良くない	2. 家賃が高い 4. 日常生活に不便 6. その他
10	【学生寮及び国際交流会館居住者を除く自宅外通学者】 住居(部屋)の紹介・斡旋者は誰ですか。	1. 徳大生協 3. 友人・先輩 5. 新聞・雑誌	2. 徳大教員 4. 不動産業者 6. その他
11	【全員】 あなたの主な通学方法は何ですか。	1. 徒歩 3. バイク(原付自転車・自動二輪) 5. バス・JR	2. 自転車 4. 自動車
12	【全員】 通学時間はどれですか。	1. 15分未満 3. 30分～1時間未満	2. 15分～30分未満 4. 1時間～2時間未満 5. 2時間以上
13	【全員】 通学中に交通事故をおこしたことはまたは交通事故の被害にあったことがありますか。	1. ある 2. ない	

C. 収入・支出について

14	【全員】 あなたの1か月の平均収入額(保護者等からの援助を含む)はいくらですか。	1. 3万円未満 3. 5～7万円未満 5. 10～15万円未満 7. 20～25万円未満 9. 30万円以上	2. 3～5万円未満 4. 7～10万円未満 6. 15～20万円未満 8. 25～30万円未満
15	【全員】 保護者等からの援助はいくらありますか。	1. 全くない 3. 3～5万円未満 5. 7～10万円未満 7. 15～20万円未満	2. 3万円未満 4. 5～7万円未満 6. 10～15万円未満 8. 20万円以上
16	【全員】 あなたの1か月の平均支出額(授業料支出は除く)はいくらですか。	1. 3万円未満 3. 5～7万円未満 5. 10～15万円未満 7. 20～25万円未満	2. 3～5万円未満 4. 7～10万円未満 6. 15～20万円未満 8. 25～30万円未満 9. 30万円以上
17	【全員】 1か月の平均の食費はどのくらいですか。	1. 2万円未満 3. 3～4万円未満 5. 5～7万円未満	2. 2～3万円未満 4. 4～5万円未満 6. 7万円以上
18	【全員】 現在の経済状況について。	1. ゆとりがある(家計支持者からの仕送りのみ) 2. 普通(あまり不自由を感じない) 3. やや苦しい(奨学金あるいは軽度のアルバイトで充足できる) 4. 大変苦しい(定期的なアルバイトが必要である)	
19	【全員】 奨学金を受けることを希望しますか。	1. 現在受給中であるが、更に希望する 2. 現在受給中であるが、次は希望しない 3. 現在受給していないが、希望する 4. 現在受給していないし、希望もしない	

20 *	【全員】 現在、アルバイトをしていますか。1週間の平均従事日数は何日ですか。	1. いいえ 3. 2日 5. 4日	2. 1日 4. 3日 6. 5日以上
21 *	【問20で「2」～「6」を選んだ方】 1週間の従事時間は合計何時間ですか。(移動に要する時間も含む)	1. 5時間未満 3. 10～15時間未満 5. 20～25時間未満	2. 5～10時間未満 4. 15～20時間未満 6. 25時間以上
22	【問20で「2」～「6」を選んだ方】 アルバイトによって勉学に支障が生じていますか。	1. 支障が生じている 2. 支障は生じていない	
23 *	【問20で「2」～「6」を選んだ方】 アルバイトは主にどのような目的でしていますか。 (複数回答可)	1. 生活費や学費のため 3. 日常の娯楽・嗜好品等のため 4. 高額商品(自動車等, パソコン)購入のため 5. 課外活動費のため 7. その他	2. レジャー・旅行費のため 6. 社会体験のため
24 *	【問20で「2」～「6」を選んだ方】 どのようなアルバイトをしていますか。 (複数回答可)	1. 家庭教師・学習塾講師等 3. 受付・接客 5. 商品販売 7. 飲食店等手伝い 9. 引越しスタッフ	2. 会場設営・撤収, 搬入搬出 4. イベントスタッフ補助 6. 商品等整理・包装 8. 駐車場整理員 10. その他
25 *	【問20で「2」～「6」を選んだ方】 あなたのアルバイトによる収入(1か月平均)はいくらですか。	1. 3万円未満 3. 5～7万円未満 5. 10～15万円未満	2. 3～5万円未満 4. 7～10万円未満 6. 15万円以上
26 *	【問20で「2」～「6」を選んだ方】 そのアルバイトはどこで(誰に)紹介してもらいましたか。 (複数回答可)	1. 学務部 3. アルバイト情報誌・新聞等の広告・チラシ 4. 教員 6. 自分で開拓	2. 友人・先輩 5. 家族 7. その他
27 *	【問20で「2」～「6」を選んだ方】 アルバイトでトラブルを経験したことがありますか。どのようなトラブルですか。 (複数回答可)	1. ない 3. 給料が契約より低かった 5. 解雇 7. 事故・ケガ	2. 給料の不払い 4. 客とのトラブル 6. 雇用者との意見の不一致 8. その他

D. 健康状態について

28	【全員】 1日の睡眠時間は平均何時間ですか。 (休日を除く)	1. 4時間未満 3. 6～8時間未満 5. 10時間以上	2. 4～6時間未満 4. 8～10時間未満
29	【全員】 現在気になる症状は何ですか。 (複数回答可)	1. 頭痛・めまい 3. 不眠 5. 下痢・便秘 7. 生理痛・生理不順	2. アトピー・アレルギー 4. 動悸・不整脈 6. 咳・痰 8. その他 9. 特にない
30	【全員】 * 現在悩みや不安はありますか。それは主にどんなことですか。 (複数回答可)	1. ない 3. 勉強 5. 身体的不調 7. 自分の性格 9. 生き甲斐や目標	2. 経済状態 4. 交友・異性関係 6. 家族関係 8. 就職や進路 10. その他
31	【全員】 * 悩み事は誰に相談しますか。 (複数回答可)	1. 友人 3. 教員 5. 学務(教務)係 7. 誰にもしない	2. 家族 4. 学生相談室 6. その他
32	【全員】 * 現在の精神状態について	1. 精神的に安定している 3. なんとなく不安 5. やる気が出ない	2. いらいらする 4. 落ち込みやすい 6. その他
33	【全員】 * 保健管理センターを利用したことがありますか。	1. 健康診断のために行ったことがある 2. 健康診断以外(診療, 相談, 健康機器の利用, 証明書作成など)で利用したことがある 3. 保健管理センターがあることを知らなかった 4. 保健管理センターは知っているが, 行ったことがない	

E. 食事について

34	【全員】 * 朝食を取りますか。	1. 毎日食べる 3. ほとんど食べない	2. 時々食べる
35	【全員】 * 昼食を取りますか。	1. 毎日食べる 3. ほとんど食べない	2. 時々食べる
36	【全員】 * 夕食を取りますか。	1. 毎日食べる 3. ほとんど食べない	2. 時々食べる
37	【全員】 * 昼食は主にどこを利用していますか。	1. 常三島第1食堂(生協)を利用 2. 常三島第2食堂(工学部構内)を利用 3. 蔵本会館食堂を利用 5. 自宅(下宿)	4. 弁当を購入 6. その他
38	【問37で「4」を選んだ方】 * どこで食べていますか。	1. 教室 3. 自宅(下宿)	2. 建物外 4. その他
39	【全員】 * 学生食堂について感じていることはどれですか。 (複数回答可)	1. メニューが豊富 3. 比較的低価格 5. 場所が不便 7. その他	2. 昼食時の混雑がひどい 4. 開店時間は適当 6. 特にない

F. 学生生活上の問題点

40 *	【全員】 あなたは、大学生活で何を第一においた生活をしていますか。	1. 勉強や研究 3. 趣味・娯楽 5. 将来を考えた資格等の取得 7. 特に重点もなく程々に 9. その他	2. サークル活動 4. 豊かな人間関係を結ぶこと 6. アルバイト 8. ただ何となく
41 *	【全員】 あなたは、クーリング・オフの制度について知っていますか。	1. はい 2. いいえ	
<p><b>クーリング・オフとは</b></p> <p>普通、一度成立した契約は一方的に解消できないが、分割払いの割賦販売、セールスマンによる訪問販売などで勧誘にのせられ、つい不要なものの購入契約をした消費者が、一定の期間（通常8日間）内なら違約金無しに契約の解除（契約申し込みの解除）ができるという制度。</p>			
42 *	【全員】 あなたは、これまで迷惑行為を受けたことがありますか。 (複数回答可)	1. 受けたことはない 3. いたずら電話を受けた 5. 大学内でセクハラを受けた 7. その他（回答用紙の裏面の自由記入欄に具体的内容を書いてください）	2. 悪徳商法に引っかかった 4. ストーカーにあった 6. 大学内でアカハラを受けた
<p><b>アカハラ（アカデミック・ハラスメント）とは</b></p> <p>大学などで、指導教員が学生に対し、教育・研究活動への妨害を含めた学習・研究上の嫌がらせを継続的に行うこと。</p>			
43 *	【問42で「5」を選んだ方】 誰に相談しましたか。	1. 友人 3. 教員 5. 学務（教務）係 7. 誰にもしない	2. 家族 4. 学生相談室 6. その他
44 *	【問42で「6」を選んだ方】 誰に相談しましたか。	1. 友人 3. 教員 5. 学務（教務）係 7. 誰にもしない	2. 家族 4. 学生相談室 6. その他
45 *	【全員】 学生相談室を利用したことがありますか。	1. 利用したことがある 2. 学生相談室があるのは知っているが、利用したことはない 3. 学生相談室があるの知らない	
46 *	【全員】 あなたは、今年度中に教員と話しや質問をしたことがありますか。	1. 全くない 3. 2～3回程度したことがある 4. 4～6回程度したことがある 5. 7回以上したことがある	2. 1回はある
47 *	【全員】 あなたには、親しい教職員はいますか。	1. はい 2. いいえ	
48 *	【全員】 あなたには、親しい友人はいますか。	1. はい 2. いいえ	
49 *	【全員】 大学事務室の対応に満足していますか。	1. 満足している 3. どちらともいえない 5. 不満足である	2. やや満足している 4. やや不満足である

50 *	【全員】 あなたは、入学以来、盗難（盗み）、強盗、傷害、痴漢事件の被害に遭ったことがありますか。	1. はい 2. いいえ
51 *	【問 50 で「1」を選んだ方】 あなたが被害に遭ったのは次のどれですか。 〈複数回答可〉	1. 盗難（盗み） 2. 強盗 3. 傷害 4. 痴漢 5. その他
52 *	【問 50 で「1」を選んだ方】 あなたは、どこで盗難（盗み）等の被害に遭いましたか。 〈複数回答可〉	1. 大学構内 2. 自宅、アパート 3. その他

G. 修学状況について

53 *	【全員】 あなたが本学を選んだ主な動機は何ですか。 〈複数回答可〉	1. 地元の大学だから 2. 親や親戚に進められたから 3. 高校の進学指導による 4. 希望する学部・学科があったから 5. 就職等将来を考慮して 6. 国立大学だから 7. ただ何となく 8. 先輩や友人に勧められて 9. その他
54 *	【全員】 あなたは所属している学部・学科に満足していますか。	1. 満足している 2. やや満足している 3. どちらともいえない 4. やや不満足である 5. 不満足である
55 *	【全員】 これまでの単位の取得状況はどうですか。	1. 全部取得できた 2. ほとんど取得できた 3. 半分程度取得できた 4. あまり取得できなかった 5. 全く取得できなかった
56 *	【全員】 授業によく出席していますか。	1. 全部出席している 2. ほとんど出席している 3. 出たり出なかつたりしている 4. ほとんど出席していない 5. 全く出席していない
57 *	【問 56 で「3」～「5」を選んだ方】 授業を欠席する理由はどれに当たりますか。 〈複数回答可〉	1. 勉学の意欲がわからない 2. 授業に魅力がない 3. 授業が理解できない 4. その他
58 *	【問 57 で「3」を選んだ方】 あなたは、授業内容が理解できなかった場合、どのようにしていますか。 〈複数回答可〉	1. 教室で質問する 2. 教員に後で個人的に質問する 3. 先輩・友人と議論・相談する 4. 参考書等で調べる 5. 気になるけど何もしない 6. 気にしない 7. その他
59 *	【全員】 あなたは、受講している授業に満足していますか。	1. 満足している 2. やや満足している 3. どちらともいえない 4. やや不満足である 5. 不満足である

60 *	【問59で「3」～「5」を選んだ方】 授業が満足できない理由は何ですか。 〈複数回答可〉	1. 授業内容が難し過ぎて理解できない 2. 授業内容がつまらない 3. 教員の教え方に工夫が足りない 4. 受講者が多すぎて精神集中できない 5. 休講が多すぎる 6. 試験・レポートが多すぎる 7. 単位認定が厳しすぎる 8. その他
61 *	【全員】 あなたは、1日平均何時間ぐらい授業の予習・復習をしていますか。 ただし、試験期間中は除いて下さい。	1. 1時間未満 2. 1時間以上～2時間未満 3. 2時間以上～3時間未満 4. 3時間以上～4時間未満 5. 4時間以上～5時間未満 6. 5時間以上
62 *	【全員】 あなたは、カンニングをしたことがありますか。	1. はい 2. いいえ
63	【全員】 オフィスアワーを利用したことがありますか。	1. 利用したことがある 2. オフィスアワーがあるのは知っているが、利用したことはない 3. オフィスアワーがない 4. オフィスアワーについて知らない
64	【問63で「2」を選んだ方】 オフィスアワーを利用しない主な理由は何ですか。	1. 講義内容を充分理解できるのでその必要がない 2. オフィスアワーの時間が短く利用しにくい 3. オフィスアワーの時間以外にいつでも利用できる 4. 教員に相談するのが面倒である 5. 講義の理解は充分ではないが、どのように質問してよいか分からない 6. その他
65 *	【全員】 図書館を利用していますか。	1. 毎日 2. 週2, 3回程度 3. 週1回程度 4. 月2, 3回程度 5. 月1回程度 6. 利用しない 7. その他
66 *	【全員】 図書館について感じていることはどれですか。 〈複数回答可〉	1. 蔵書の種類や数に満足 2. 貸し出し・返却が容易 3. 図書館案内が充実している 4. 図書館員にたずねやすい 5. 開館時間が短い 6. 資料のコピーがとりやすい 7. 特にない 8. その他



H. 課外活動について

67 *	【全員】 学内外のサークル（以下同好会を含む）に加入していますか。（文化系及び体育系サークルの両方に加入している人は、主として活動している方に回答する）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学内の文化系サークルに加入している</li> <li>2. 学内の体育系サークルに加入している</li> <li>3. 学外の文化系サークルに加入している</li> <li>4. 学外の体育系サークルに加入している</li> <li>5. 以前加入していたが現在は加入していない</li> <li>6. 加入したことがない</li> </ol>
68 *	【問67で「1」～「4」を選んだ方】 サークルでの活動状況はどうですか。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. かなり熱心に活動している</li> <li>2. まあまあ熱心に活動している</li> <li>3. どちらともいえない</li> <li>4. あまり活動していない</li> <li>5. ほとんど活動していない</li> <li>6. その他</li> </ol>
69 *	【問67で「1」～「4」を選んだ方】 サークルに加入した主な動機は何ですか。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. サークルの活動内容に魅力があったから</li> <li>2. 集団活動に魅力があったから</li> <li>3. 友人を得るため</li> <li>4. 先輩・友人に勧められたから</li> <li>5. 学生生活を豊かにするため</li> <li>6. 健康増進のため</li> <li>7. 自分の特技を伸ばすため</li> <li>8. 自分の短所を補うため</li> <li>9. その他</li> </ol>
70 *	【問67で「5」,「6」を選んだ方】 サークルに加入していない主な理由は何ですか。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学業の妨げとなる</li> <li>2. 練習がいやである</li> <li>3. 活動するための体力・能力に自信がない</li> <li>4. 個人の自由が束縛される恐れがある</li> <li>5. 集団生活についていけない</li> <li>6. アルバイトをしているので時間的余裕がない</li> <li>7. 通学に時間がかかるので時間的余裕がない</li> <li>8. 個人の金銭的負担が多すぎる</li> <li>9. 魅力的なサークルがない</li> <li>10. 特に理由はないが何となく</li> </ol>
71 *	【全員】 新入生歓迎会や大学祭などの学生行事についてどのように考えていますか。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 必要だし積極的に参加している</li> <li>2. 必要だがあまり参加していない</li> <li>3. どちらでもいい</li> <li>4. なくてもいい</li> </ol>
72 *	【全員】 あなたは今年の大学祭に参加しますか。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はい</li> <li>2. いいえ</li> </ol>
73 *	【全員】 あなたは、大学入学後ボランティア活動をしたことがありますか。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 個人でしたことがある</li> <li>2. 団体（組織）に入っていたことがある</li> <li>3. ない</li> </ol>

I. 進路・就職について

74 *	【全員】 進路を考える上での情報入手手段は何ですか。 〈複数回答可〉	1. 指導教員 3. 先輩・知人 5. 就職情報誌・新聞・マスコミ 7. 大学内資料 9. 就職支援室情報	2. 就職担当教員 4. 直接会社に照会 6. 家族等 8. インターネット 10. その他
75	【全員】 就職希望ですか。進学希望ですか。	1. 就職 2. 進学 3. その他	
76 *	【問75で「1」を選んだ方】 就職先選択で重視するものは何ですか。 〈複数回答可〉	1. 収入 2. 就職先の将来性・安定性 3. 社会的評価 4. 能力を発揮できること 5. 勤務地の地理的条件 6. 研究評価をしてくれるところ 7. 先端技術を駆使しているところ 8. 人間関係の良いこと 9. その他	
77 *	【問75で「1」を選んだ方】 希望職種は何ですか。 〈複数回答可〉	1. 大学・官公庁の教育・研究職 3. 技術職 5. 企業等の研究職 7. マスコミ関係 9. その他	2. 1以外の公務員 4. 事務職 6. 教育職 8. 専門職（医師等）
78 *	【全員】 大学が行う就職セミナーに参加しますか。	1. 参加する 2. 時間があれば参加する 3. 参加しない	
79 *	【全員】 本学の就職支援室を利用したことがありますか。	1. 現在も利用している 2. 以前に利用したことがある 3. 利用したことがない	
80 *	【学部卒業予定者のうち、就職希望者の方】 就職に際して、会社等の情報をどのように入手しましたか。 〈複数回答可〉	1. 就職担当教員 2. 就職支援室の情報・就職の手引き 3. 新聞・就職情報誌 4. インターネット 6. 直接会社等に照会 8. 先輩・知人 10. その他	5. ダイレクトメール 7. 会社等説明会 9. 親・親戚

ご協力ありがとうございました

# 第1章 家族・住居，通学について

## 1-1 家庭の年間所得 (図1-1)

前回の報告によると、授業料免除や奨学金貸与の参考資料とするために、年収の低いグループについて細かく分析すべきであると指摘があった。このため今回は、500万円未満を250万円未満と250～500万円未満に細分して調査した。家庭の年間収入について、大学全体では500万円未満（33%）と500～750万円（25%）が過半数を占め、次いで750～1000万円（18%）、1000～1500万円（11%）、1500万円以上（4%）である。前回の調査時に比べて、750万円以上はほとんど変化していないが、500万円未満が若干増加している。前回では検討されていない250万円未満についても11%あった。これらのことは、この数年間の日本全体の景気が回復しているといわれているものの、実際には厳しい状況が続いていること反映したものと考えられる。

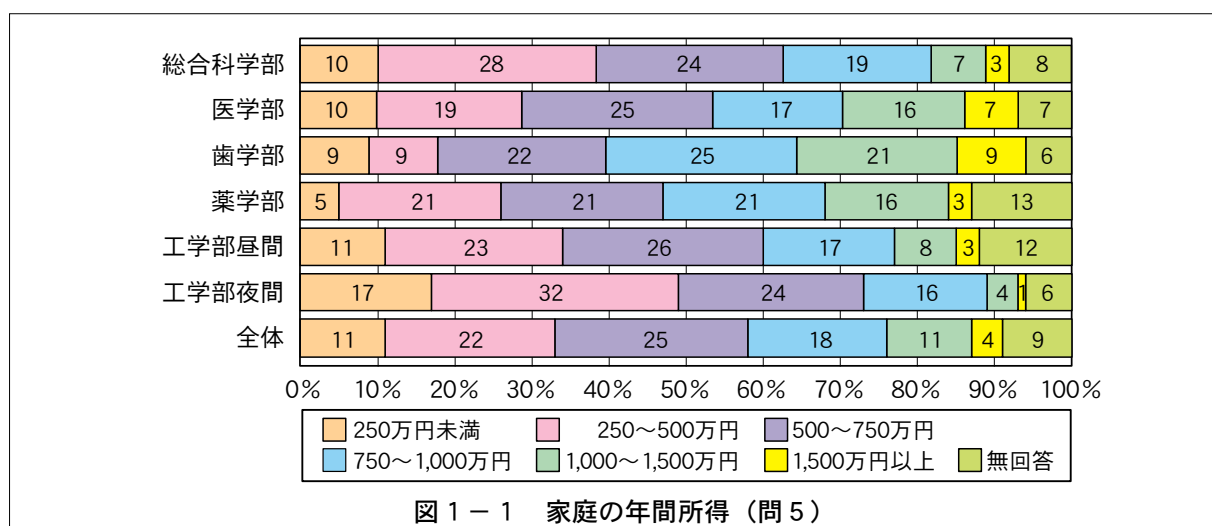


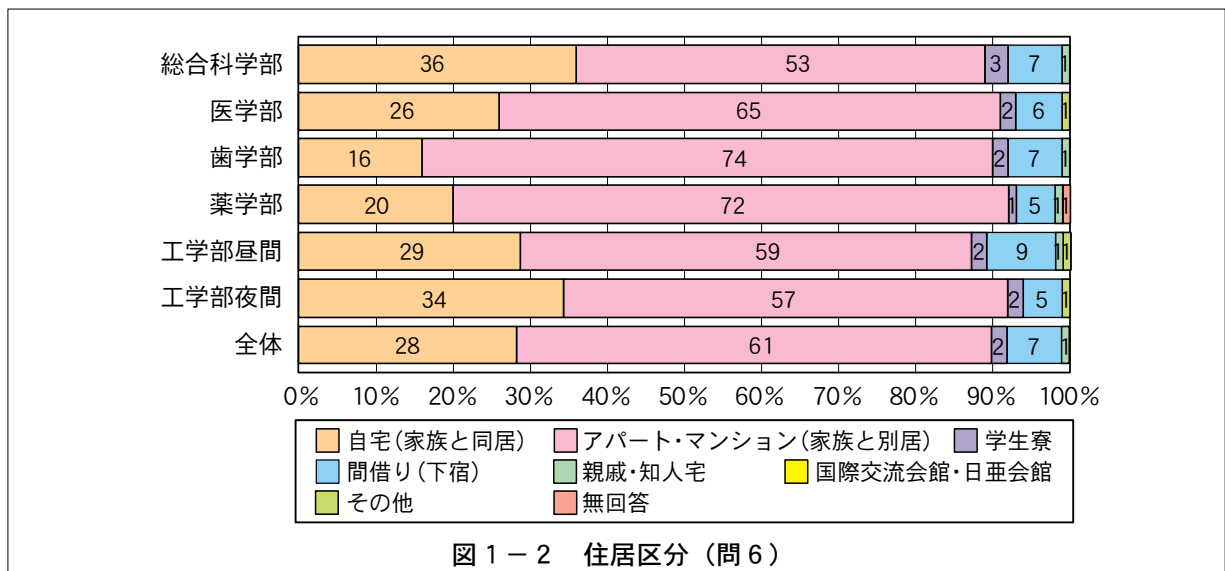
図1-1 家庭の年間所得 (問5)

学部別に見ると、歯学部では全体に高収入であるが、それでも年収250万円未満の学生が9%、250～500万円の学生が9%ある。さらに、工学部夜間では500万円未満がほぼ50%を占める。これらは前回の調査とほとんど同じである。

今回は500万円未満をさらに細分して調査した。250万円未満の学生は11%、実数で413名である。授業料免除や奨学金貸与を受けることができたのかなど、他の項目とも関連させて、この実態調査を検討していく必要がある。

## 1-2 住居区分 (図1-2)

全体では、最も多いのがアパート・マンション（家族と別居）（61%）、次いで自宅（28%）である。前々回、前回はアパートとマンションを区別したが、両者の区分は必ずしも明確なものではない。また、学生の生活実態を知るためには、自宅か自宅以外か、自宅以外の場合に住居費がどれくらいの負担になっているかがわかればよいので、今回は併せて集計した。学生寮に住んでいるのは2%、実数で78名である。間借、親戚・知人宅はいずれも少なく、それぞれ1%ほどである。前回調査結果と比べると、自宅の比率はほとんど同じであるが、アパート・マンションで家族と別居している学生は若干減少している（66%→61%）。



学部別では、総合科学部生で自宅の割合（36%）がやや高い。これも前回の傾向と同じである。

### 1-3 1か月の家賃（電気代、ガス代等諸経費を除く）

3～4万円未満が31%、4～5万円未満が39%と両方で過半数を占めている。3万未満の学生が7%である。年収と関係しているのかは不明である。歯学部、医学部では5万以上の学生が多いことから推測すると、年収との関連も否定できない。

### 1-4 住居満足度

満足しているが40%あり、やや満足しているが30%で両者あわせると70%である。問題になるのは残りの30%であり、30%もの学生が満足していないものの何らかの理由で我慢していることになる。不満の理由として最も多いのは狭い（30%）、続いて日常生活に不便（17%）、環境がよくない（16%）、家賃が高い（11%）、通学に不便（10%）となっている。男女間での差はほとんど見られない。年収との関係を検討することには問題があるかもしれないが、1か月の家賃と満足度、不満の理由の関係は把握できた方が学生支援に役立つのではないだろうか。特に環境がよくない、通学に不便を我慢している学生では、適切な支援ができるような調査が必要ではないだろうか。

### 1-5 住居(部屋)の紹介・斡旋者

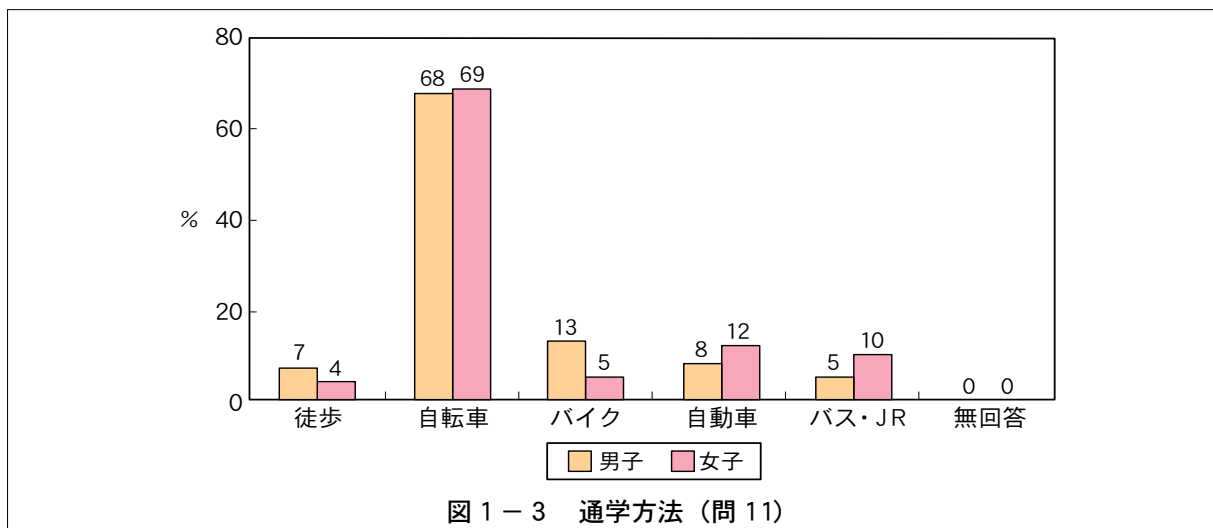
学生寮を除く自宅外通学者の住宅斡旋者としては、不動産業者47%と徳大生協40%で全体の87%で、前回の調査時の90%より若干減少している。不動産業者が徳大生協をやや上回っている点は前回と同じである。これは不動産業者のもっている物件の方が、選択肢が広いからであろうか。

学部別では医学部、歯学部で不動産業者による斡旋の比率が高い(それぞれ51%と50%)。これは、徳大生協が斡旋できる住宅が医学部のある蔵本地区に少ないことと関係しているかもしれないが、薬学部では逆に徳大生協での斡旋が56%と高く、詳しい理由は不明である。

今後の調査では住居を探す上で困難があったかどうか、特に新入生についてどのような情報が必要であったか、在学中に転居を必要としたか等をたずね、大学でできることを考えていくべきである。

## 1-6 通学方法 (図1-3)

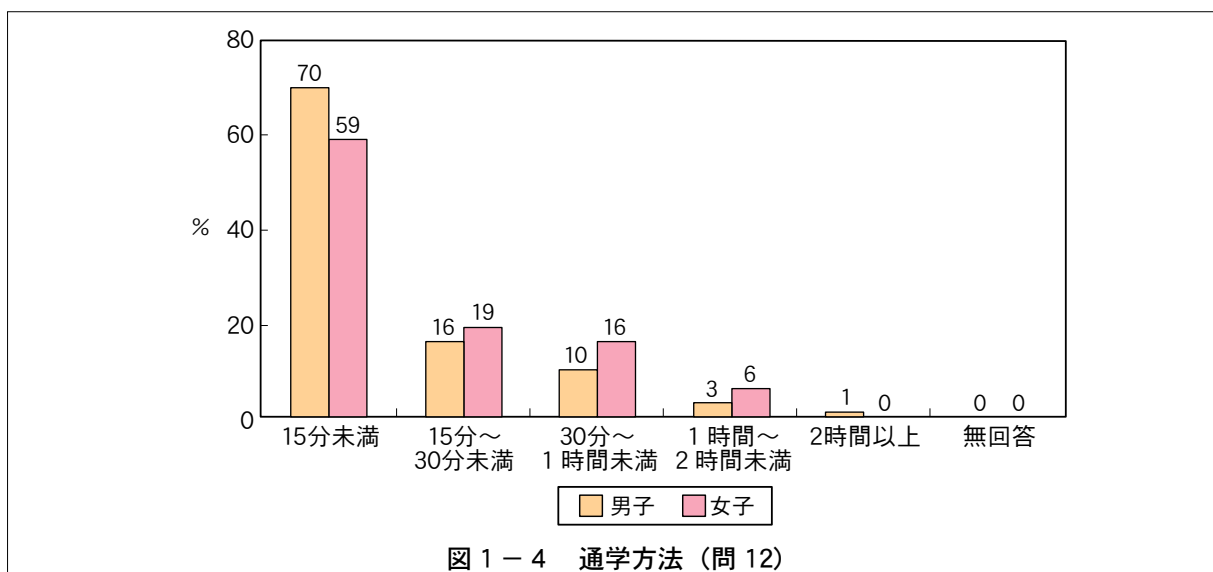
自転車通学が68%で最も多い。次いで、バイクが10%、自動車が9%、JR、バスなどの公共交通機関を利用する者が7%、徒歩6%である。男女とも自転車通学が最多だが、男子ではバイク、自動車、JR、バスなどの公共交通機関と続くが、女子は自動車、JR、バスなどの公共交通機関、バイクの順である。前回の調査時と同様、自転車通学の割合が高く、他の方法が低い数値になっており、自転車で通学できる範囲内に住んでいる学生が多いことが考えられた。



前回調査時より問題点としてあげられている駐輪スペースの確保だが、特に蔵本地区の医学部再開発にともなって、新設された図書館分館横駐輪場が工事のため使用不可になるなど、思うようにはかどっていない。このため、自転車が入り口を塞ぎ、通路にあふれ出ているのが現状である。徳島大学病院があり、健常人のみならず車いすや体の不自由な人の通行も多く、車両の通路に加えて歩行者の通路を確保しておくことが望まれる。

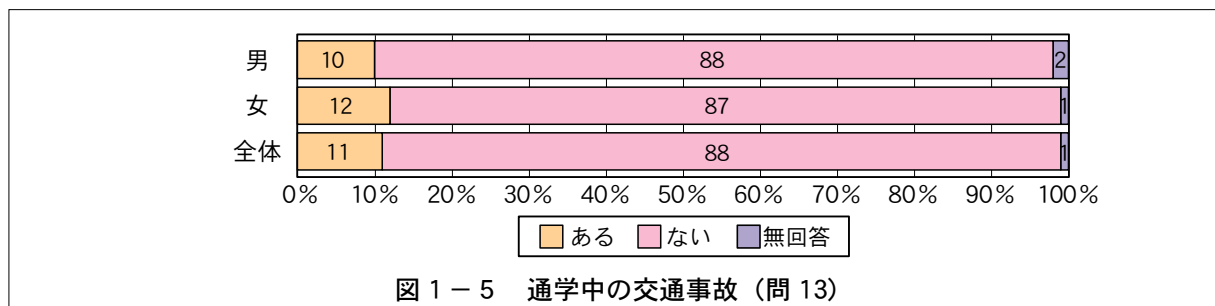
## 1-7 通学時間 (図1-4)

前回調査時に指摘された通学時間の調査を今回行った。通学時間15分未満が66%と最も多く、15分～30分未満をあわせると83%とほとんどの学生は通学時間が30分未満と短い。



## 1-8 通学中の交通事故 (図1-5)

通学中の交通事故について調べると、短い通学時間ではあるが、通学中に交通事故を起こしたり被害に遭った学生が11%と多いことに驚かされる。自動車通学では運転の未熟な若者の起こす交通事故が考えられるが、通学方法の調査結果からすると自動車通学者だけでなく、自転車通学者も事故の被害者や加害者になっていると想像される。自転車通学では雨天時の傘さし運転をやめることや自転車の整備も指導する必要がある。





## 第2章 収入・支出について

### 2-1 1か月の平均収入額 (図2-1)

全体では、1か月の平均収入額の最も多い区分は10～15万円未満の23%で、3万円未満の区分は17%である。前回調査結果では最も多い区分は3万円未満(28%)で、10～15万円未満の割合は17%であった。今回の調査では、7万円未満の合計が50%となるが、前回の調査結果の57%と比較して平均としては裕福になっている傾向が伺われる。平成17年度の大学院生活実態調査(以下、大学院の調査結果)では3万円未満が52%と最も多く、学部学生のほうが大学院生に比較して収入額の多いことが示されている。

学部別では、歯学部と薬学部で10～15万円未満の区分の比率がやや高い傾向が見られる。収入額については自宅通学か下宿等かの要因が大きく、この点を考慮した分析が必要であろう。

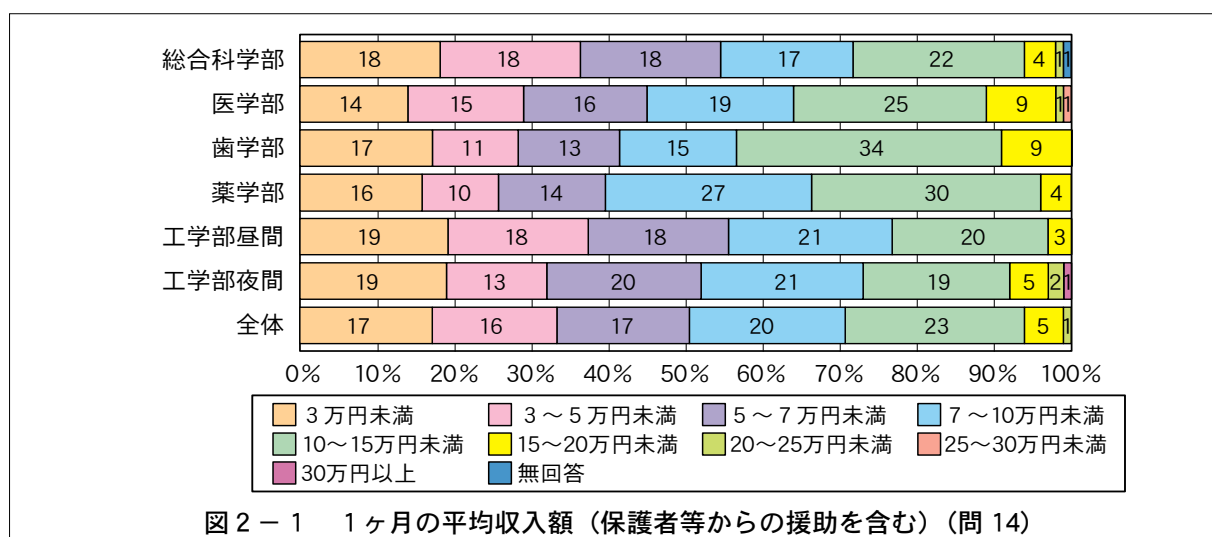


図2-1 1ヶ月の平均収入額(保護者等からの援助を含む)(問14)

### 2-2 保護者等からの援助額 (図2-2)

全体として、援助額が3万円未満の区分(23%)が最も多いが、次いで3～5万円未満、「全くない」,

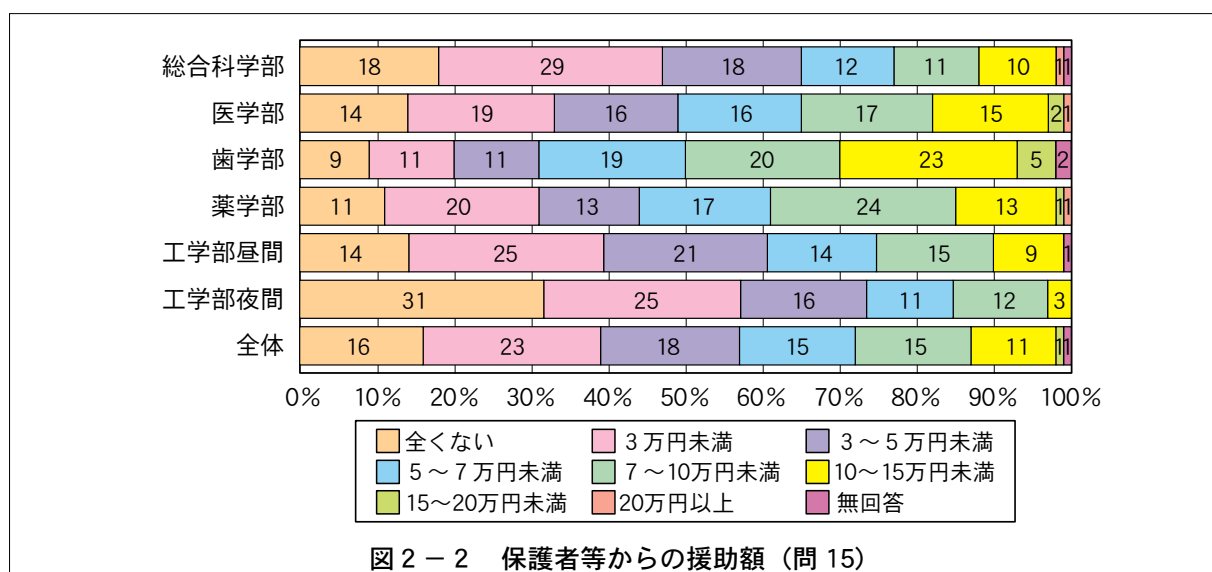


図2-2 保護者等からの援助額(問15)

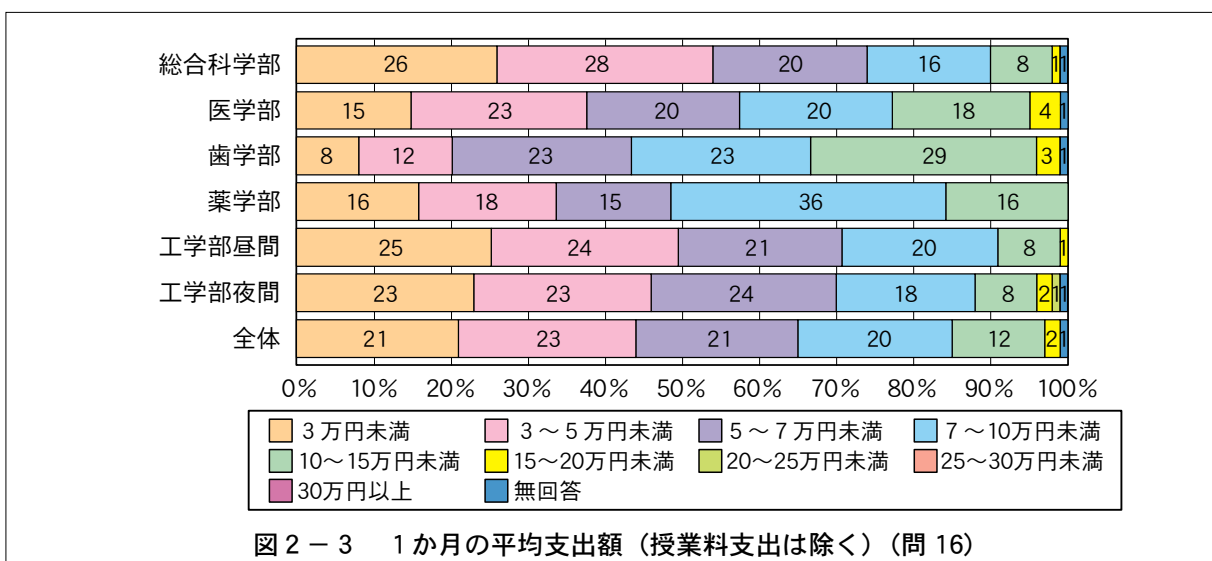
5～7万円未満, 7～10万円未満の順となっている。大学院の調査結果では、「全くない」が22%と最も多い。学部学生では収入額全体の中でのしめる割合は多くないものの80%以上の学生に保護者等からの援助があることが分かる。

学部別では7万円以上の区分が医学部, 歯学部, 薬学部の医療関連学部で34～48%であり, 工学部昼間と総合科学部(それぞれ24%, 21%)に比較して高いことが分かる。工学部夜間で、「全くない」と3万円未満の合計は56%であり, 工学部夜間の学生がほぼ自活していることを反映していると思われる。

### 2-3 1か月の平均支出額 (図2-3)

全体として3万円未満, 3～5万円未満, 5～7万円未満, 7～10万円未満の区分がほぼ同じ割合(20～23%)をしめている。この傾向は前回の調査結果および大学院の調査結果とほぼ同様であり, 支出額はそれぞれの学生の経済状況に応じた額になっていることが伺える。学部別では医学部, 歯学部, 薬学部では3万円未満の区分が8～16%であり, 他学部の23～26%に比べて少ない割合である。この傾向は2-2の保護者等からの援助額での回答結果で見られたように, 蔵本と常三島キャンパスでの学生の経済状況が若干異なることによるものと解釈できる。

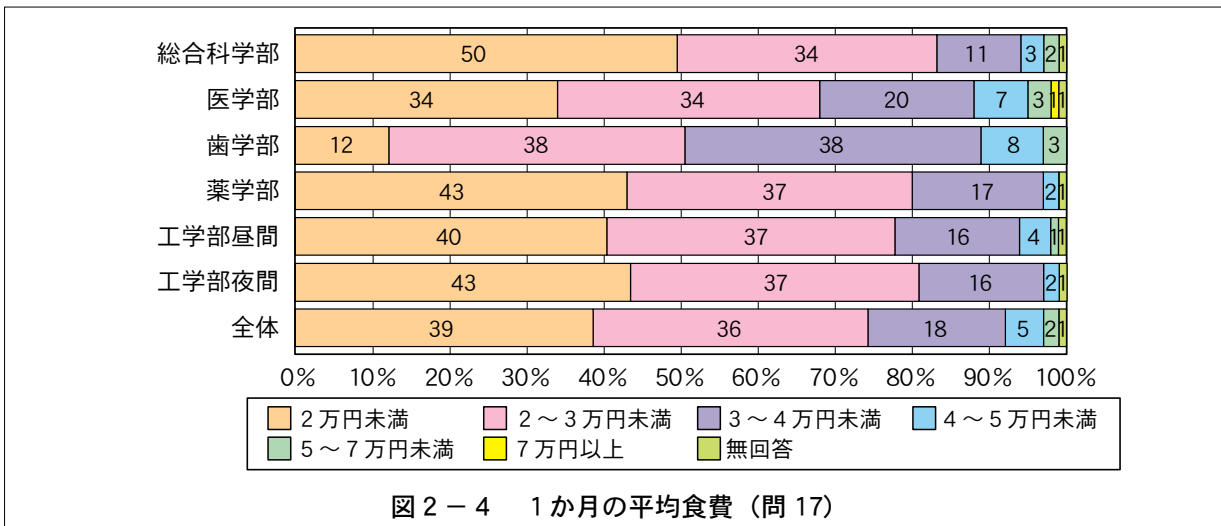
今回の調査は支出額から授業料支出を除いた額についてであるが, 授業料以外の教科書購入など勉強に必要な最低支出額を把握する必要もあろう。



### 2-4 食費 (図2-4)

全体では2万円未満が39%と最も多く, 次いで2～3万円未満が36%であり, この二つの区分で76%をしめる。この結果は, 対応する大学院の調査結果の27%, 36%, 合計63%と比較してやや多いが, 学部学生と大学院学生の平均的な食費額は2万円弱と推測できる。ただし, 歯学部では2万円未満が12%と他学部と比較して著しく少ないが, この理由は不明である。

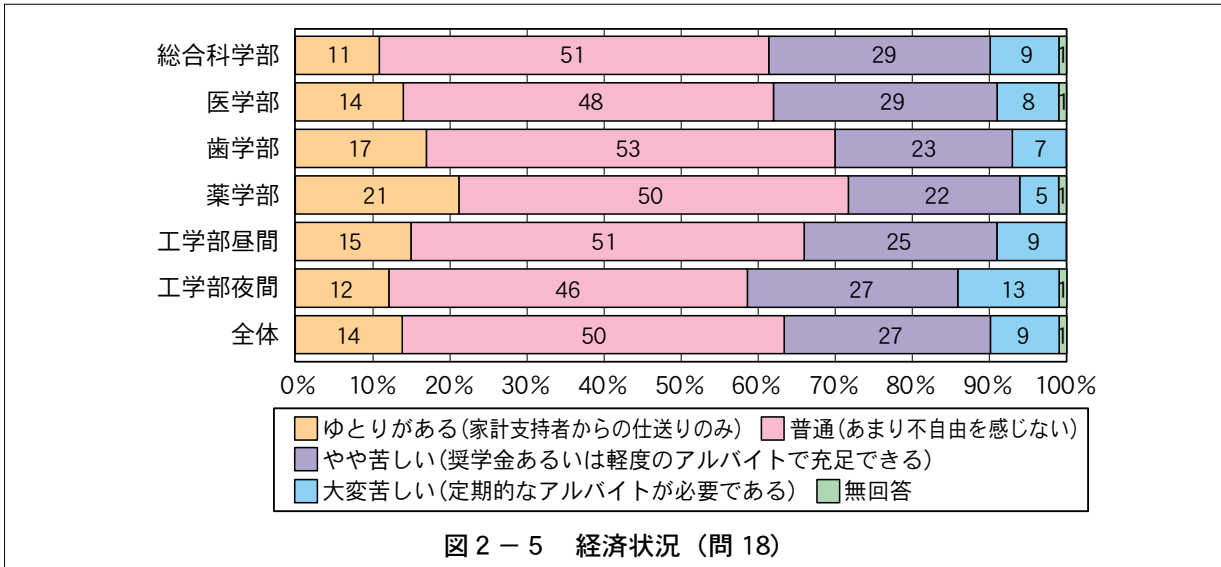
食費額も自宅通学か否かに強く依存するものであり, 次回はこの点を明らかにするような設問を設けたい。



## 2-5 経済状況 (図 2-5)

全体として、「ゆとりがある(家計支持者からの仕送りのみ)」は14% (前回12%)、「普通(あまり不自由を感じない)」が50% (前回49%)で、この二区分で全体の64% (前回61%)をしめる。この割合は大学院の調査結果とほぼ同様である。一方、「やや苦しい」が27% (前回28%)、実数で1,038人ある。「大変苦しい(定期的なアルバイトが必要である)」は9% (前回11%)、実数335人である。前回の調査結果では「前回の調査結果と比較して「苦しい」ほうにシフトしていること」が報告されたが、今回の結果は前回の調査の結果と比較して、全体としてはほぼ同様の状況と考えられる。

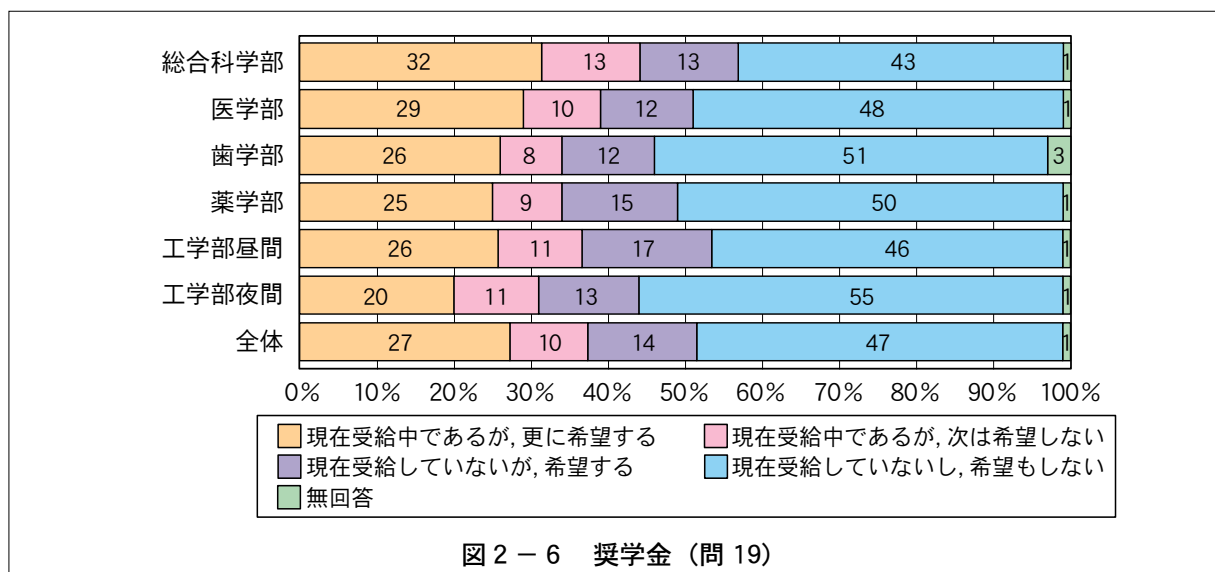
学部別で見ても、全体の傾向と大きく異ならない。ただ、「大変苦しい」が、工学部夜間で13%と最も高い。これに対して、薬学部では5%と最も低く、この傾向も前回の調査とほぼ同様である。本結果から考慮すべきは「大変苦しい」と回答した全体で9%をしめる学生への対応であり、その内容をさらに調査、解析し、奨学金制度等を用いてどのように支援していくかが検討課題である。



## 2-6 奨学金 (図 2-6)

全体として、奨学金を現在受給している学生で「今後も希望する」と回答した学生は27%で、前回の

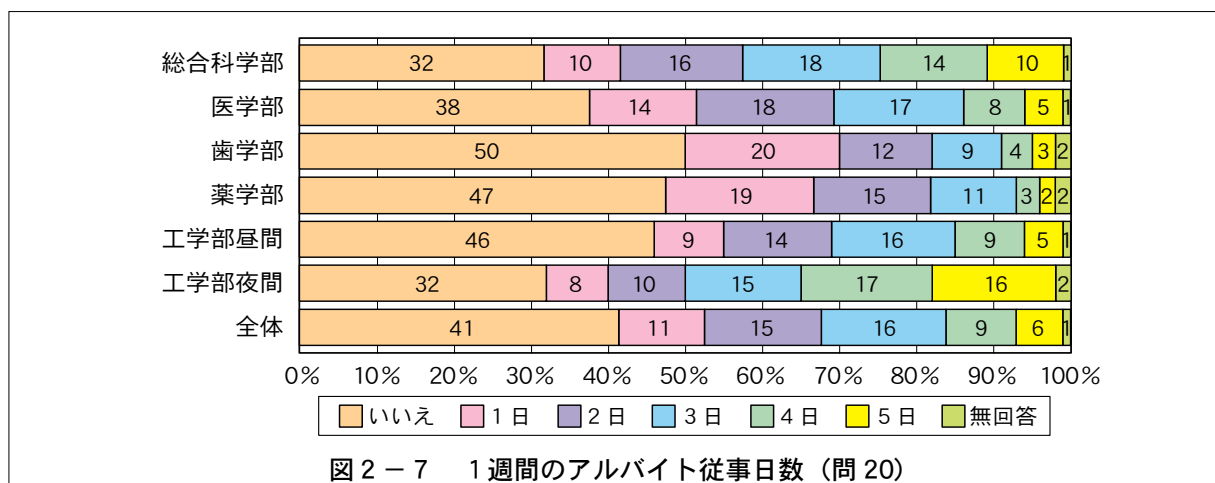
調査結果は27%、前々回の調査結果は22%である。以下、前回および前々回の調査結果と比較する形で各項目を見てみると、「現在受給中であるが、次は希望しない」と回答した学生は10%、6%、9%、「現在受給していないが、希望する」と回答した学生は14%、15%、17%、「現在受給していないし、希望もしない」と回答した学生は47%、51%、50%である。このように、奨学金に関してはここ数年間ほぼ同様な傾向が続いている。学部別で見ると、現在受給中でさらに受給の継続を希望している学生は総合科学部と医学部でやや多く、現在受給していないが次回は受給したいという学生は工学部昼間でやや多い。大学院の調査結果では、「現在受給中であるがさらに希望する」と「現在受給していないが希望する」をあわせて約半数にあたる49%となり、今回の学部学生についてはこの値より若干少ない41%となっている。返還時の負担を考えた結果とも思われ、さらにそれぞれの回答の理由についての調査と解析も必要と思われる。



## 2-7 アルバイト従事日数 (図 2-7)

アルバイトをしていない学生の比率は41%で前回の調査結果42%とほぼ同じ割合である。学部別では、「アルバイトをしていない」の比率は歯学部 (50%)、薬学部 (47%)、工学部昼間 (46%)、医学部 (38%)、総合科学部 (32%)、工学部夜間 (32%) の順に少なくなっている。

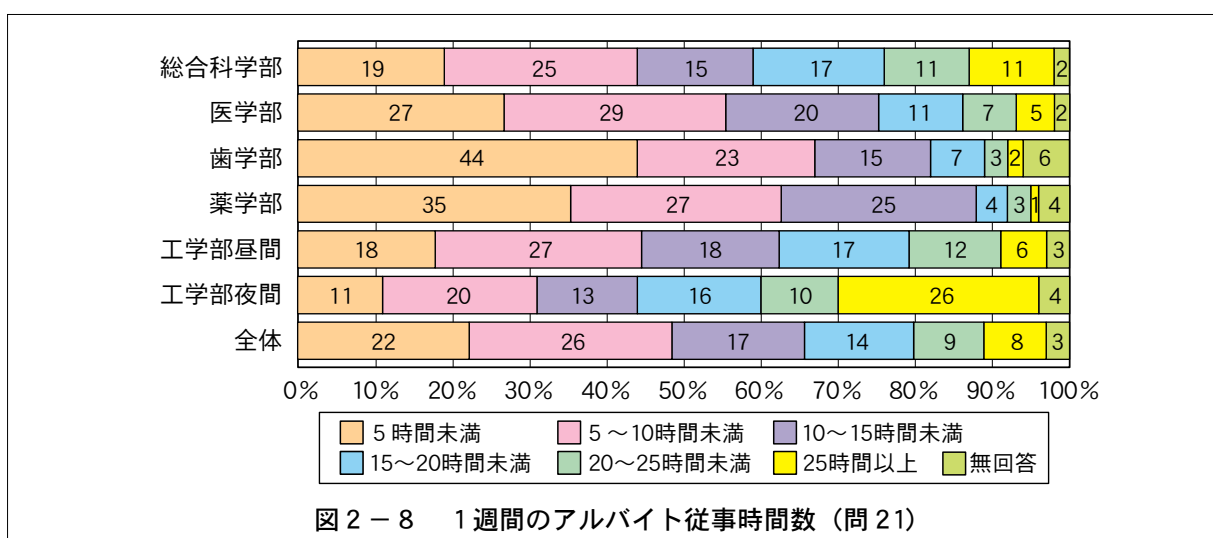
アルバイトをしている学生については、1週間あたりのアルバイト従事日数は2日 (15%) あるいは3日 (16%) の区分が多く、従事日数2~3日がアルバイトをしている学生の平均的従事日数と考えら



れる。工学部夜間は5日以上が16%と多いが、このコースの性格上納得のいく数字であろう。ただ、この数字は前回の32%よりは減っている。なお、大学院の調査結果では、やはり2～3日が最も多い区分であった。

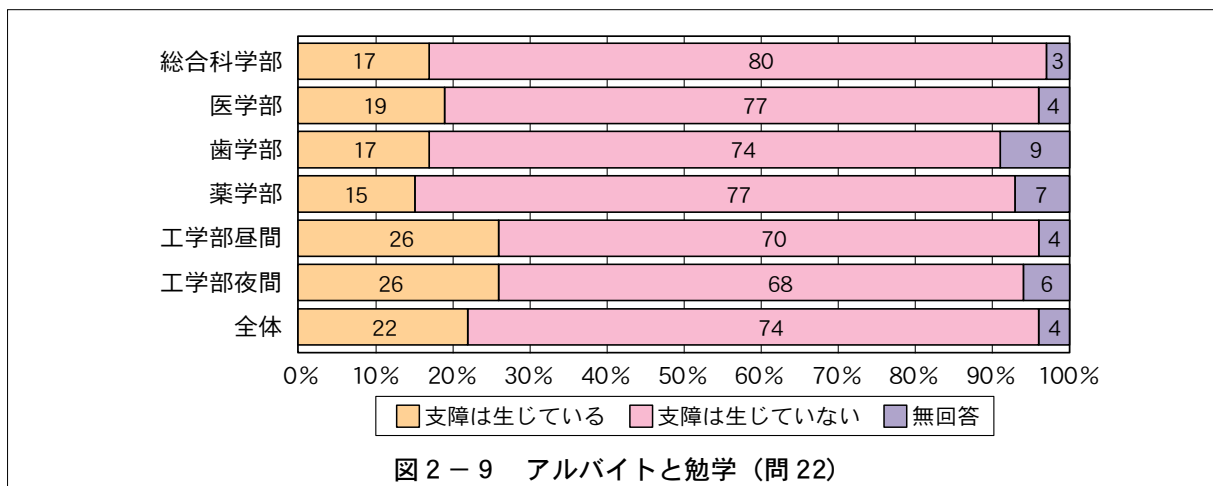
## 2-8 アルバイト従事時間数 (図2-8)

全体では、週5～10時間が26%（前回の調査結果，24%）で、順に5時間未満が22%（25%），10～15時間が17%（24%），15～20時間が14%（18%），20時間以上は合計17%（18%）である。学部別では、工学部夜間を除く5学部では10時間未満が44～67%をしめ、この区分が平均的なアルバイトの従事時間になると考えられる。工学部夜間では20時間以上が36%（45%）と多い割合であり、やはりこのコースの性格によると思われる。ただし、前回の調査結果と比較して、少ないほうへシフトしている。



## 2-9 アルバイトと勉学 (図2-9)

今回の調査で初めてこの設問を行った。全体としては、74%が支障は生じていないと回答している。ただし、工学部昼間と工学部夜間で、「支障は生じている」と答えた学生は、ともに26%と他学部の15～19%に比較して多くなっている。2-8のアルバイトの従事時間を参照すると、工学部昼間および工学部夜間における5時間未満が他学部と比較して少ないが、このことがこの一因とも思われる。次回の



調査では具体的な支障等について調査すべきと思われる。

## 2-10 アルバイトの目的 (図2-10)

複数回答が可能な設問であるが、アルバイトの目的として最も多いのは「日常の娯楽・嗜好品等のため」の購入で32%（前回の調査結果、32%）、次いで、「生活費や学費のため」が26%（28%）、「レジャー・旅行費のため」が14%（15%）であり、前回の調査結果とほぼ同じ傾向である。男女別の差もほとんどない。ただし、「レジャー・旅行費のため」の回答については、男子学生の16%は女子学生の11%より若干多い。

2-5の経済状況に関する設問で、「やや苦しい」が27%、「大変苦しい」が9%と答えた学生の比率の合計36%と本設問の「生活費や学費のため」と回答した比率の26%との間にやや差があるものの、ほぼ対応する結果と解釈できる。

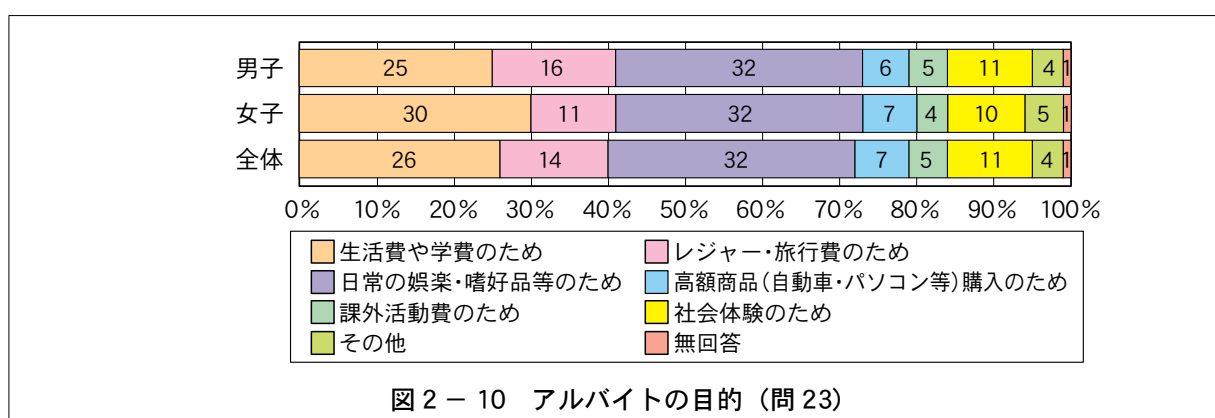


図2-10 アルバイトの目的 (問23)

## 2-11 アルバイトの種類 (図2-11)

アルバイトの種類では家庭教師・学習塾講師等が最も多く33%（前回40%）を占める。次いで、飲食店等手伝い25%（前回20%）、受付・接客17%（前回13%）、商品販売9%（前回10%）となっている。すなわち、前回調査時と比較すると飲食店手伝いと受付・接客の比率がそれぞれ5%および4%増加している。男女間を比較すると、家庭教師・学習塾講師等の比率は男子（38%）が女子（22%）より多く、受付・接客は女子（21%）の方が男子（15%）より高い比率となっているが、その他の項目には男女差が見られない。

飲食店等手伝いは体力的にも時間的にも学生の負担が大きく、この職種が増加していることが気になる。

問の内容についてだが、「飲食店等手伝い」を「飲食店手伝い」とした方が具体的で良いだろう。また

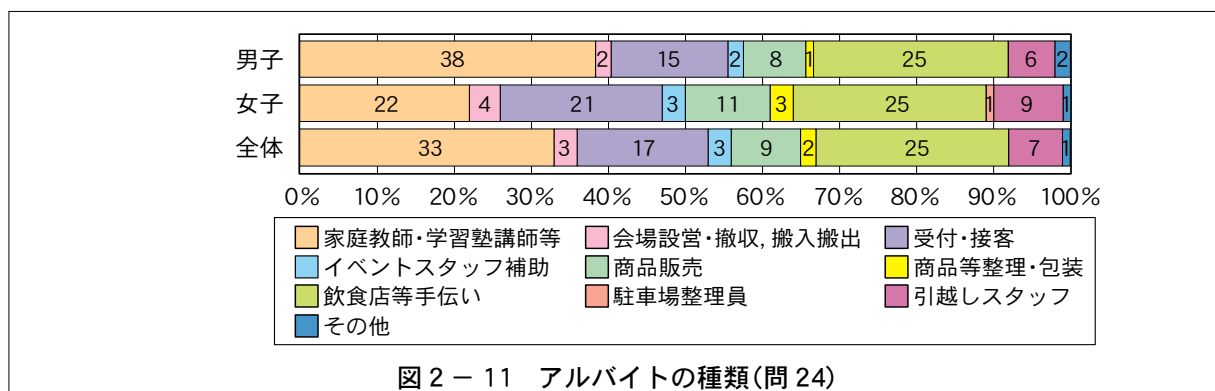


図2-11 アルバイトの種類(問24)



「引っ越しスタッフ」と「駐車場整理員」は他の項目と比較して具体的すぎて回答が0～1%である。次回は後2者の項目を削除してもよいと思われる。

## 2-12 アルバイト収入 (図2-12, 図2-13)

アルバイトによる収入は3万円未満が30% (前回32%), 3～5万円未満34% (前回33%)で、5万円未満が全体の64%を占める。5～7万円は20% (前回19%), 7～10万円10% (前回12%), 10万円以上4% (前回4%)で、前回とほぼ同じ比率である。男女間で比較すると、5万円未満では男子58%, 女子72%である。これは女子の方が男子と比べて「軽いアルバイト」(負担がかからない)を行っている傾向があるからであろう。5万円以上の収入を得ている男子は38%, 女子は25%であり、これらの学生は労力と時間をかなり割いて働いているに違いない。

学部間を比較すると、歯学部以外は3万円未満と3～5万円未満の比率がほぼ20%前後で同じ割合である。5万円以上の収入を得ている学生については歯学部と薬学部の比率が目立って小さい。両学部で

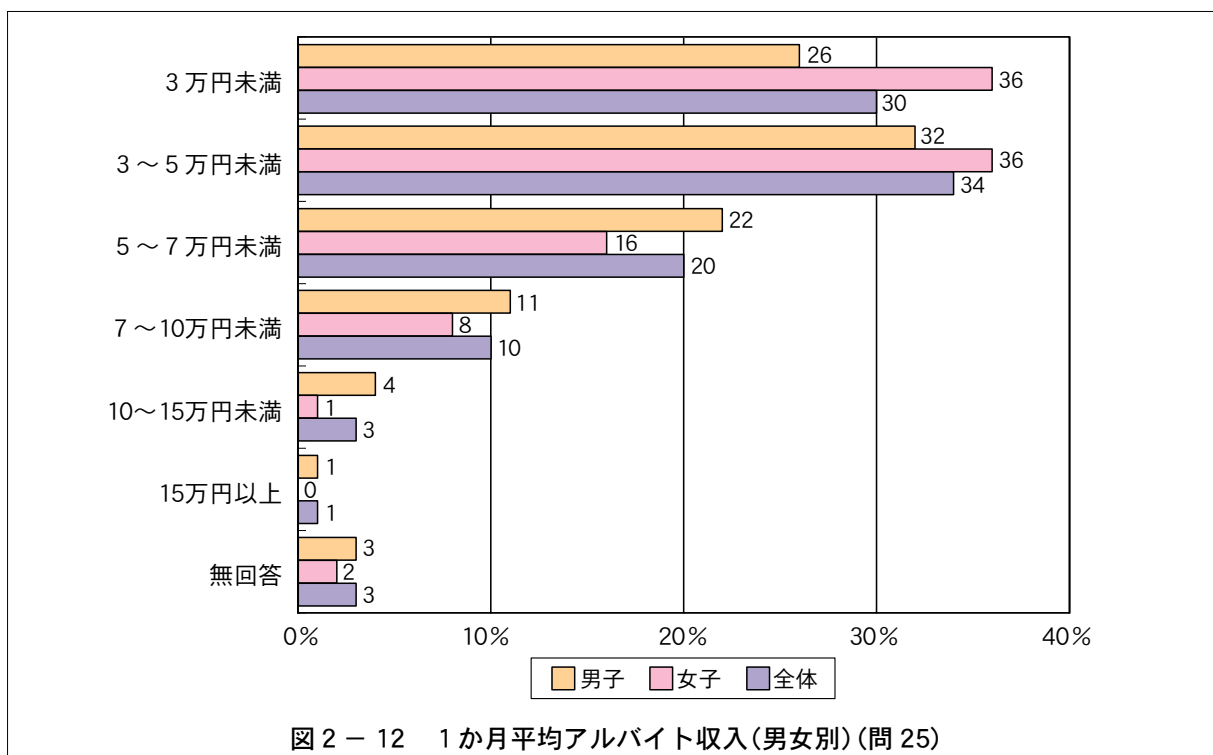


図2-12 1か月平均アルバイト収入(男女別)(問25)

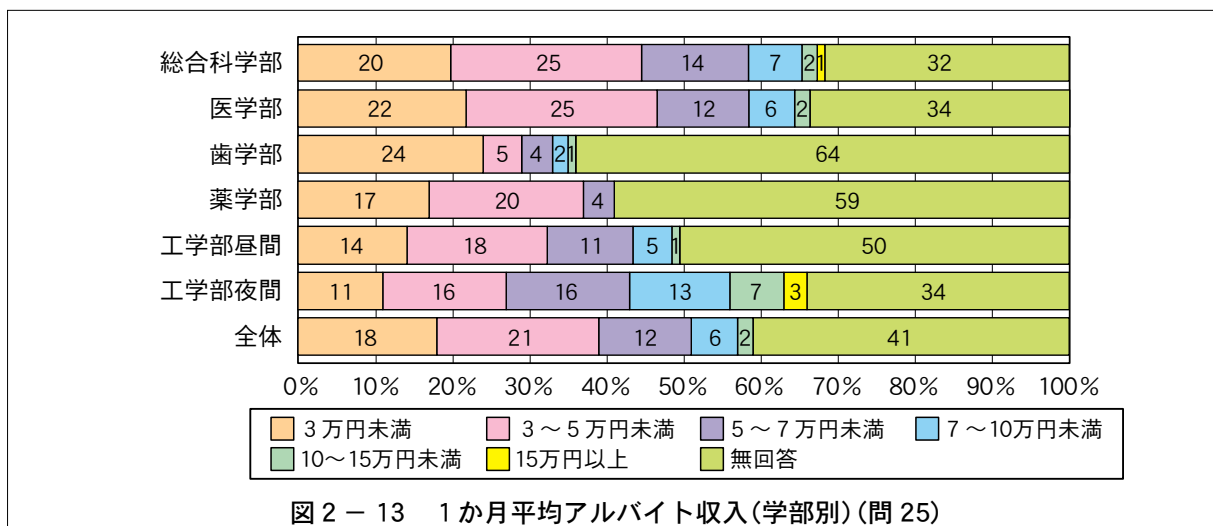
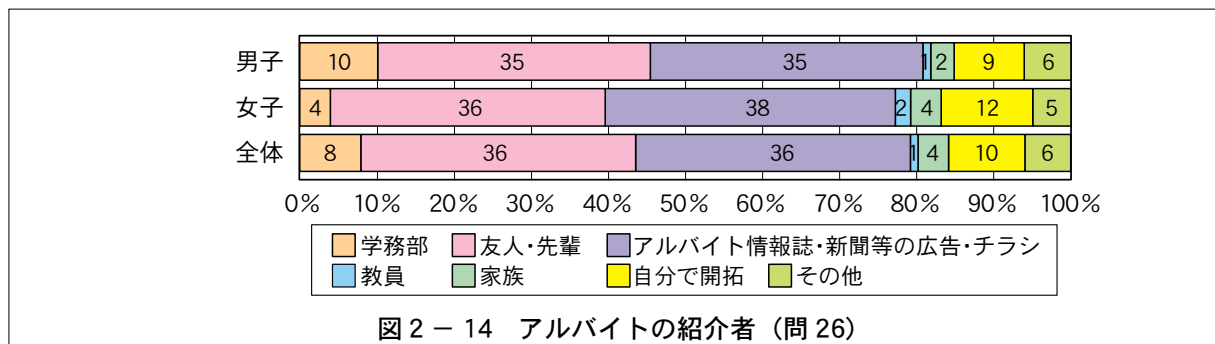


図2-13 1か月平均アルバイト収入(学部別)(問25)

はアルバイトをする時間が限られているためなのだろうか？

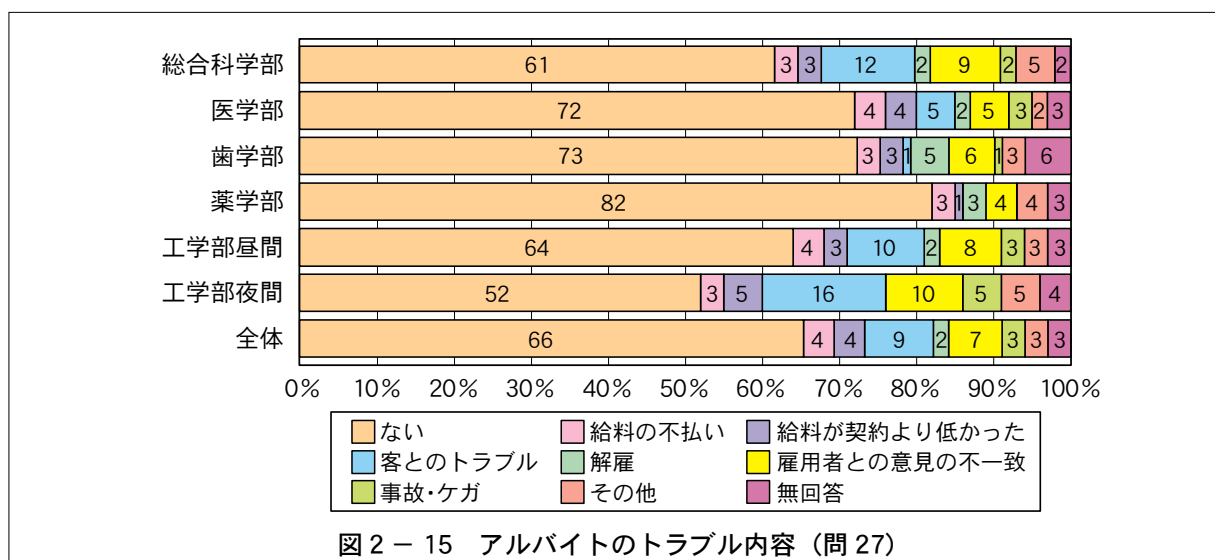
## 2-13 アルバイトの紹介者 (図2-14)

アルバイトの紹介者は、「友人・先輩」が36%、「アルバイト情報誌・新聞等広告・チラシ」が36%で、この2つで70%を超える。「自分で開拓」した者も10%いて、これらの傾向は前回調査とほぼ同じである。「学務部」は8%と前回(6%)よりやや向上しているが依然として低い割合である。ネットや情報誌が発達した状況を反映しているとしても、学生を助ける立場にある学務部として、この比率を10%以上に引き上げることが望ましい。



## 2-14 アルバイトのトラブル内容 (図2-15)

アルバイトをしていてトラブルを経験した人は31%で、前回(25%)、前々回(19%)と比較すると割合が増加してきている。工学部夜間では44%(前回33%)の学生が何らかのトラブルを経験している。従事時間が長いことを反映している数値だろうが、トラブルの内容を具体的に把握するなどの対応をする必要がある。次いで総合科学部の37%(前回28%)、工学部昼間の33%(前回27%)、医学部の25%(前回20%)、歯学部の21%(前回17%)といずれも増加し、薬学部の15%(前回19%)だけがやや減少している。内訳としては「客とのトラブル」が最も割合が高い。一步誤ると事件に巻き込まれる可能性もあり、アルバイトをする学生に予め注意を促す必要があるだろう。



# 第3章 健康状態について

## 3-1 睡眠時間 (図3-1, 図3-2)

睡眠時間は健康的な睡眠時間と考えられる「6～8時間」が最も多いが、「4～6時間」と睡眠不足と考えられる学生も、男子39%、女子46%と非常に高率であり、さらに「4時間未満」と過度の睡眠不足と思われる学生も男子で4%、女子で3%ほど存在する。特に、医学部、歯学部、薬学部の女子では、「4～6時間」が「6～8時間」を逆転しており、睡眠不足の学生が目立つ状況となっている。睡眠不足は集中力や活動能力の低下に繋がる可能性があり、改善の必要があると考えられる。

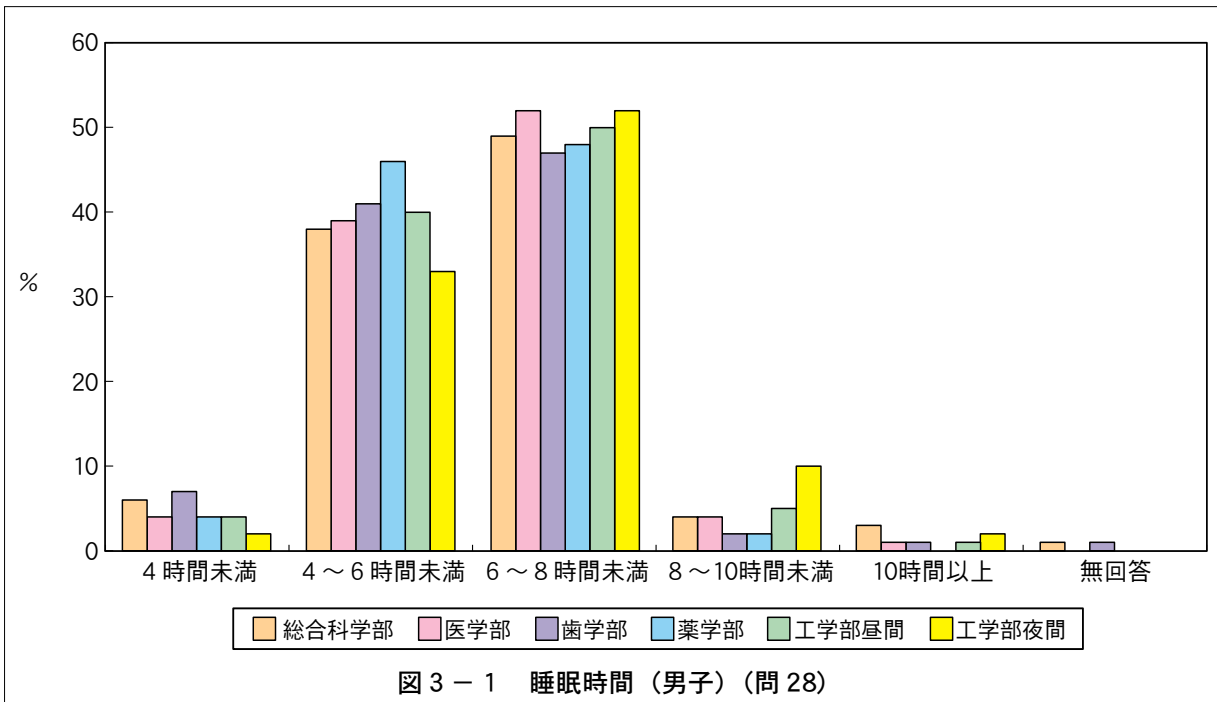


図3-1 睡眠時間 (男子) (問28)

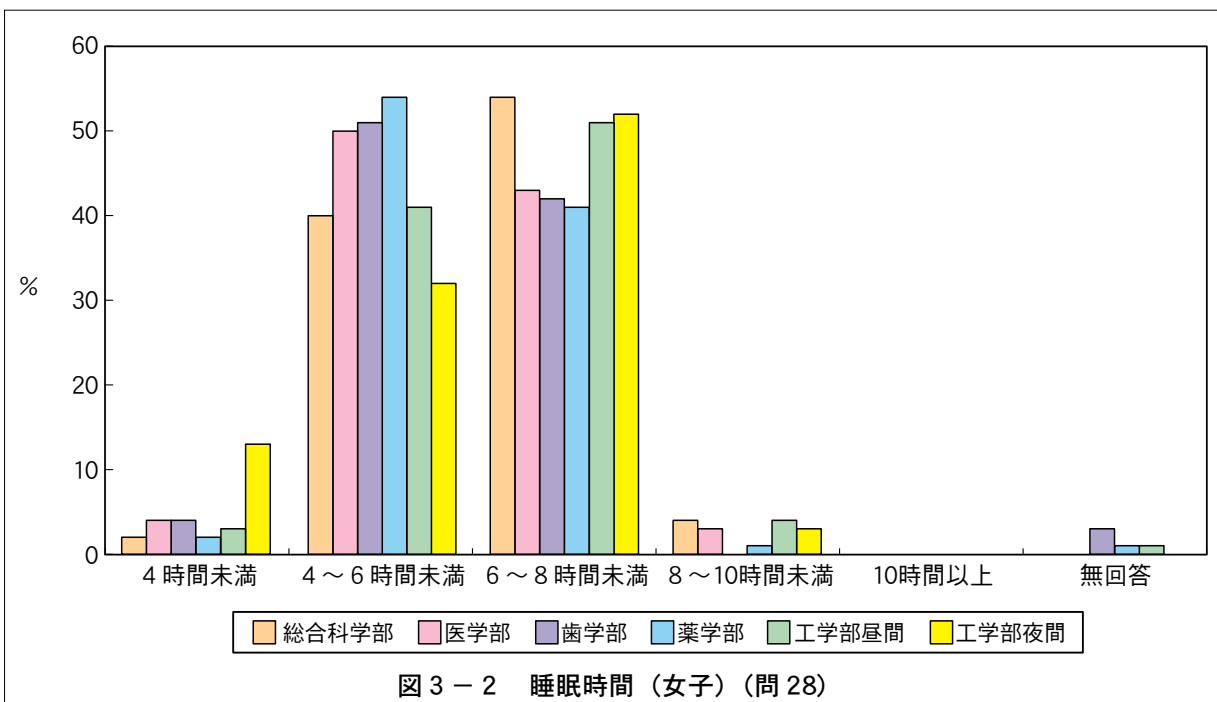


図3-2 睡眠時間 (女子) (問28)

### 3-2 気になる症状 (図3-3, 図3-4)

何らかの気になる症状を持つ学生は男子で約48%, 女子で約67%, と男女とも非常に高率となっている。男子では、「頭痛・めまい」、「アトピー・アレルギー」、「不眠」などが10%を超える率を示しているが、特に目立って頻度の高い症状は認められない。一方女子では、半数以上が何らかの症状に悩まされており、その症状も「生理痛・生理不順」、「頭痛・めまい」、「下痢・便秘」の順となっており、女子特有の症状が特に目立っている。以上の結果より予想以上に健康面で問題を抱えていることが認識された。こうした症状は生活の質 (QOL) とも密接に関連するため生活指導等の対策が今後必要であると考えられる。

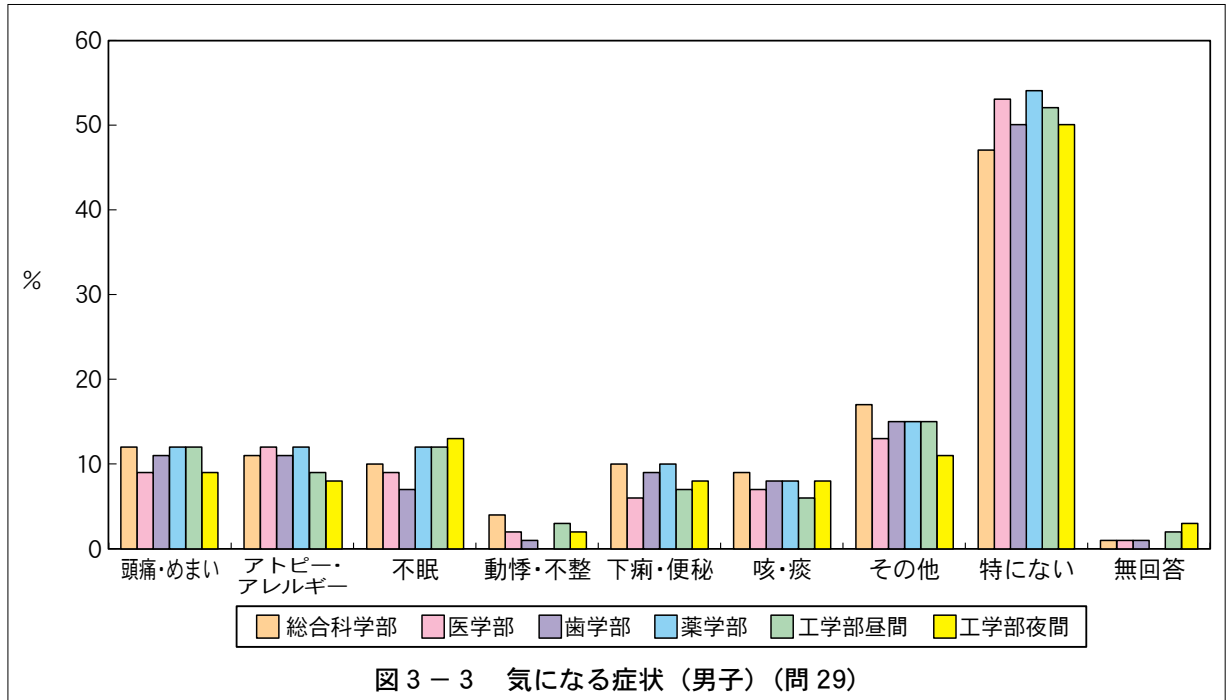


図3-3 気になる症状 (男子) (問29)

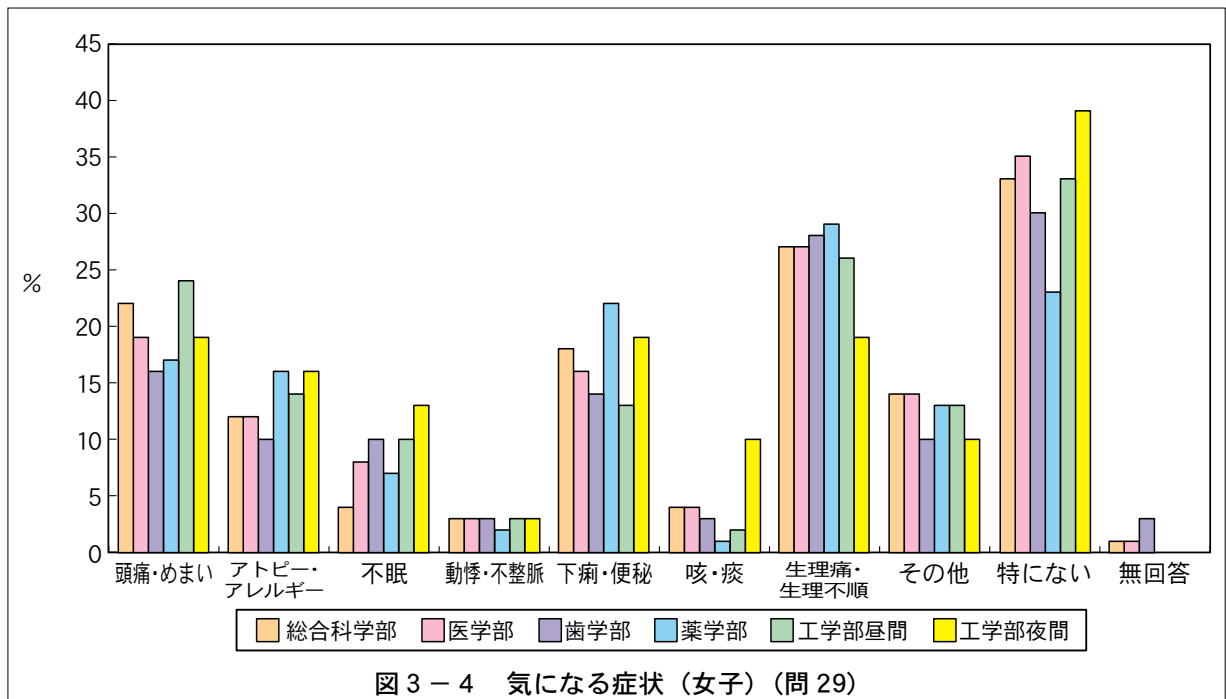


図3-4 気になる症状 (女子) (問29)

### 3-3 主な悩みや不安 (図3-5, 図3-6)

悩みや不安として最も多かったのが「勉強」であり、次いで「就職や進路」、「交友・異性関係」となっており、男女間で大きな差は認められなかった。これらは学生時代、青春時代には直面せざるを得ない問題であり、想定内の結果である。一方「身体的不調」を「主な悩みや不安」として回答した割合は男女とも10%未満であり、前質問のような「気になる症状」があっても深刻な悩みに発展する割合は少ないのかもしれない。

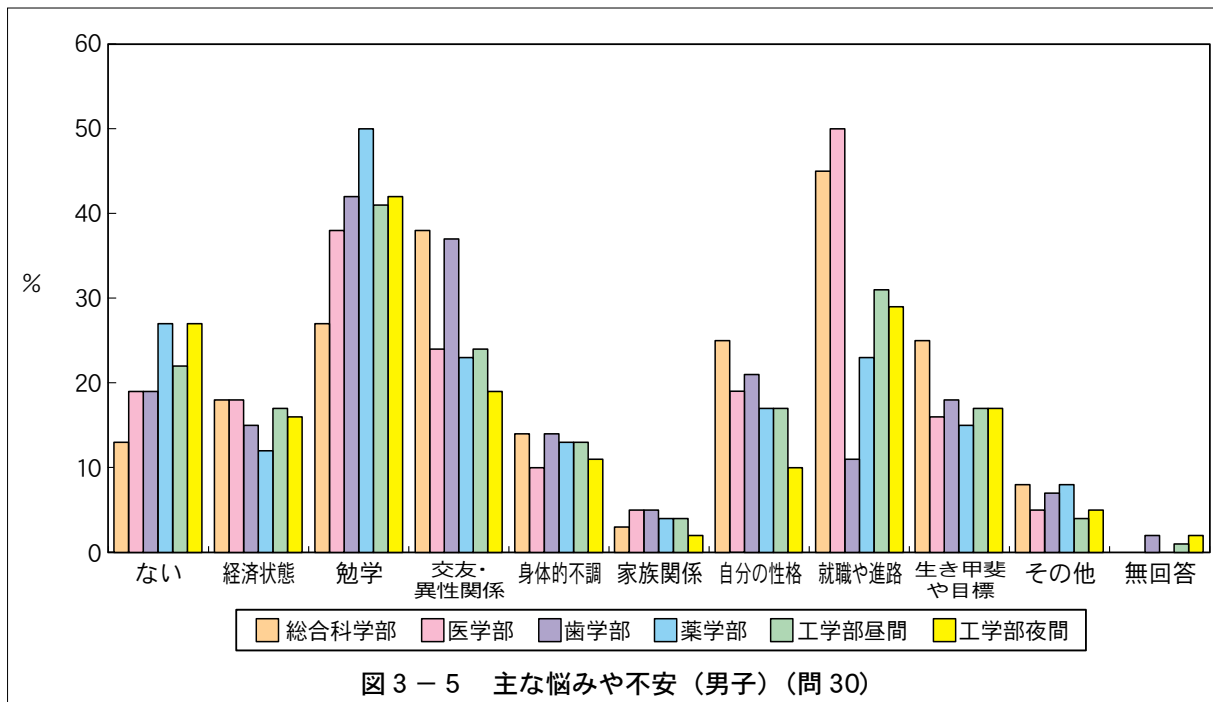


図3-5 主な悩みや不安 (男子) (問30)

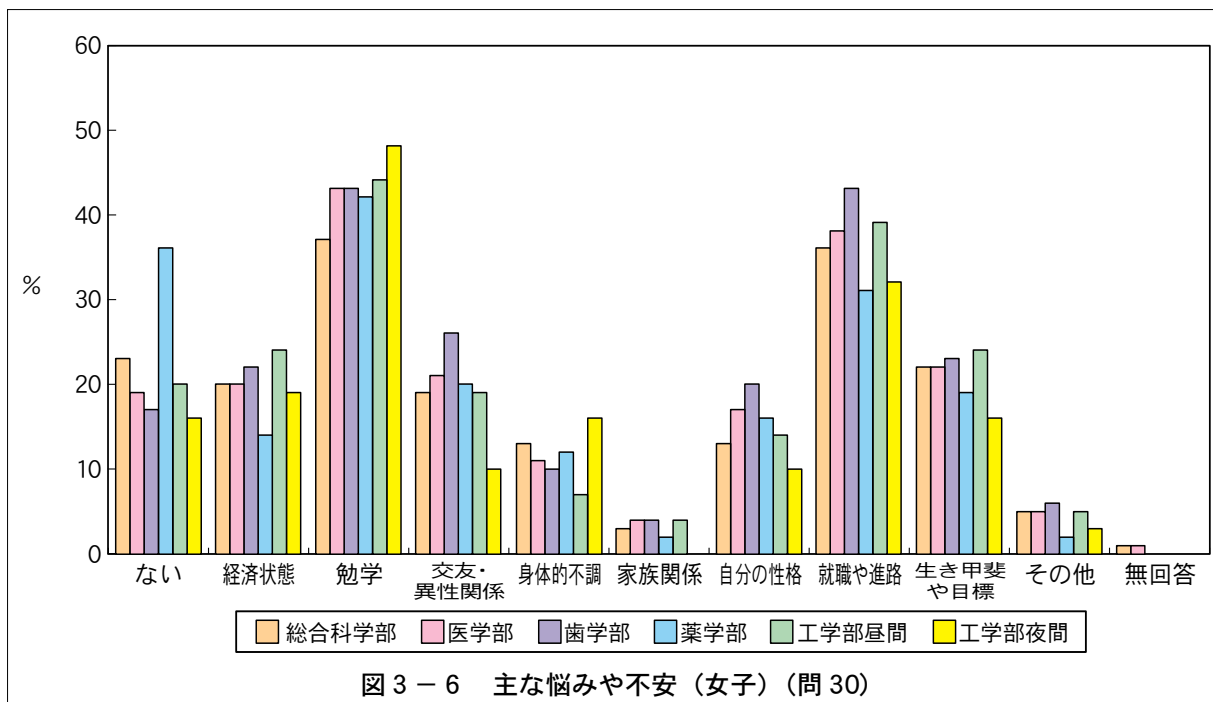


図3-6 主な悩みや不安 (女子) (問30)

### 3-4 相談相手 (図3-7, 図3-8)

悩み事の相談相手は「友人」や「家族」がほとんどであり、最も身近な人が相談相手となることが多い。特に「友人」を相談相手とする場合が最も多く、頼れる友人を持っているかどうかは、精神衛生上大きな要因であると考えられる。一方大学の教員や相談室が相談相手の対象となる割合は非常に少ないが、友人や家族で解決できないような深刻な悩みの相談では、重要な役割を果たしていると思われる。また「誰にも相談しない」との回答は、男子では19%、女子では28%と女子で高い割合を示した。この結果は、17年度の大学院生を対象とした調査で「誰にも相談しない」と回答した女子が少数であったのとは対照的である。調査年齢が若いため特に女子では、悩みへの対処法がまだうまく確立できていないのかもしれない。

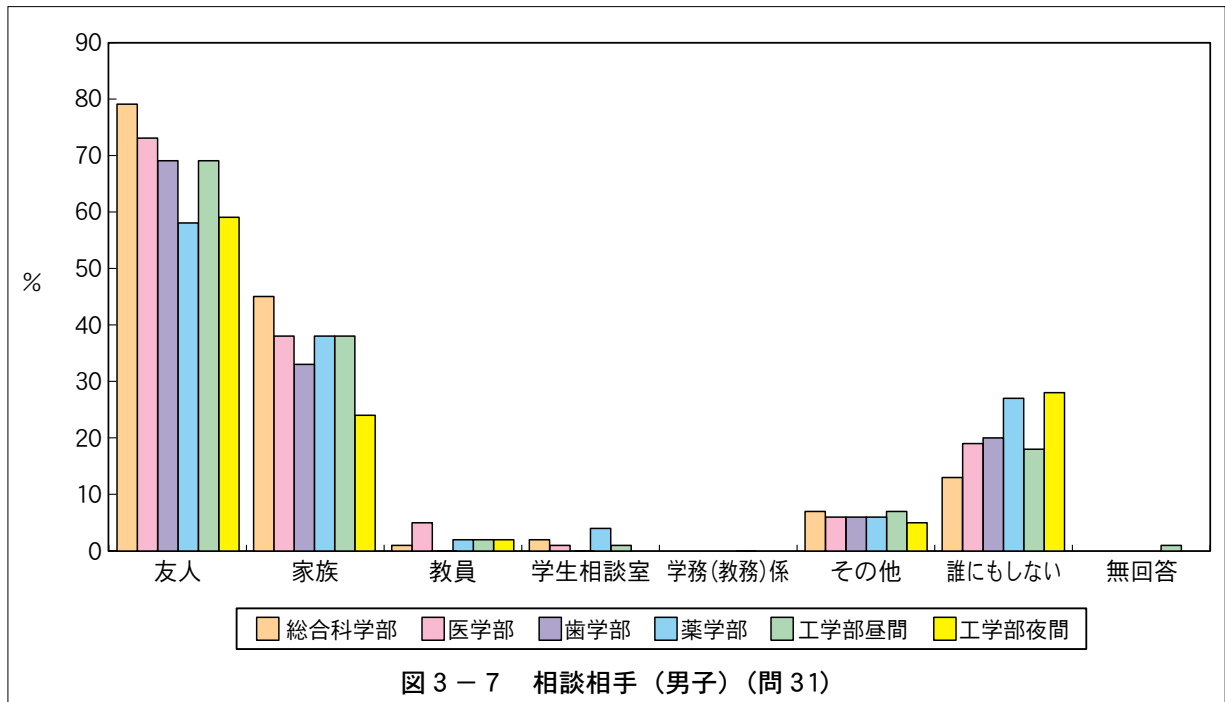


図3-7 相談相手 (男子) (問31)

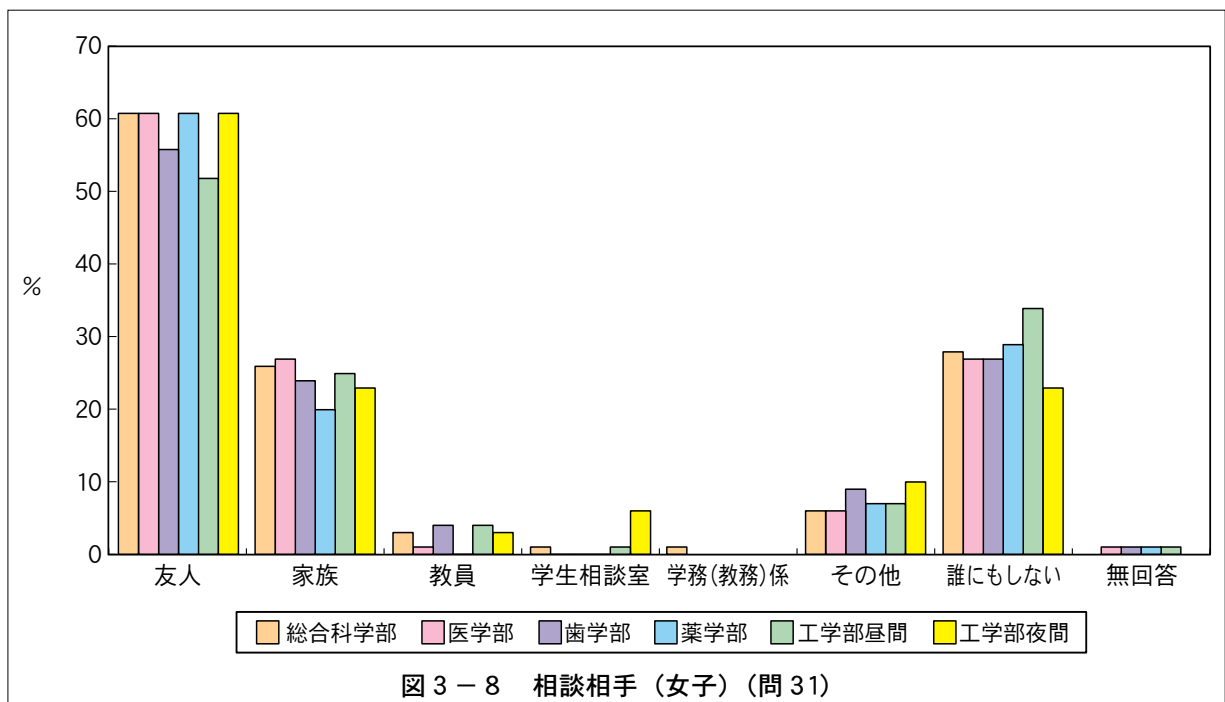


図3-8 相談相手 (女子) (問31)



### 3-5 現在の精神状態 (図3-9, 図3-10)

「精神的に安定している」と回答した学生が最も多く男女とも40%程度である。その次に「なんとなく不安」であると回答した学生が多く、将来が見通せない社会状況を反映しているのかもしれない。一方で、「落ち込みやすい」と回答した学生は男子に多く、やや精神的に不安定な者が多いのかもしれない。また「やる気が出ない」とする回答は女子で多く、男女で最も差が顕著な回答となっており、女子で学生生活での充実感がやや低い傾向が認められる。

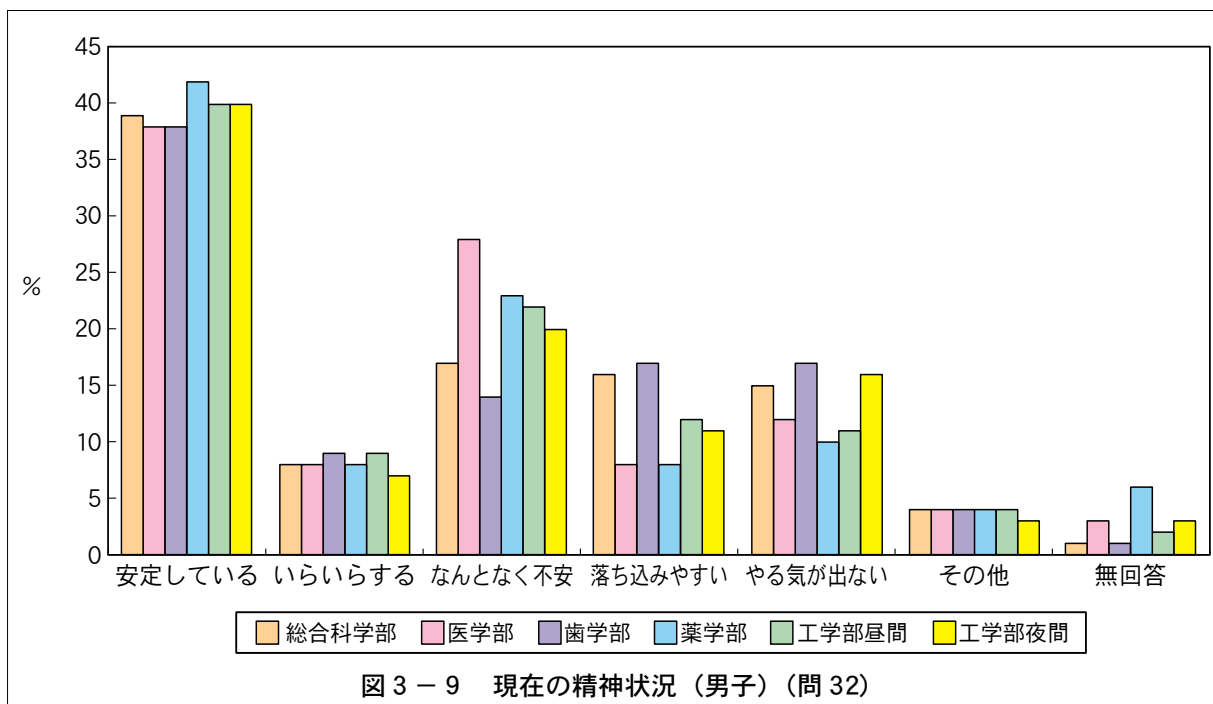


図3-9 現在の精神状況 (男子) (問32)

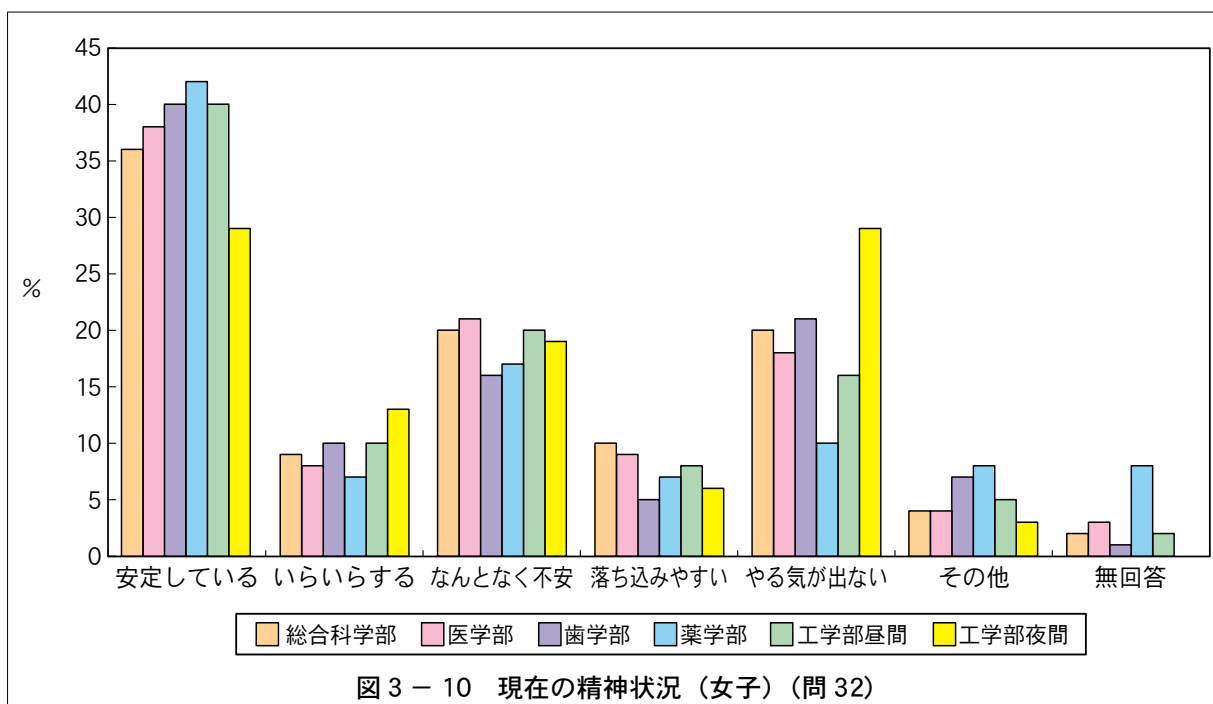
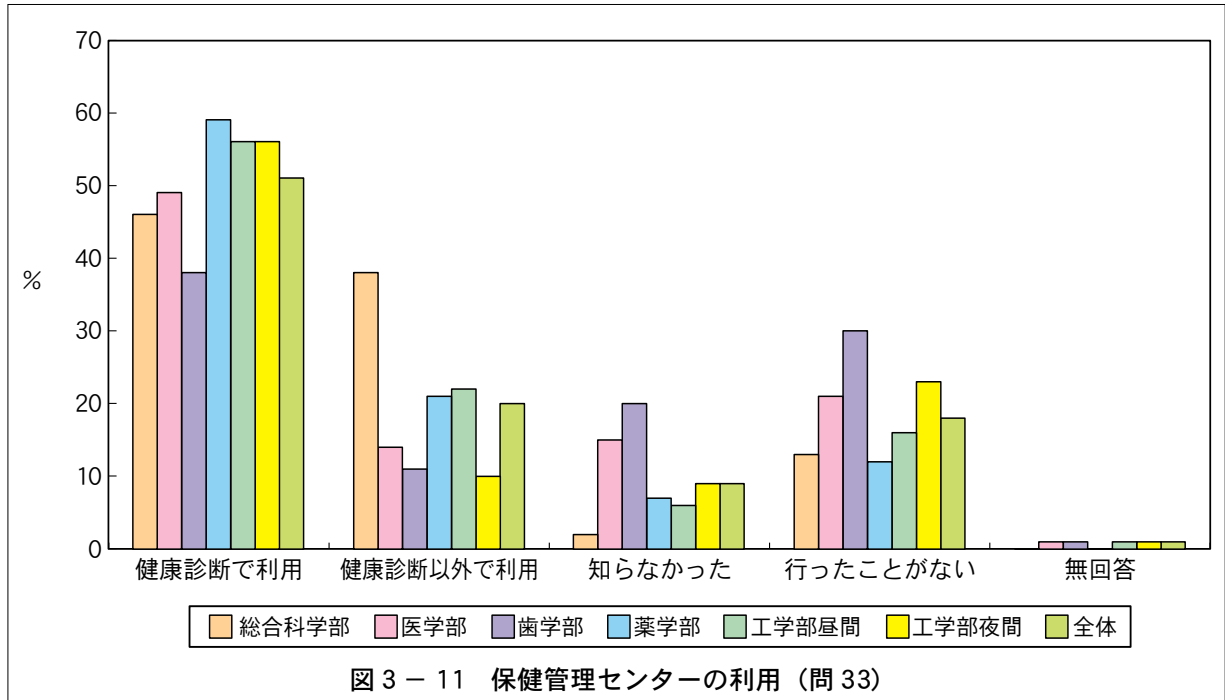


図3-10 現在の精神状況 (女子) (問32)

### 3-6 保健管理センターの認識 (図3-11)

常三島地区では保健管理センターの利用率および認識率はある程度高い状態となっているが、医学部および歯学部学生では「保健管理センターを知らない」とするものが、各15%および20%存在し、保健管理センターの周知が十分ではない状況が認められる。また「利用したことがない」とする回答は同様に医学部および歯学部学生に多く、さらに工学部夜間の学生については通学時間に保健管理センターが開いていないために利用者は少ない。今後は蔵本地区の学生に対して、保健管理センターの活動を周知徹底するとともに、蔵本地区分室を充実させるなどの改革をおこない、蔵本地区における保健管理センターのサービス向上を図る必要がある。



# 第4章 食事について

## 4-1 朝食 (図4-1, 図4-2)

朝食をとらない学生は23%であり、前回の調査に比べ3%減少している。男子が3%、女子が1%の減少であった。一方、朝食をとっているものは、男子38%、女子67%で前回の調査より、それぞれ1%、4%増加していた。これらの結果は、学生の健康志向の増加として伺える。

家族と同居である場合と一人暮らしの場合とで朝食をとるものの割合を比較すると、それぞれ46%、40~58%で、顕著な差は認められなかった。前回の調査では、家族と同居の場合に67%の学生が朝食をとっていたことから、今回の結果は、朝食をとる生活習慣の意義を繰り返し指導することがなお一層必要であることを示している。留学生が全く朝食を毎日とらないという結果は、文化の違いとも関連するであろう。

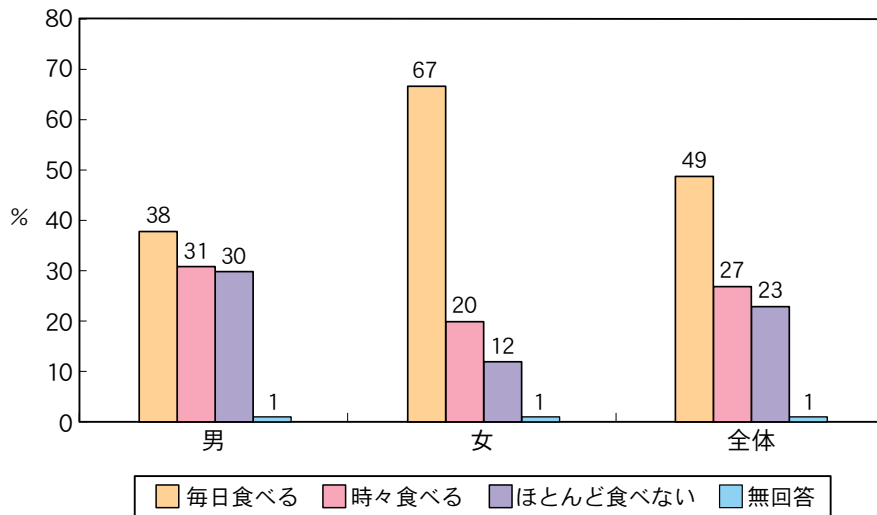


図4-1 朝食について (問34)

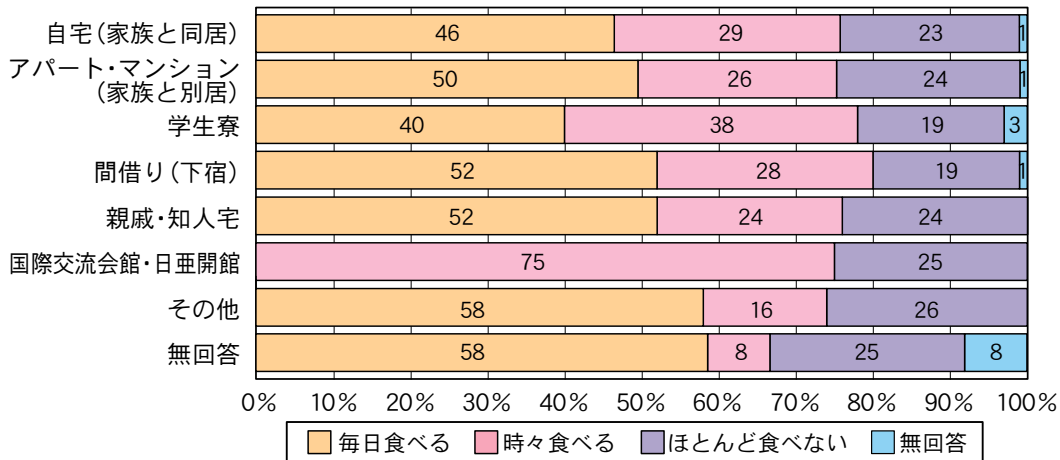
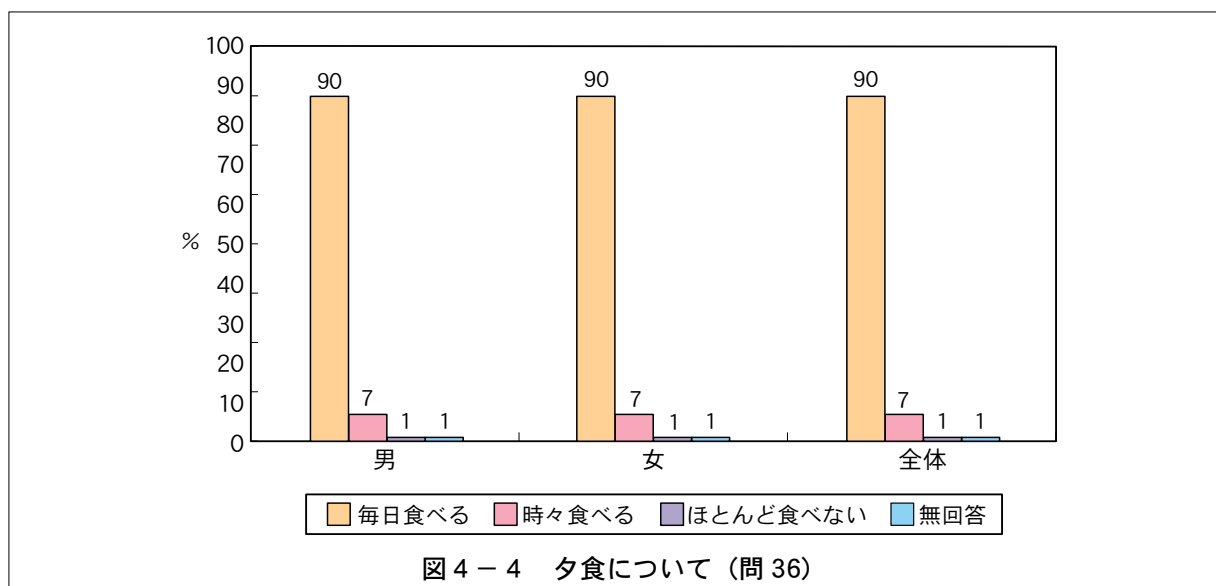
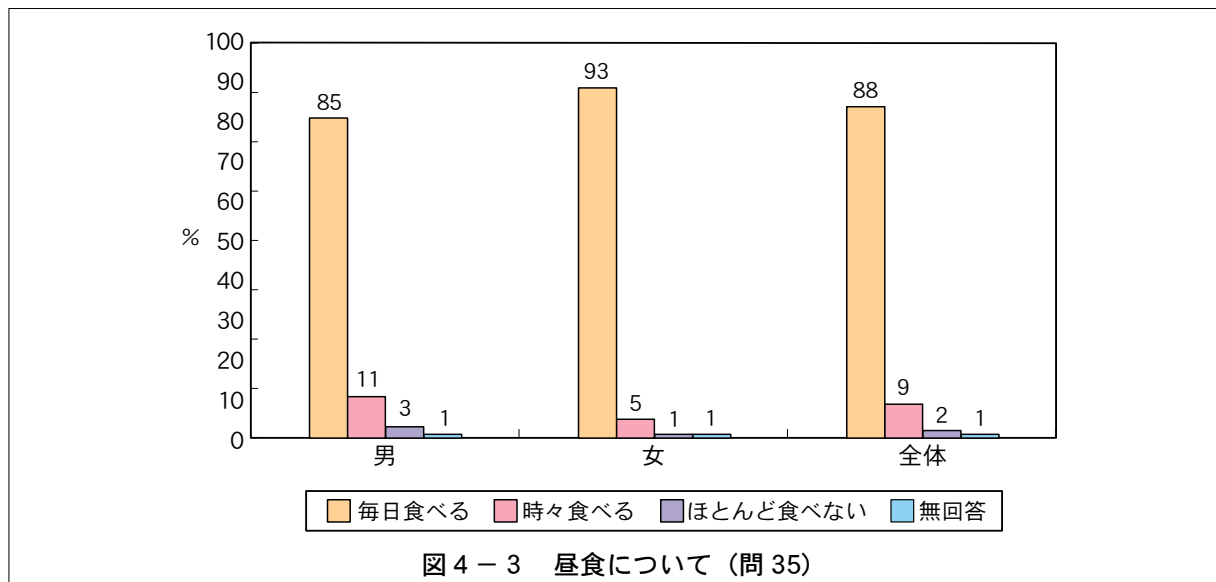


図4-2 朝食と住居区分 (問34)

## 4-2 昼食と夕食 (図4-3, 図4-4)

毎日昼食をとっている学生は88%, 夕食をとっている学生は90%である。

一方, 昼食を毎日とらない学生は11%, 夕食をとらない学生は8%いる。これらは前回の調査結果に比べ, それぞれ1%減, 1%増でほぼ同様であった。引き続き, 食育指導の必要性があると言える。



## 4-3 昼食の利用場所 (図4-5)

常三島第1食堂(生協), 常三島第2食堂(工学部構内), 蔵本会館食堂, 弁当, 自宅(下宿)を利用する学生は, それぞれ27%, 5%, 7%, 22%, 14%であり, 前回と比べると, 1%増, 1%増, 1%減, 1%減, 1%減で傾向はほぼ同様である。蔵本地区の学生においては28%の学生が蔵本食堂を利用しており, これは前回の調査結果より, 8%の増加が認められる。

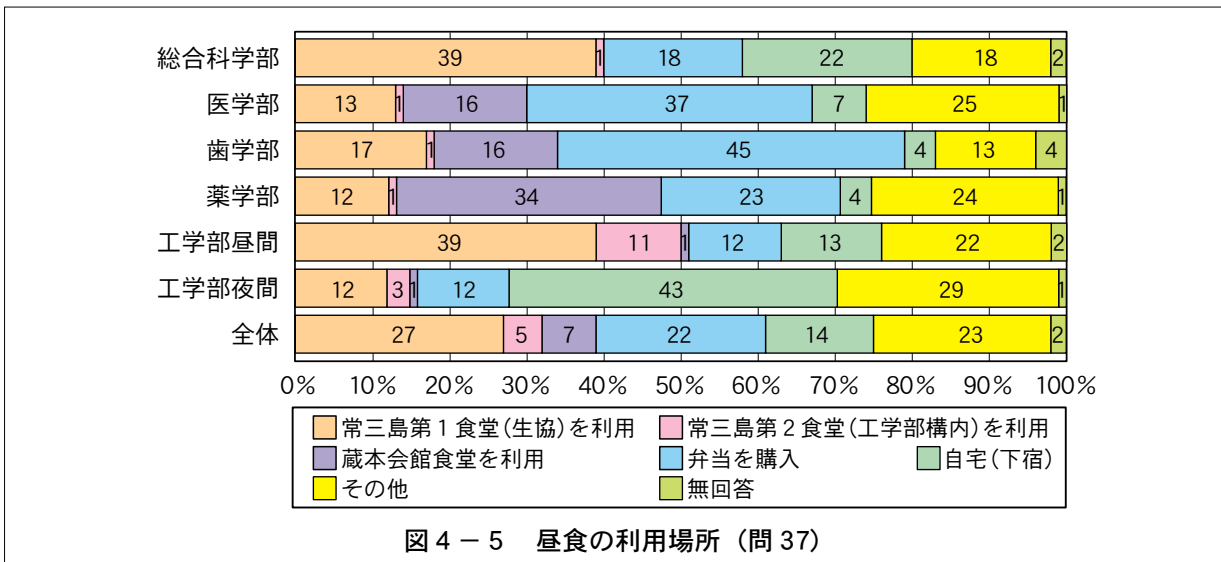


図 4 - 5 昼食の利用場所 (問 37)

#### 4 - 4 弁当を食べる場所 (図 4 - 6)

弁当を食べる学生は73%が教室，7%が建物外，6%が自宅である。前回と比べると教室の割合が12%増加し，建物外と自宅がそれぞれ7%，4%減少している。

このことは，学生のアメニティーとして教室以外にも食事場所の確保と充実が課題であることが伺える。引き続き，各部局や大学当局の努力や施設部との相談が必要な点である。

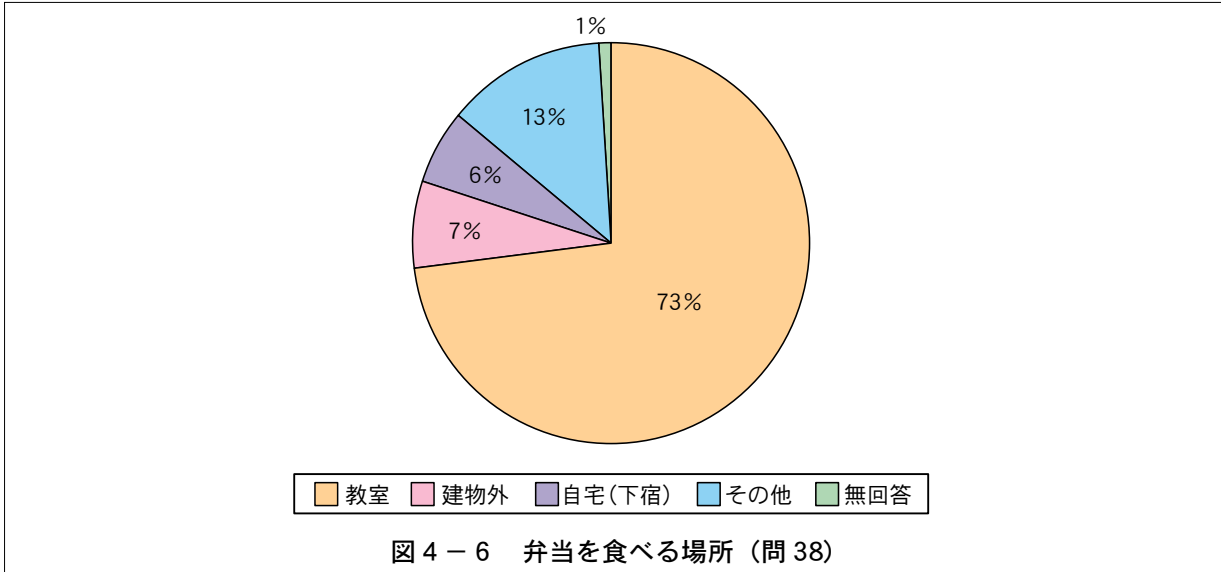
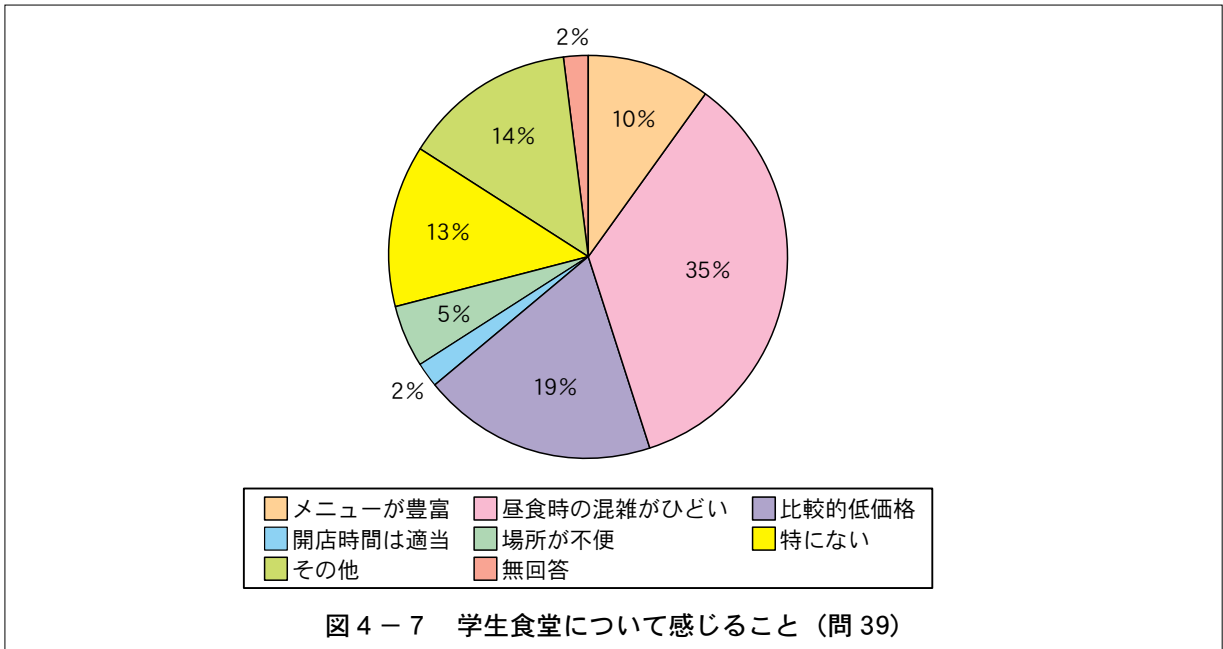


図 4 - 6 弁当を食べる場所 (問 38)

#### 4 - 5 学生食堂について感じる事 (図 4 - 7)

昼食時の混雑がひどいと答えた学生が前回調査と同じ35%いる。さらに低価格である，メニューが豊富であると答えたものは，それぞれ2%減の19%，1%減の10%であった。開店時間や場所の不便さについてはほぼ同様の2%と5%であった。これらの結果から，学生食堂については，改善がなされていないことが伺える。徳島大学病院では，コーヒー店，うどん店，コンビニなどのチェーン店が導入されており，患者様のみならず，学生，職員のニーズに答えるべく改善努力が進んできた。常三島，蔵本両地区の食堂運営者には一層の改善努力が必要であろう。



# 第5章 学生生活上の問題点

## 5-1 大学生生活の意義

[項目間での比較] (図5-1)

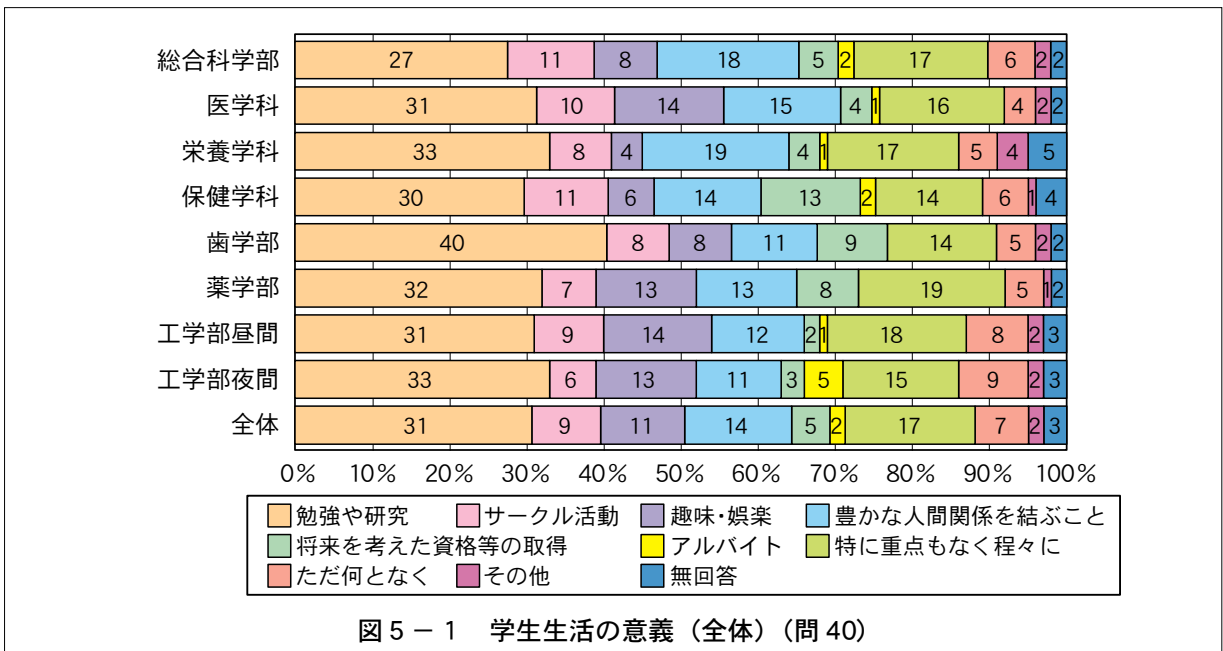
どの学部・学科でも、「勉強や研究」が一位、ついで「特に重点もなく程々に」と「豊かな人間関係を結ぶこと」が2位か3位を占めている。前回と比較して、「勉強や研究」の割合がどの学部・学科でも微増し、また、「豊かな人間関係を結ぶこと」が2位のことが少し多くなっている。ついで「サークル活動」・「趣味・娯楽」、「将来を考えた資格等の取得」・「ただ何となく」の順で、「アルバイト」が最後に来る。これは前回の結果とあまり変わらない。

「勉強や研究」の割合が少しながらも増加してきたことは喜ばしいが、「特に重点もなく程々に」や「ただ何となく」が依然1/4から1/5を占める現状には憂慮するものがある。大学入門講座等の初期教育の重要性もさることながら、大学で学ぶことの意義を明確化するための「常在的なキャリア教育」の取組が必要と思われる。

[学部・学科間での比較] (図5-1)

「勉強や研究」が歯学部で特に高い値を示している。前回特に値の低かった栄養学科や保健学科では、他学部・学科とほぼ同じ値に増加している。「将来を考えた資格等の取得」の割合は保健学科が高く、歯学部と薬学部でも比較的高い。「趣味・娯楽」の割合が栄養学科や保健学科で低く、総合科学部と歯学部でも比較的低い。

歯学部では、進学・就職ガイダンスの一環として、卒後約10年の卒業生4～5名（歯科医師）による特別講演会を、平成10年度から年1回開催してきた。日曜日午後という時間帯にもかかわらず、予想を上回る学生が出席している。先人の話を聞いて勉学意識を高めてもらうのが目的であり、今後は低学年にも対象を広げ、キャリア教育にまで高めていく必要がある。キャリア教育では、どんな理論よりも、「大学での学びが社会で実際に役立つ姿」を見せるのが一番有効と思われる。



### [学年間での比較]

4年制学部・学科（図5-2）の場合、学年進行とともに「勉強や研究」の割合が増加し、「サークル活動」や「特に重点もなく程々に」は減少している。大学での学びの成果と思われる。前回では「特に重点もなく程々に」が必ずしも減少していなかったことを思うと喜ばしい。一方、6年制学部・学科（図5-3）の場合、「勉強や研究」が低学年で低く、中間学年で高まり、最終学年でやや減少しており、前回と同様の傾向が続いている。最終学年での臨床実習が、必ずしも勉学意識にとってプラスには働いていないことを示している。「サークル活動」や「趣味・娯楽」が高学年で高まるのもその反映かもしれない。学生の勉学意欲を高める工夫が臨床実習には求められる。

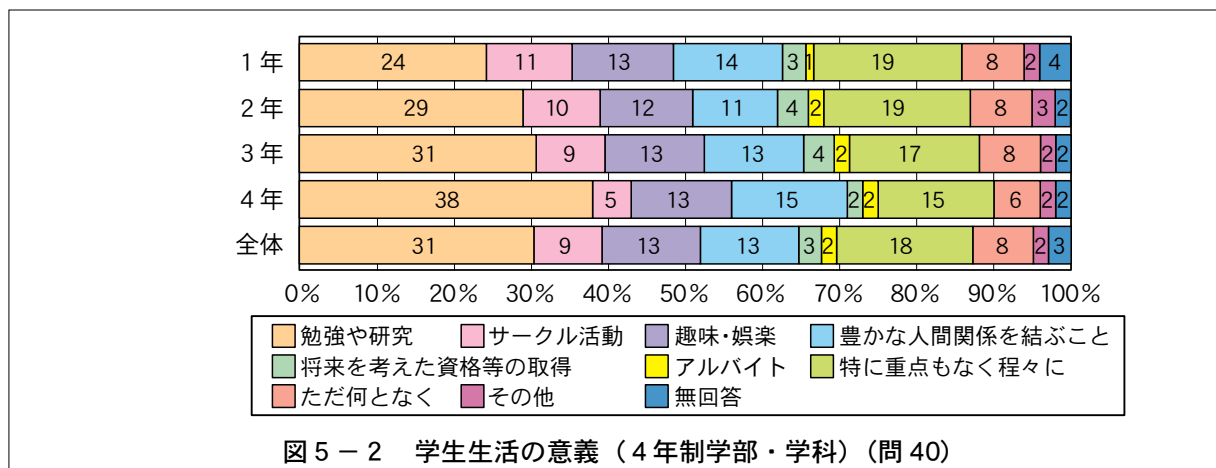


図5-2 学生生活の意義（4年制学部・学科）（問40）

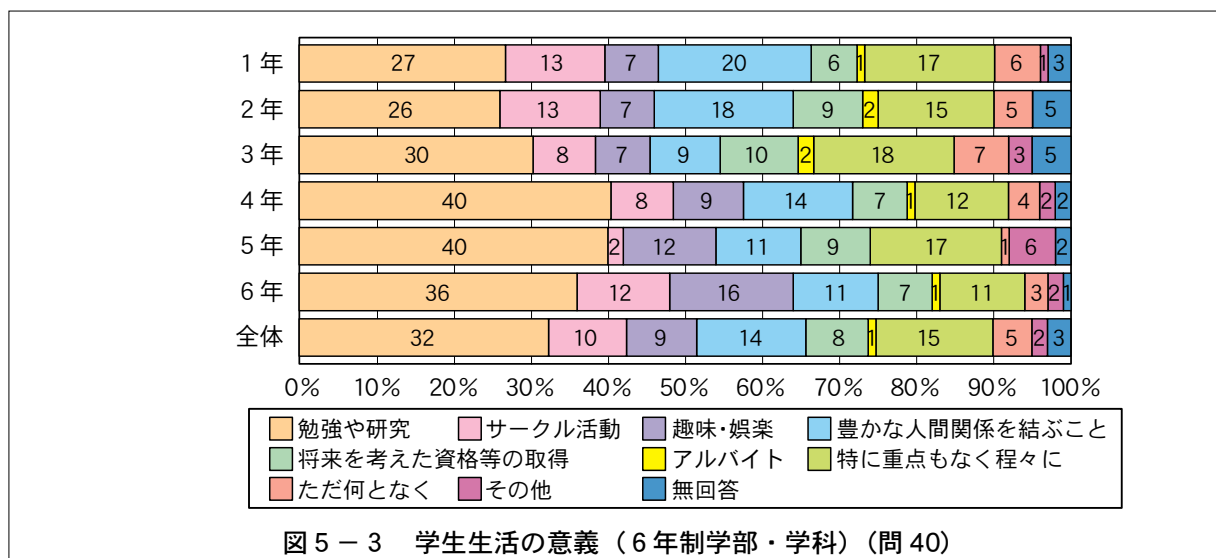


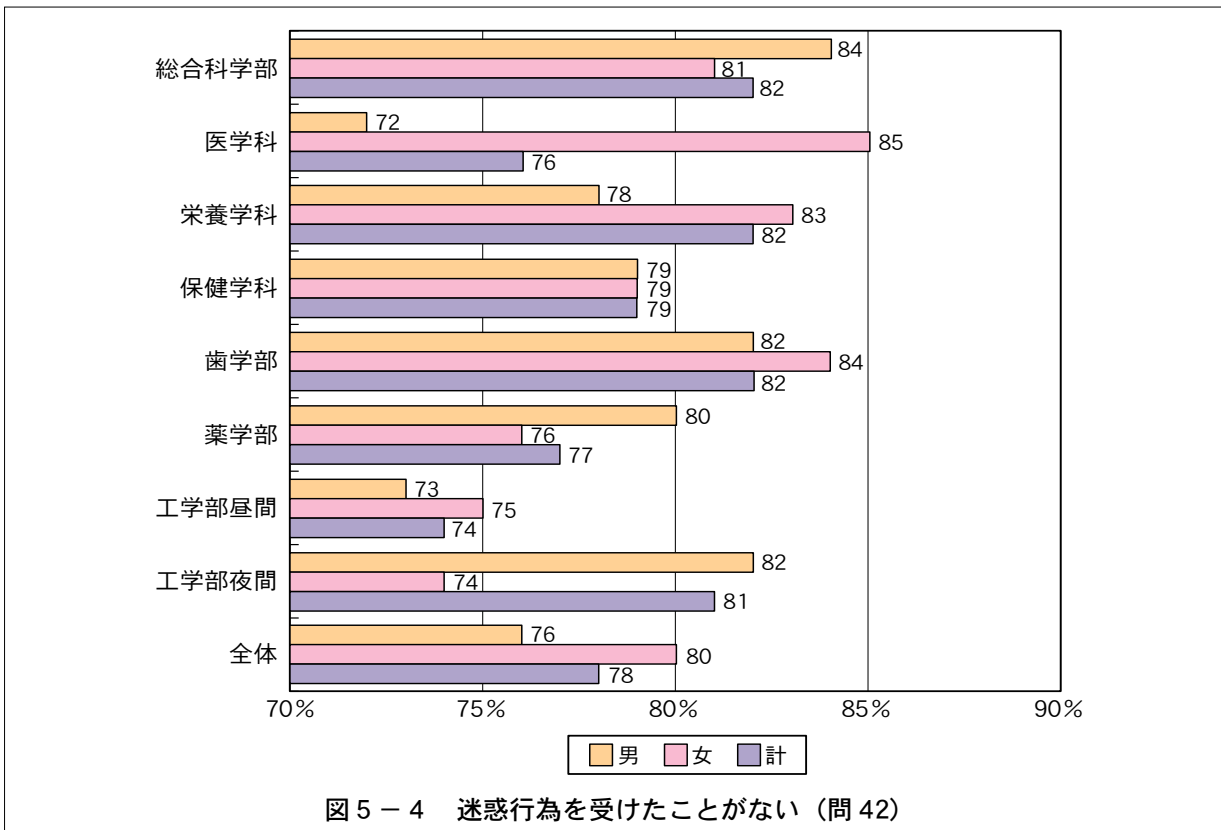
図5-3 学生生活の意義（6年制学部・学科）（問40）

## 5-2 迷惑行為

### [全体的に見て]（図5-4）

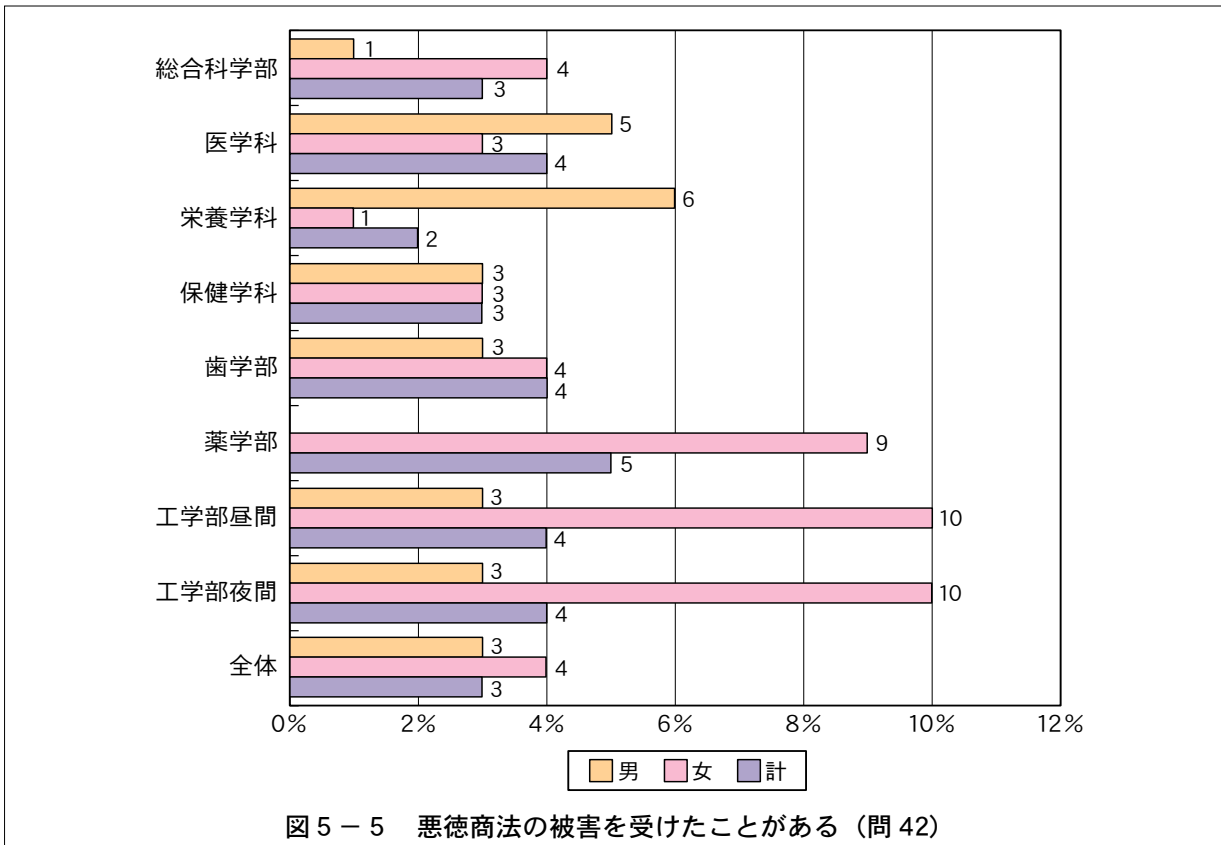
「迷惑行為を受けていない」と回答した学生はどの学部でも74～82%で、前回の60～70%に比べて著しく増加している。男女別に見ると、男子では「迷惑行為を受けていない」と答えた学生は72～84%（全体で76%）であるが、女子では74～85%（全体で80%）で、女子で高い。この結果は前回とは逆の結果である。女子の警戒心が高まった結果と考えられる。従来、迷惑行為に対する注意喚起は女子を主たる対象者としていたが、今後は男子のことも念頭に置くべきと思われる。





[悪徳商法] (図 5 - 5)

各学部・学科で 2～5 % の学生が被害を受けている。特に薬学部と工学部の女子で被害を受けた率が高い。また、医学科と栄養学科では男子で高い。「悪徳商法に引っかかった」と答えた学生の実数は男子 68 名、女子 65 名で、ほぼ同数であった。回収者が男子で 2399 名、女子で 1451 名であることを勘案



すると、被害率は女子で高く、前回の結果と逆転する。悪徳商法の被害が女子で、特に薬学部と工学部に広がっていることを示すと思われる。男子で高かった学科も含め、関係部局の注意を喚起したい。

クーリング・オフ制度については（図5-6）、全ての学部・学科で95%内外の学生が「知っている」としている。前回結果の悪かった歯学部での比率は改善されている。歯学部では、今年度から、新入生に対しては大学入門講座の中で、2・3年生に対しては放課後に、県の消費生活センターからの派遣講師による「消費生活についての啓発講義」を行っている。

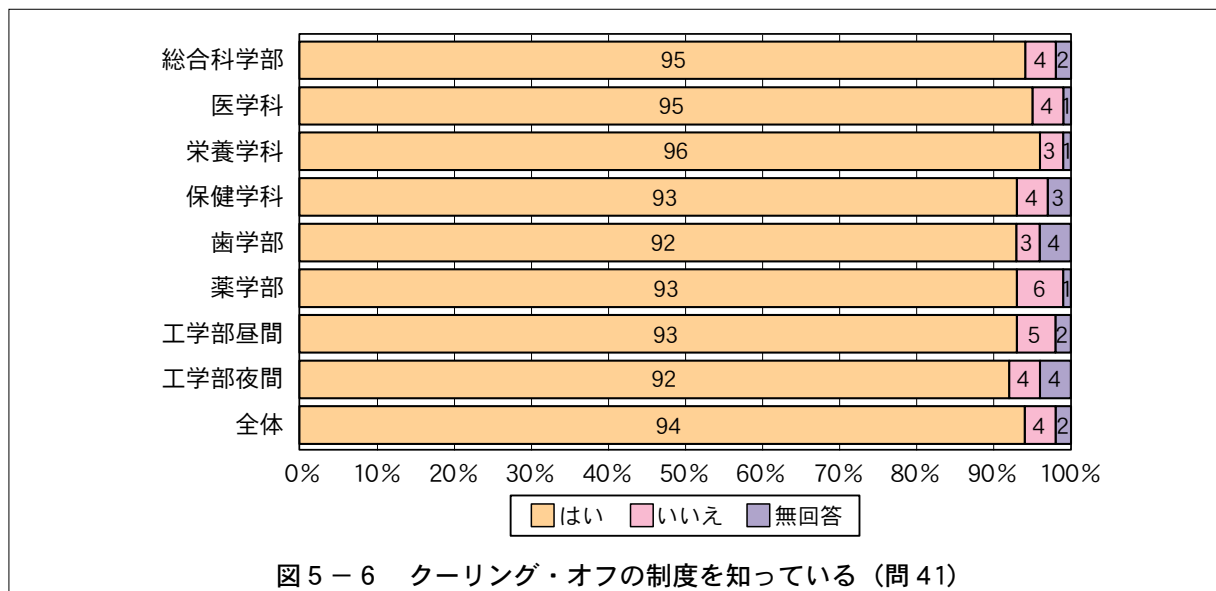


図5-6 クーリング・オフの制度を知っている（問41）

【いたずら電話】（図5-7）

各学部・学科で10%内外の学生が被害を受けている。前回は12～21%であったことからすれば、著しく改善されている。被害学生数は男子312名、女子127名であった。前回は男子で287名、女子で

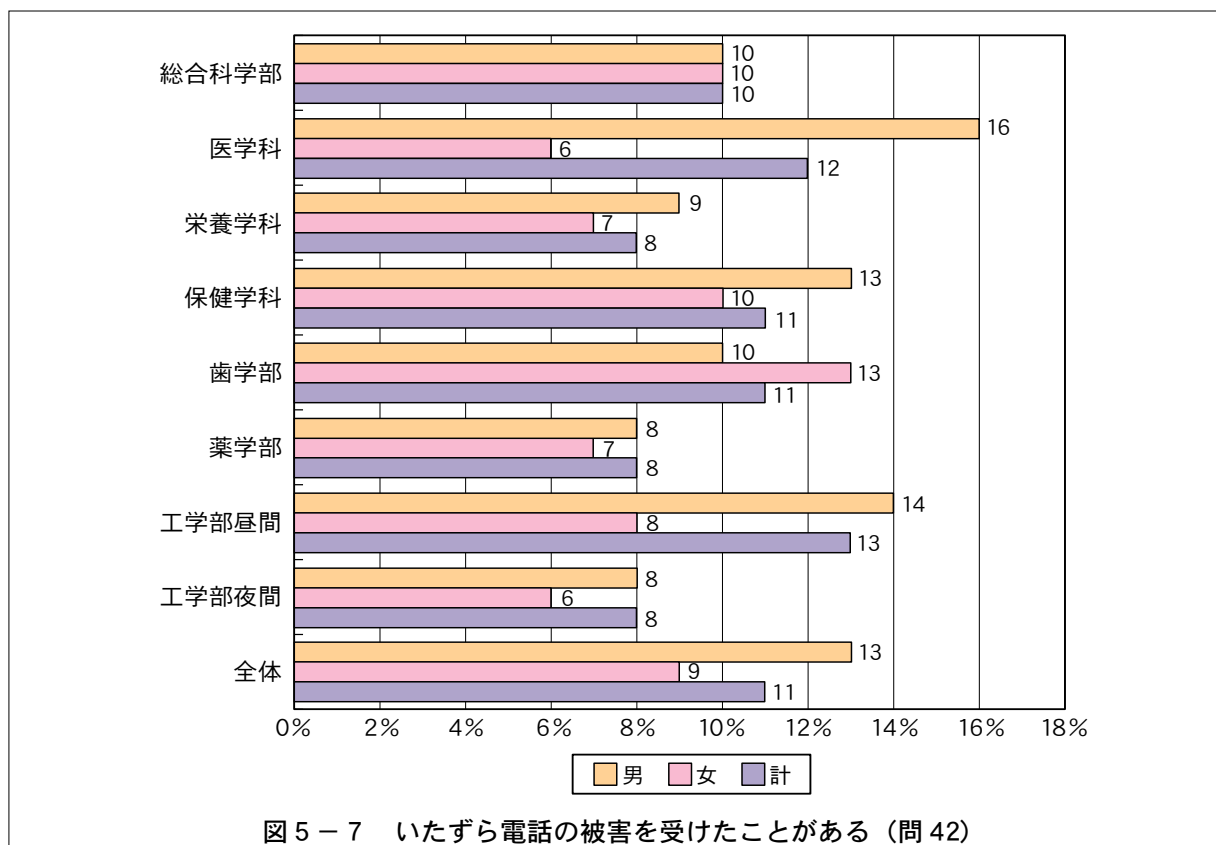
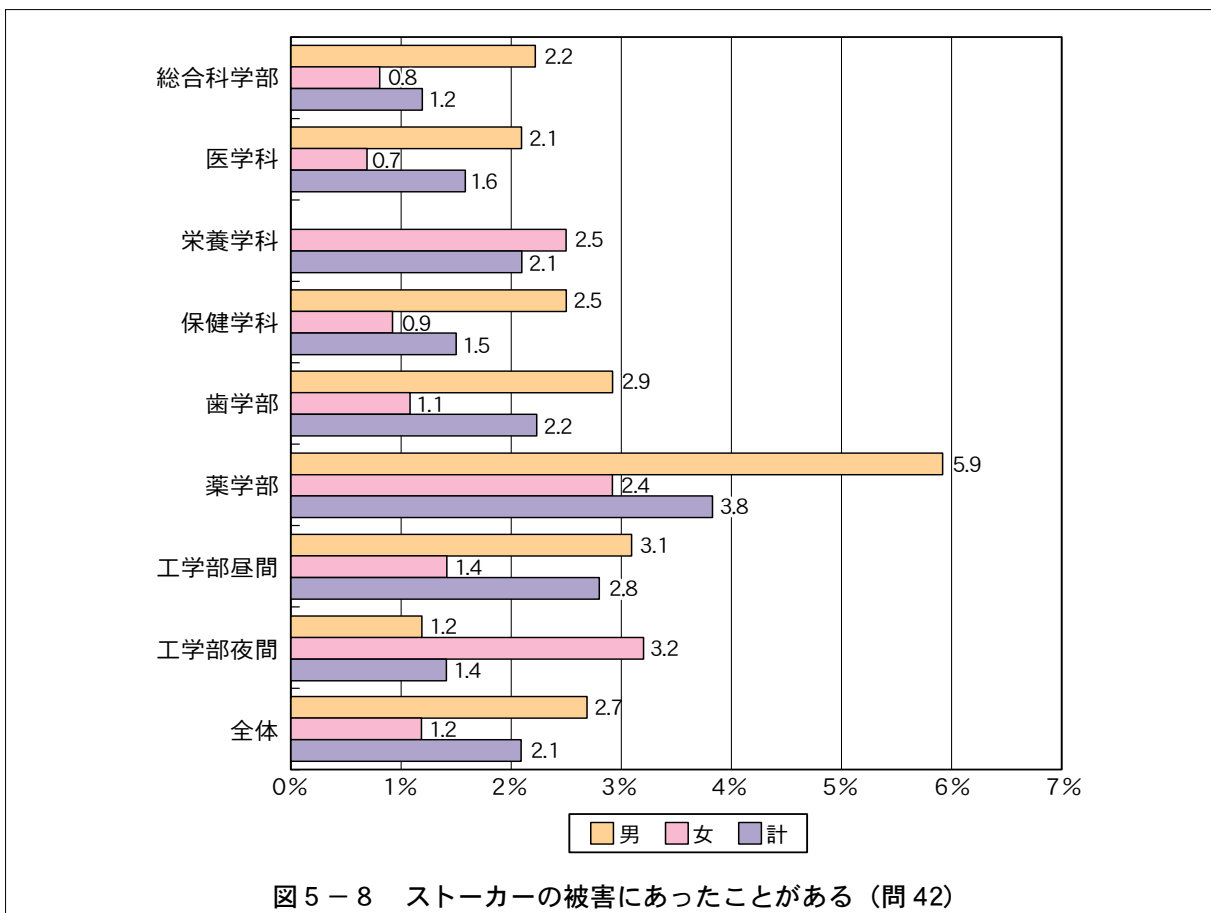


図5-7 いたずら電話の被害を受けたことがある（問42）

376名であったことからすると、女子の被害が大きく減少している。その結果、ほぼ全ての学部・学科で男子の被害が女子を上回っている。迷惑電話防止対策が、女子では十分浸透してきている。いたずら電話対策も、今後は女子だけでなく、男子のことも念頭に置くべきである。

【ストーカー】（図5-8）

各学部・学科で1～4%の学生が被害を受けている。被害学生は男子で64名、女子で18名であった。前回は男子で27名、女子で52名であったことからすると、実数はそれほど変動していないのに対して、男子の被害が増加し、女子での被害が減少している。ストーカー防止対策が、女子では十分浸透してきている。ストーカー対策も、今後は女子だけでなく、男子のことも念頭に置くべきである。

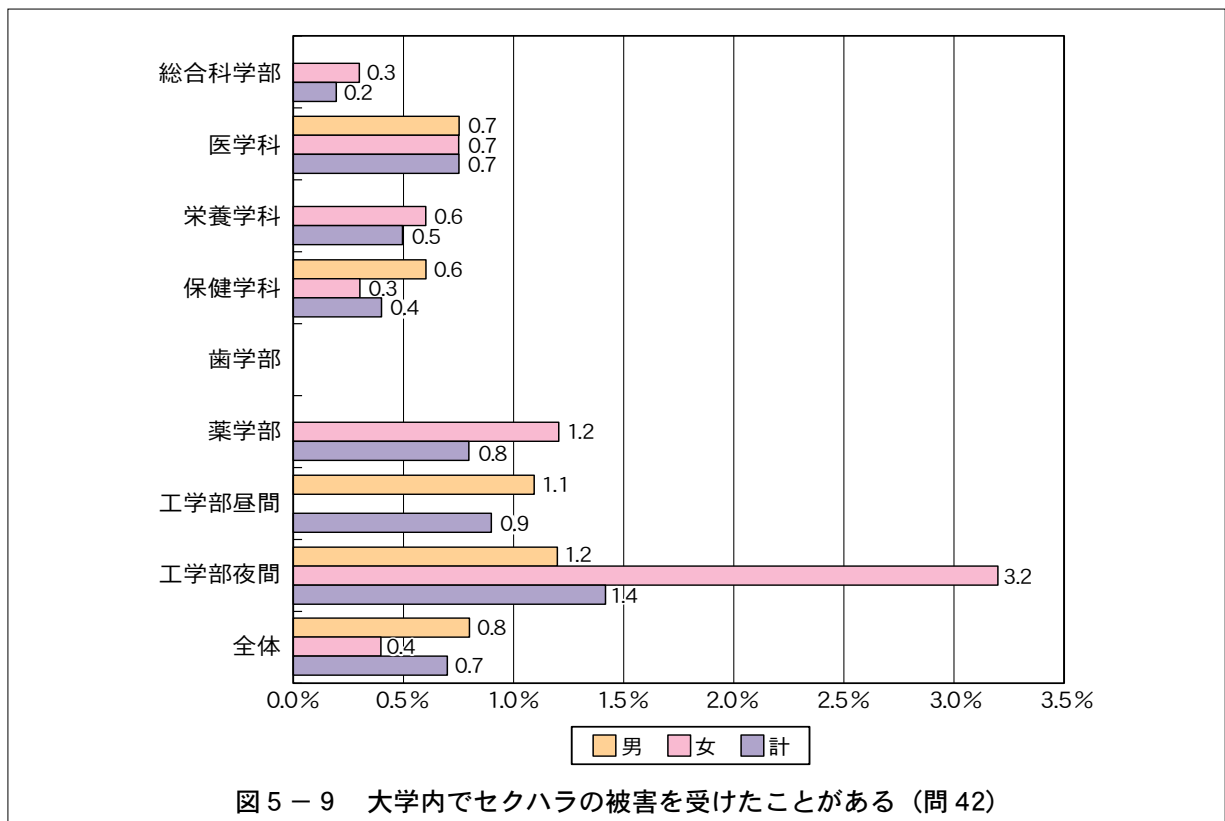


【セクハラ】（図5-9）

被害学生は男子で20名、女子で6名であった。前回は男子で13名、女子で20名であったことからすると、男子の被害が増加し、女子での被害が減少している。女性に対するセクハラ行為の問題点は社会的にもかなり認識されつつある。前回でもそうであったが、工学部昼間では男子に対するセクハラが多い。男子のセクハラ被害について、男子が何をもちてセクハラと見なしているのか、内容の把握に努める必要がある。なお、女子については工学部夜間で特に高い。

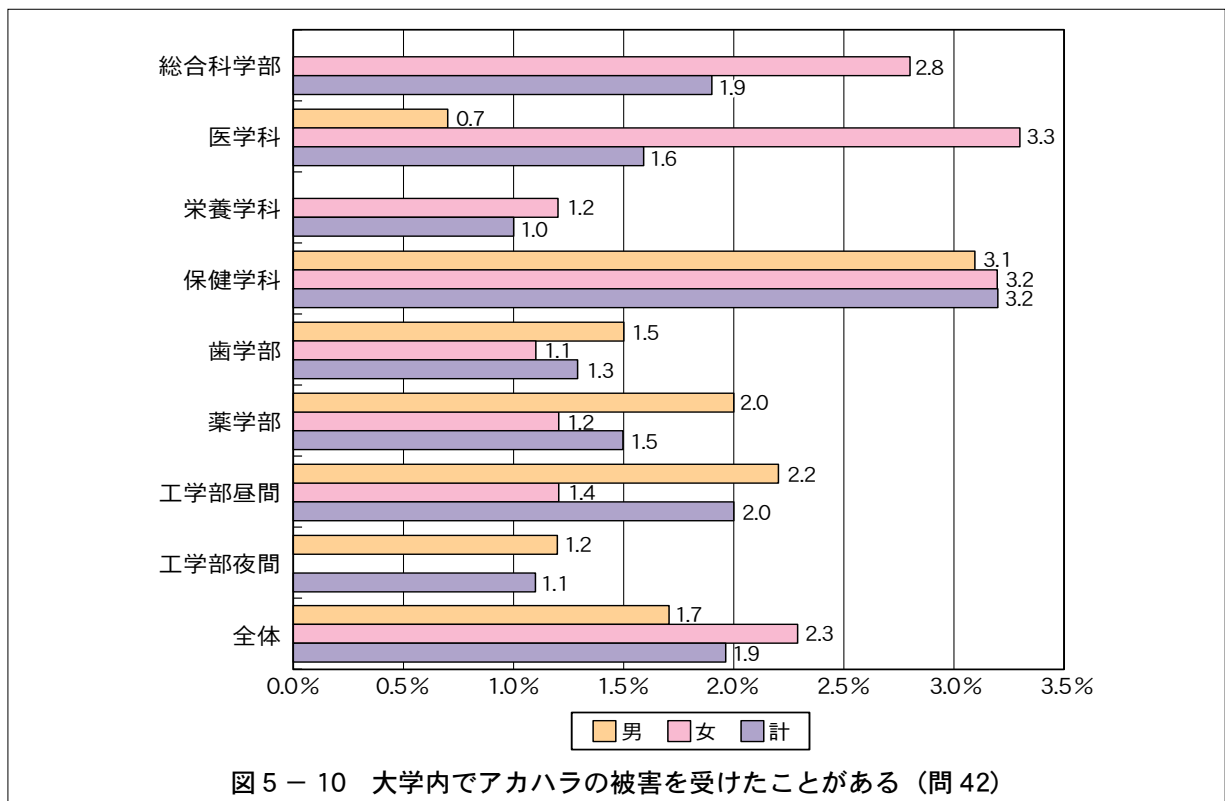
前回比率の高かった歯学部での被害は今回の調査では無い。歯学部では卒業時アンケート調査や年1・2回の「学部長等と学生総代の懇談会」を平成13・14年度から実施しており、アカハラも含めて、その抑止効果が出て来たのかもしれない。今後、これら取組の結果をフィードバックし、さらにセクハラ・アカハラ防止につなげていく必要がある。

セクハラを受けた際の相談先（問43）に、多くが友人を選択している。誰にも相談していない場合も多い。少数は学務（教務）係や教員・家族に相談しているが、学生相談室への相談はない。



[アカハラ] (図 5 - 10)

被害学生は男子で 41 名, 女子で 33 名であった。前回は男子 51 名, 女子 13 名であったことを勘案すると, 実数はやや増加し, 男子の被害が減少し, 女子での被害が増加している。前回高かった歯学部と栄養学科の比率はかなり減少した。保健学科では男女ともに他学部・学科に比べて比率が高く, 総合科学部と医学科では女子の比率が高い。保健学科では前回の調査でもアカハラ被害の多さが指摘されていた



る。関係部局は実情の把握を図るとともに、アカハラに対する教員の意識向上に努める必要がある。

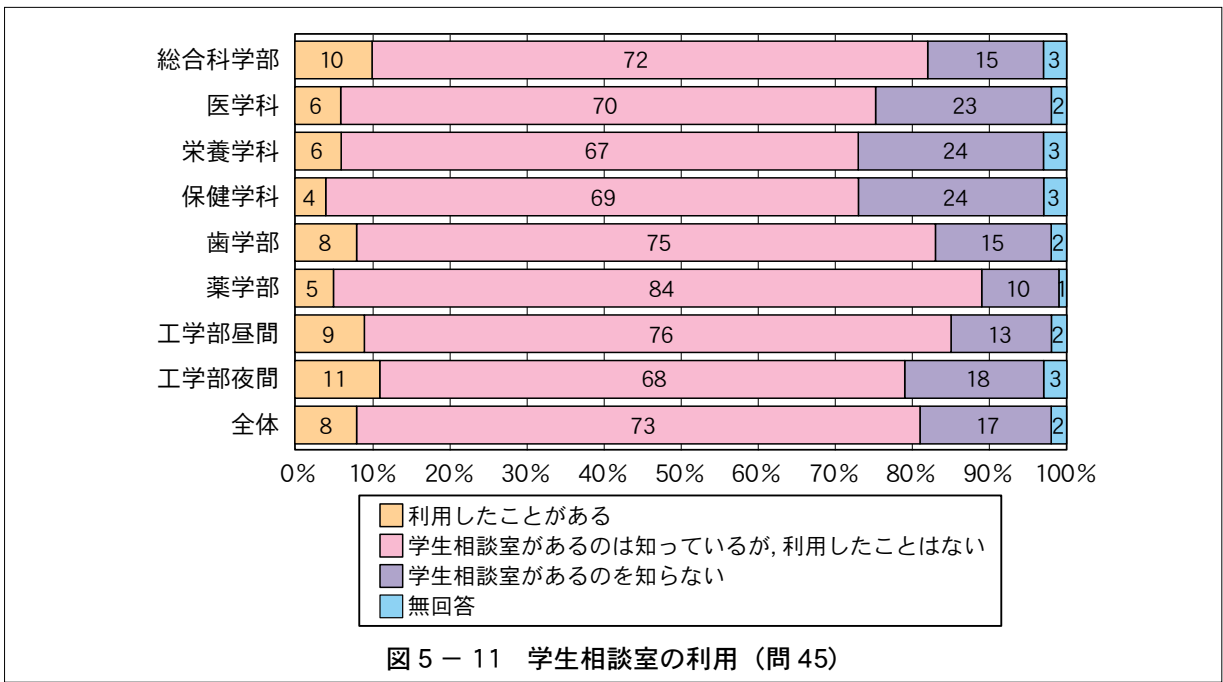
アカハラを受けた際の相談先（問44）として、多くが友人を選択している。誰にも相談していない場合も多い。少数は教員や学務（教務）係や・家族に相談しているが、学生相談室への相談例はほとんどない。

前々回調査の分析結果は「大学内でアカハラを受けた」という項目と「親しい友人がいるか」や「精神状態」との関連性を示しており、アカハラ経験者は、友人のいない者や、いらいらすとか何となく不安という精神状態の学生に多く、充実している学生には少ない。学生と教員の対人関係のこじれがアカハラに発展すると考えると、うなずける結果である。対人関係の苦手な学生や精神的に不安定な学生に対して、その存在を認め、許容的に接する度量の広さが、教員には要求される。

**【学生相談室】（図5－11）**

学生相談室を利用した学生の数は、4年制の学部・学科で226名、6年制の学部・学科で79名、合計305名であった。前回の調査で276名であったので、やや増加している。利用率は、常三島地区に比べて蔵本地区で少ない。学生相談室の存在を知らない学生がまだ16%いる。この比率は蔵本地区で多い。

今回の調査でも、セクハラ・アカハラ被害者の相談先として、相談室は決して選ばれていない。相談室として深刻に受け止めるべき事柄である。相談室がなぜ相談先として選ばれないのか、その理由を調べる必要がある。しかしながら、相談室の記録によれば、被害を訴えて相談室に来る学生は年に数人いるわけで、結局、相談室は学生にとっての最後の相談先になっているようである。相談室としては、相談に来ないからセクハラ・アカハラは起こっていないとの認識はもつべきでない。相談室の広報活動をさらに続けるとともに、啓蒙・啓発活動により多くの教員に出席してもらい、教員の意識を高める必要がある。また、「誰にも相談しない」学生も多く、深刻化する前に相談に来てもらえる場として相談室を位置づけていく必要もある。しかしながら、相談室よりもはるかに学生の身近にいる一般教職員にも、この役割を担ってもらうべきである。現実一般教職員を相談先に選ぶ学生の方が多く、今後、相談室は一般教職員をサポートしつつ、ともにアカハラ・セクハラ被害の防止に取り組む姿勢が求められる。



### 5-3 教職員との交流

#### [教員との会話・質問]

「7回以上したことがある」は総合科学部・保健学科・歯学部で高く、工学部で低い(図5-12)。

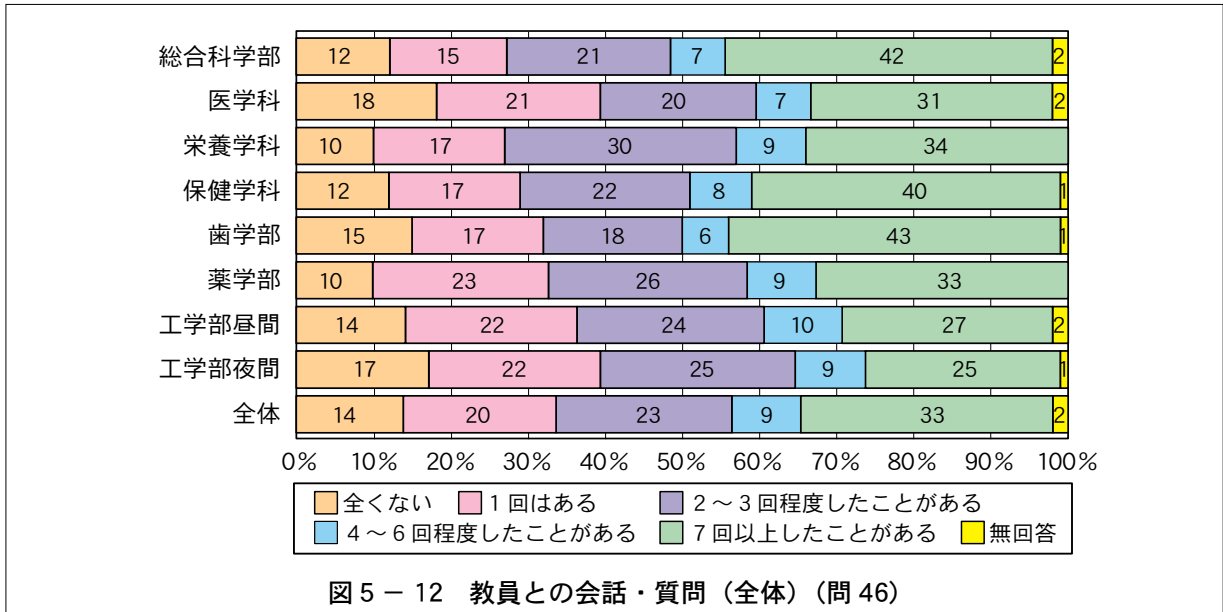


図5-12 教員との会話・質問(全体)(問46)

学年別に見た場合、4年制(図5-13)では、前回と同様、「全くない」が学年進行につれて減少し、「7回以上したことがある」は逆に増加するが、上昇率は4年生できわめて大きい。卒業論文指導の賜物である。一方、6年制(図5-14)では、「全くない」が学年進行につれてやや減少するが、「7回以上したことがある」と答えた学生は5年生がピークで、6年生で再び減少する。5年生にピークがあるのは、研究室配属などで教員との距離が縮まった結果と思われるが、6年生での減少は、臨床実習が必ずしも教員と学生の交流につながっていないことを示す。なお、「全くない」と答えた学生の学年進行に伴う減

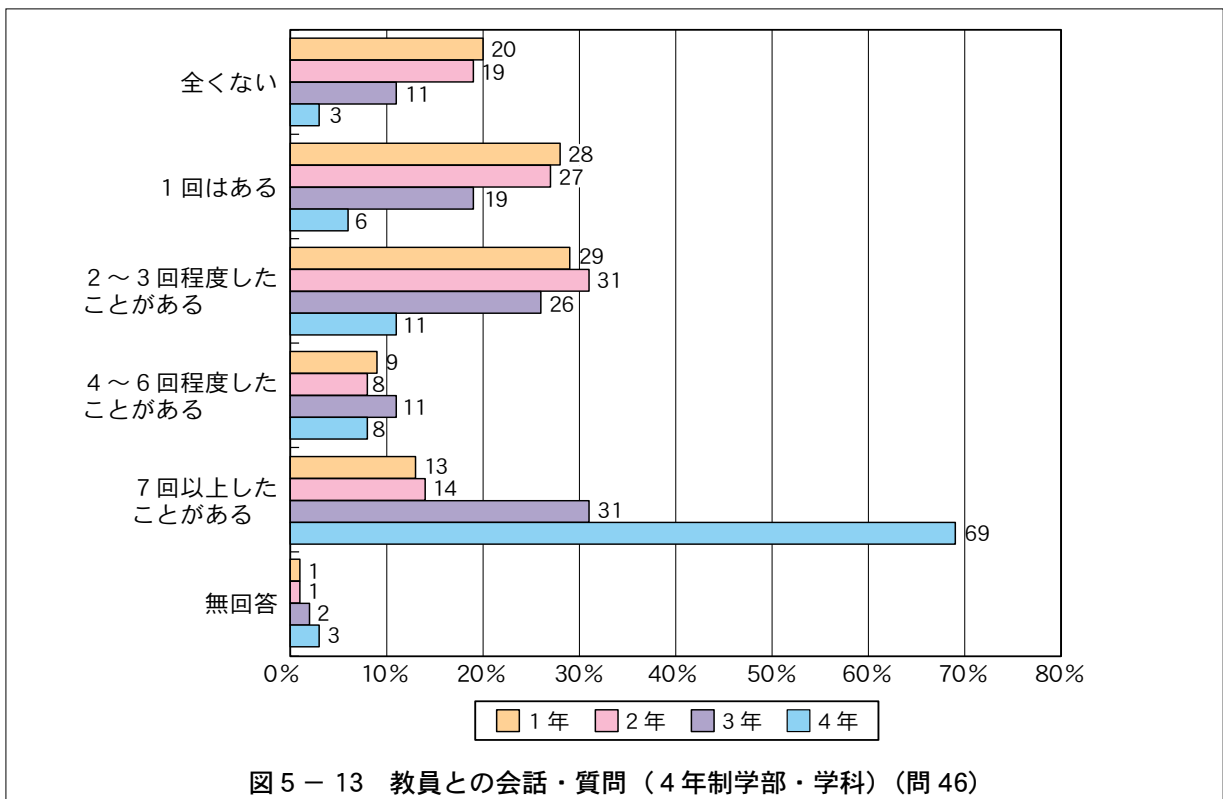
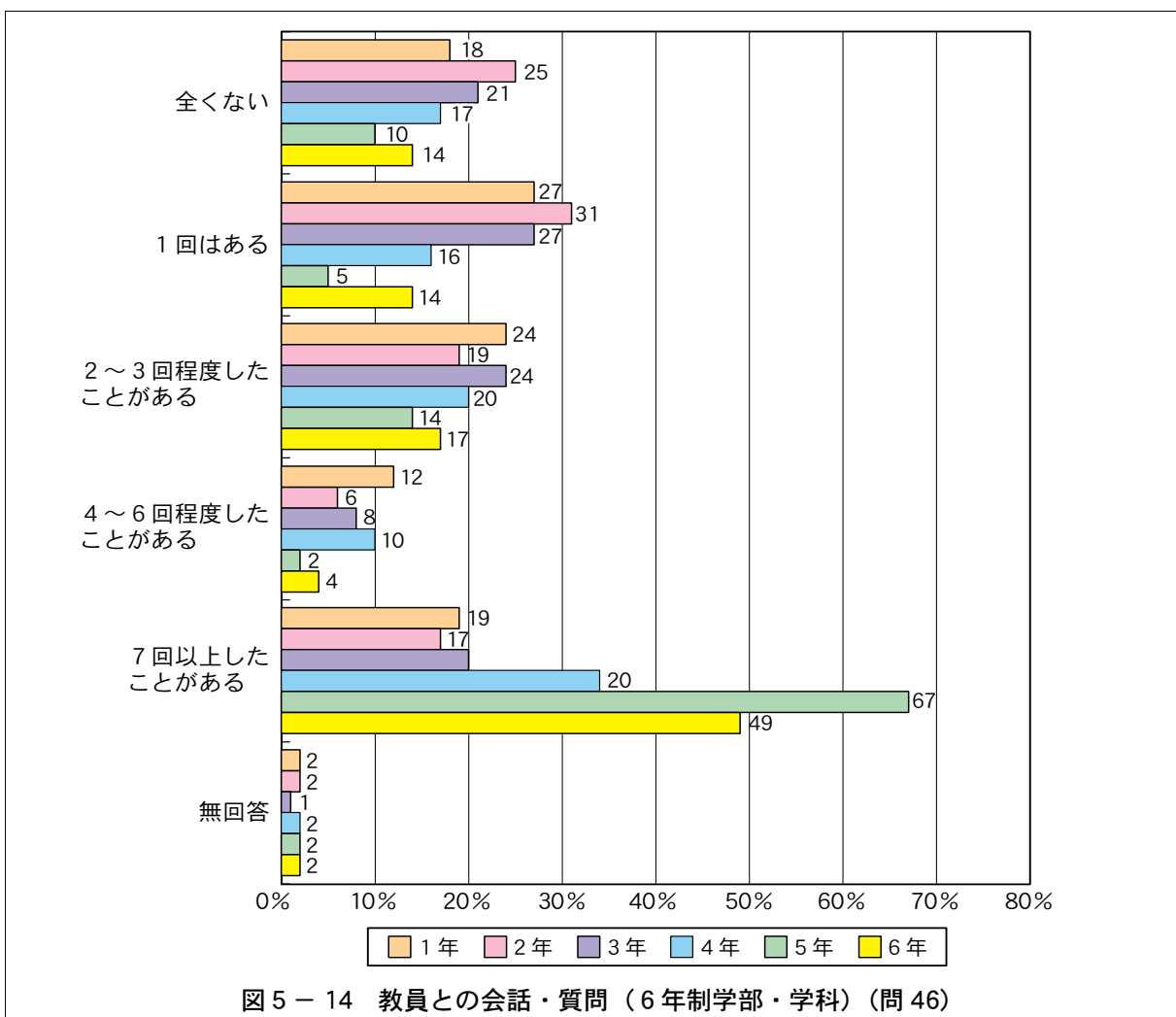


図5-13 教員との会話・質問(4年制学部・学科)(問46)

少しは前回認められなかった。良い傾向である。

前々回調査の分析結果は「教員との会話・質問の回数」と「授業出席状況」や「精神状態」との関連を示しており、出席していない学生の方が教員との会話が多く、「充実している」「いらいらする」「何となく不安」の学生に教員との会話量は多く、「やる気が出ない」「落ち込みやすい」の学生に少ない傾向にある。出席していない学生や、精神的に目立って不安定な学生に対して、教員が積極的に働きかけている様子が伺われる。今後は、精神的に不安定なものの目立たない学生に対する働きかけが課題といえる。教員として学生に広く目を配ることのできる体制、学生相談室や保健管理センターとの連携がさらに強化されることが望まれる。



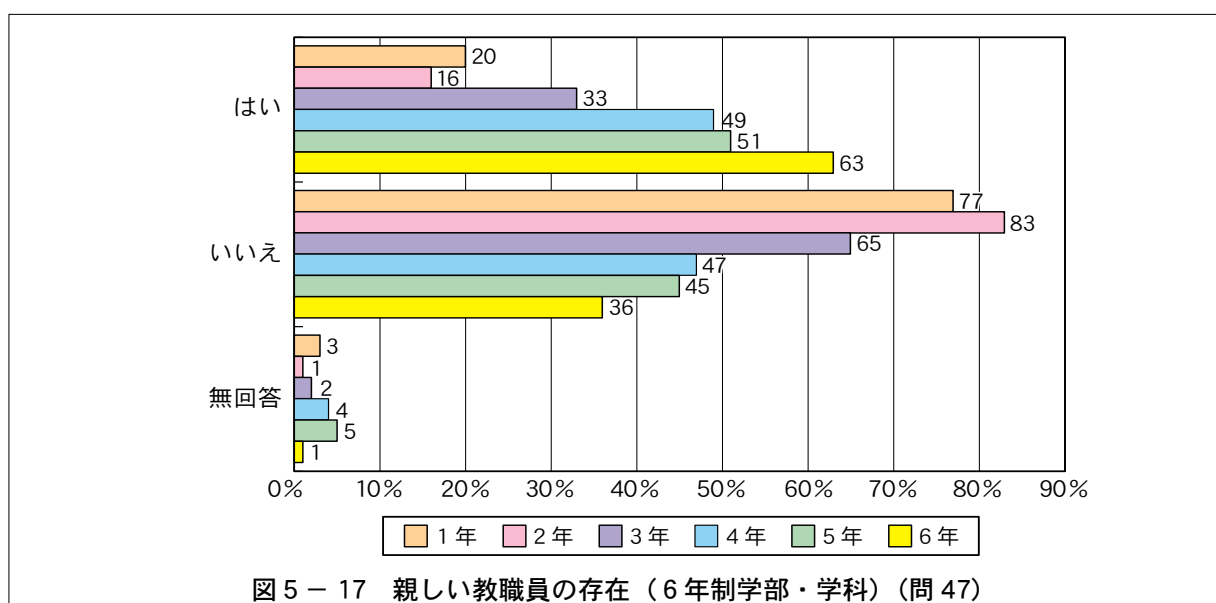
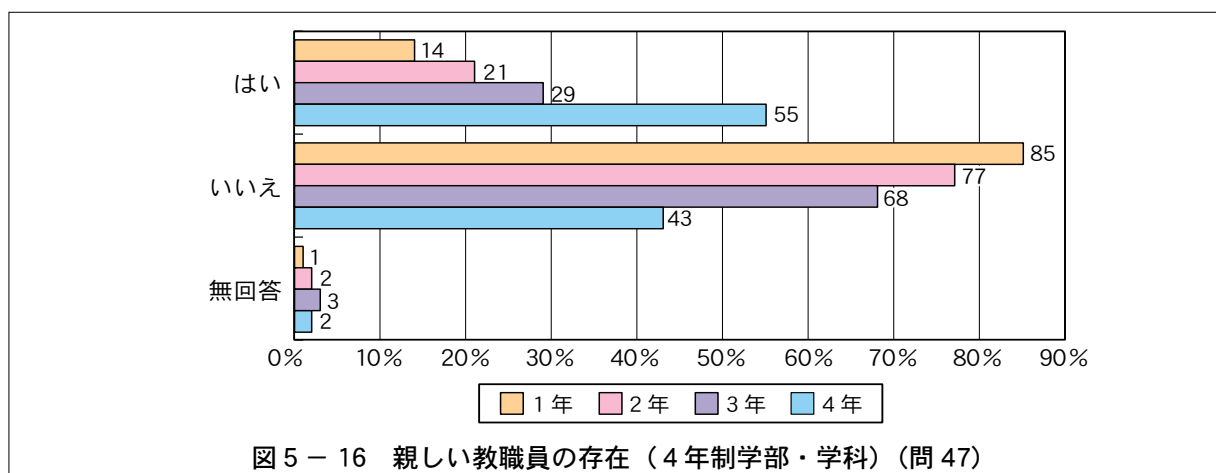
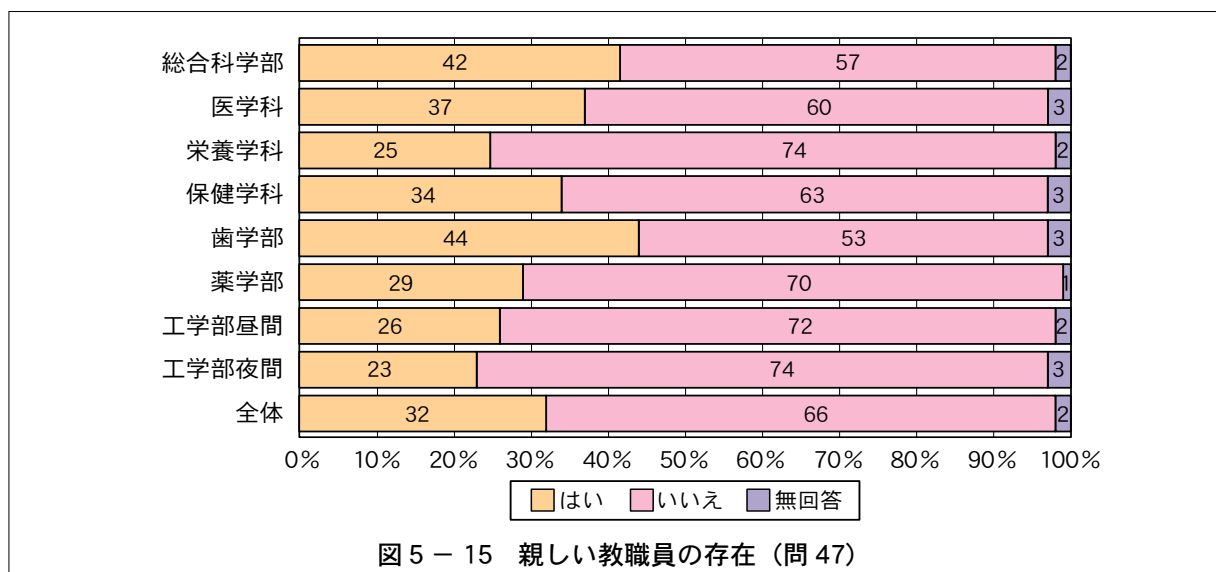
### [親しい教職員の存在]

「親しい教職員はいますか」との質問に「はい」と答えた学生は、前回と同様、総合科学部と歯学部が多かったが、工学部では少なかった（図5-15）。学年別に見た場合、4年制（図5-16）と6年制（図5-17）のいずれも、学年進行に伴い親しい教職員のいる比率が高まったが、4年制では最終学年の4年で、6年制では中間学年の4年で、それぞれ増加率が他に比べ高かった。

前々回調査の分析結果では、「親しい教職員の存在」と「授業出席状況」や「精神状態」との関連が示されている。授業に出席していない学生の方が親しい教職員をもつ割合が多く、精神的には、「充実している」「いらいらする」「何となく不安」の学生に比べて、「やる気が出ない」「落ち込みやすい」の学生に、親しい教職員が少ない傾向にある。「教員との会話・質問」の場合と同じ傾向である。

学生側から積極的に教職員に接触を求めてくることは少ない。学生と教職員の接触が深まるには、学

生の長期欠席や目立った精神的不安、卒業論文作成や研究室配属等のきっかけが必要で、しかも教職員から積極的に働きかけなければならないことがわかる。学生と教職員との垣根を低くするには、講義室や事務室での通常の接触以外に、立場の枠を弛めた、あるいはより距離の近い接触機会を設けることが必要となる。新入生合宿研修や大学祭はその良い機会であるが、それ以外に「大災害に備えた全学・全



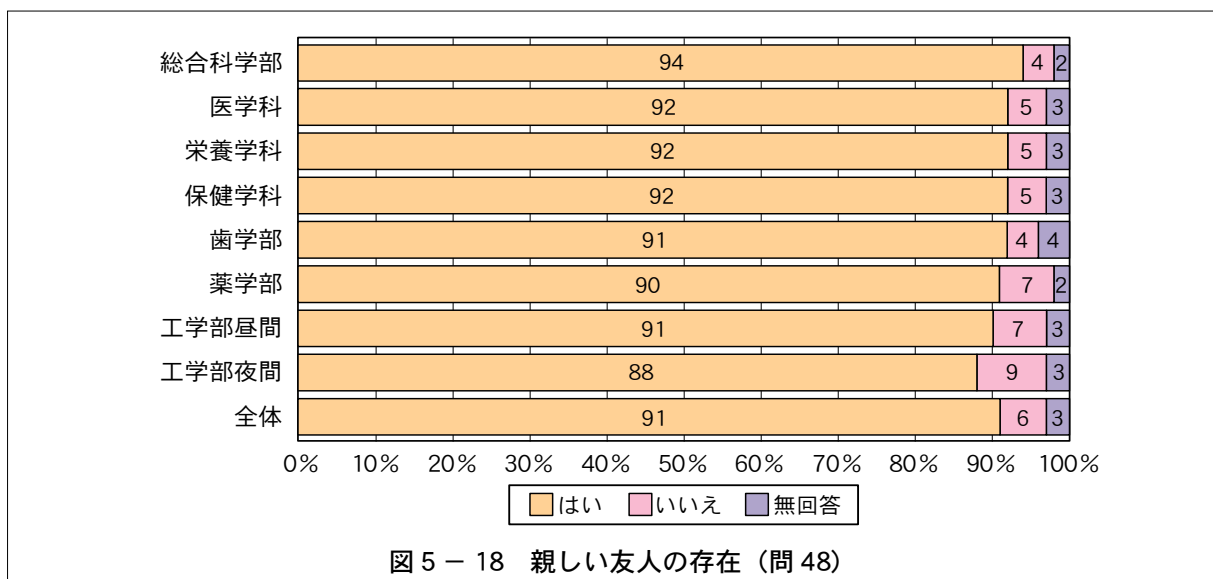


学部的な避難訓練」や「全学部的な大掃除」等、教職員と学生が共同で何か企画を行うことも効果的である。しかしながら、「学生と教職員の垣根を低くする」ことは、セクハラ・アカハラ等のマイナス面をもつことも知っておく必要がある。「垣根は低く見えても、垣根を越えない・垣根は無くならない」という意識を教職員はもつべきであり、「教員が学生に対してもつ権限は、教員が考えている以上に絶大である」ことを教員は常に意識して、学生と接する必要がある。学生との接し方についてのFDをきめ細かく実施していく必要がある。

#### 5-4 友人の存在 (図5-18)

「あなたには親しい友人はいますか」に対しては前回と同様で、いずれの学部・学科でも90%内外の学生が「はい」と回答しているが、工学部夜間でやや低い値である。

前々回調査の分析結果は「友人の存在」と「授業出席状況」や「精神状態」との関連を示し、授業への出席率の高い学生に友人のいる割合は高く、出席率が低くなるにつれて、友人のいる割合が低下する。精神的には、「充実している」学生に友人の存在する割合が高く、「いらいらする」「何となく不安」「やる気が出ない」「落ち込みやすい」学生に、友人の存在する割合は低い。友人をつくるのが授業の出席率を高める。新入生合宿研修や大学入門講座の早期実施は、友人をつくる良い機会となる。課外活動は友人をつくる機会、さらには充実した精神状態をつくる上で有効と思われる。新入生合宿研修あるいは大学入門講座を通して、課外活動への加入を早期に学生に働きかける必要がある。また、学生のメンタルヘルスに対応する全学的なシステムをさらに充実していくことも必要である。

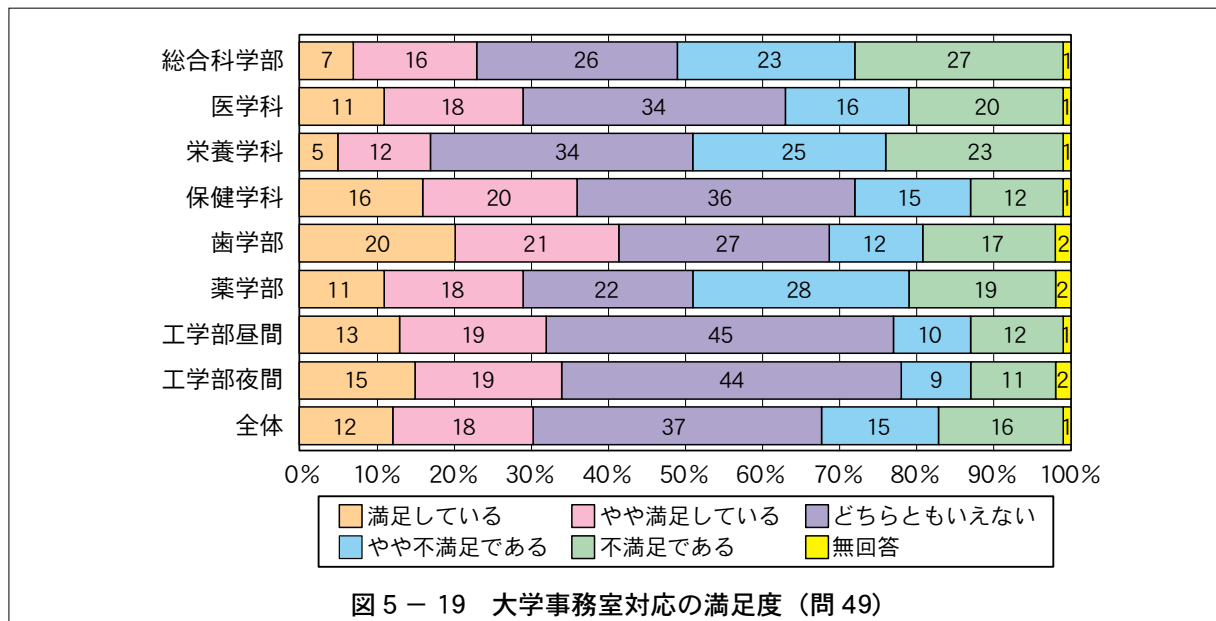


#### 5-5 大学事務室の対応への満足度 (図5-19)

「大学事務室の対応に満足していますか」の質問に対して「満足している」「やや満足している」が「やや不満である」「不満足である」を越える学部・学科が半数近くを占めるようになった。多くの学部・学科で「満足している」「やや満足している」が「やや不満である」「不満足である」よりも概して低かった前回の結果と比べて改善されている。満足度は歯学部と保健学科で高く、栄養学科で特に低い。栄養学科では同じ建物内に学務係のないことに起因していると思われる。

大学事務室には学生の目線に立ったサービスが求められており、大学事務室職員の意識変革が必要である。教員だけでなく、職員に対しても、学生との接し方についてのFDをきめ細かく実施していく必

要がある。18歳人口の減少に伴い、今後、大学の経営は益々困難になる。「学生中心の大学づくり」が叫ばれる所以はここにある。「学生との窓口になる学務部・学部の職員は大学の顔である」という意識を、一般職員のみならず大学の経営陣ももつべきである。

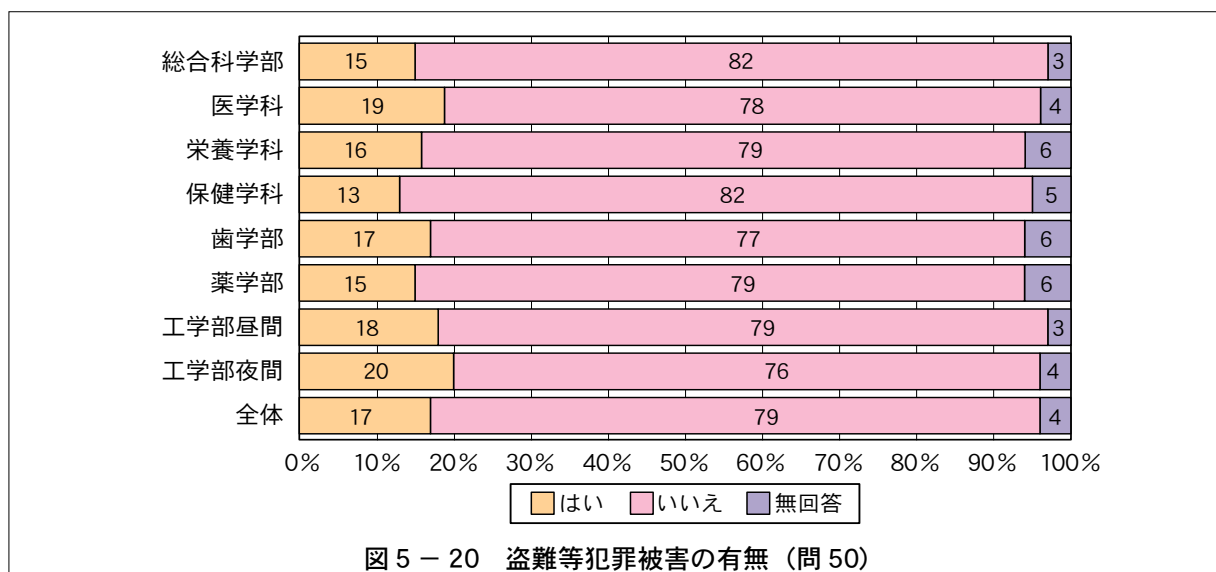


## 5-6 盗難等犯罪被害

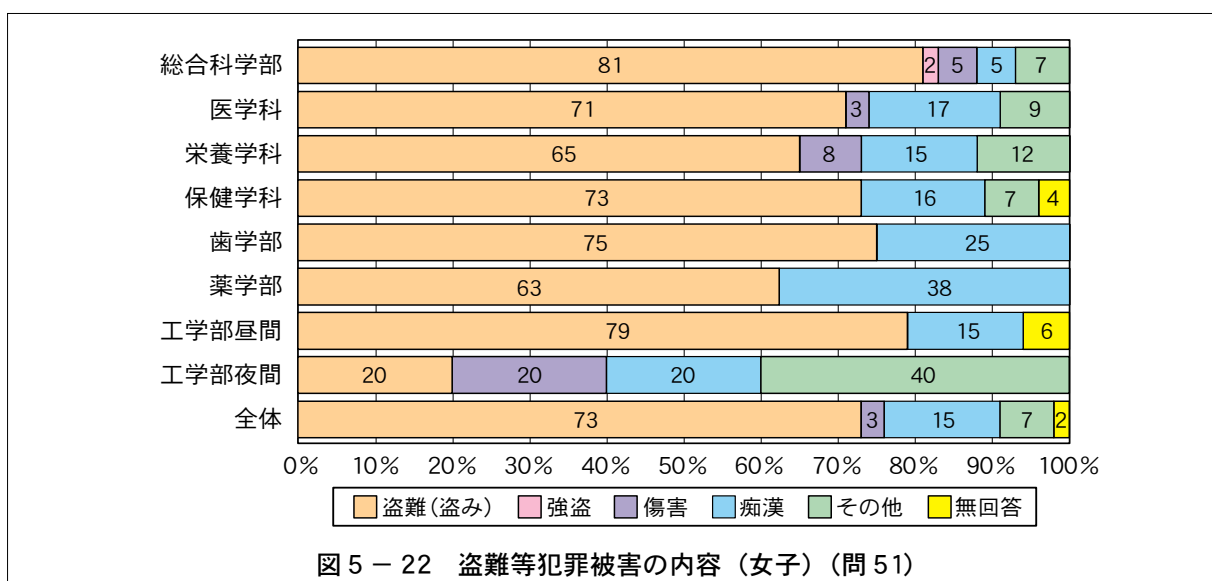
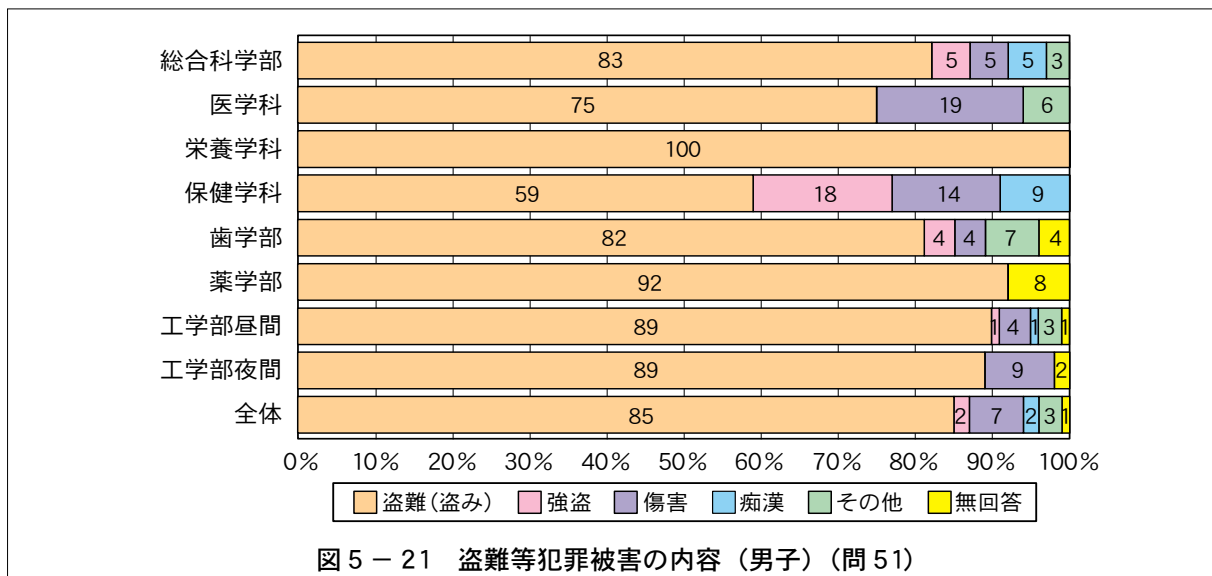
全ての学部・学科を通して、13～20%の学生が被害に遭っている(図5-20)。前回とほぼ同様の結果である。

事件としては、男女を通して、全ての学部・学科で「盗難(盗み)」が最も多いが、その比率に男女差が見られ、男子ではのべ被害者数の75～92%を占める(図5-21)のに対し、女子では63～81%(図5-22)で少ない。この比率は男女を通して前回より増加している。

「強盗・傷害」は、学部・学科を通して、かなりのばらつきが見られる(図5-21・図5-22)。「痴漢」は女子(図5-22)に特徴的で、のべ被害者数に占める比率で見ると、女子が受ける被害の5～38%を占める。「盗難(盗み)等の犯罪被害に遭った場所」(問52)については、全ての学部・学科を通して、回答数中の40%内外が「大学構内」で被害に遭ったとしている。



大学内での盗難（盗み）の予防としては、「現金・貴重品を肌身につけておく」ことを周知徹底させる以外にない。また、学内で起こった盗難等犯罪被害については、その概要をいち早く全学に通知し、注意を呼びかけることが必要である。盗難等犯罪被害時の警察官の立入りについてはガイドラインがつけられている。全学や学部/学部の学生委員会委員が交代する際に必要な知識が伝わるよう、適切なマニュアルを作成する必要がある。



## 第6章 修学状況について

### 6-1 本学を選んだ理由と所属学部の満足度 (図6-1, 図6-2)

図6-1は、本学を選んだ理由についての調査結果である。全体の平均で見れば、「国立大学だから」、「希望する学部学科があったから」、「地元の大学だから」の比率が高い。目的意識を持って本学を選んだ理由として「希望する学部学科があったから」、「就職等将来を考慮して」の合計の比率を取り上げると学部間で差があり、前回調査と同様に医学部、歯学部、薬学部では38～44%と高く、総合科学部、工学部では20～24%と低くなっている。これらの結果は、卒業後の専門分野、仕事の内容が明確で自分の将来像を描きやすいかどうかと密接に関連しており、分野が広い学部では、学部・学科の特徴、学ぶべき内容や卒業後の進路・仕事の具体的内容等について分かりやすく広報し、意欲の高い学生の確保につなげる必要がある。個別の項目で見れば、前回調査に比べ「地元の大学だから」の比率が14%から17%に上昇している。

図6-2は、所属学部・学科に対する満足度を調べた結果である。全体の平均で「満足している」、「やや満足している」と答えたものの合計は58%で、逆に「やや不満足である」、「不満足である」の合計は17%となっており、6人に1人は不満を持っている。満足感を示したものの割合は、医学部、薬学部が69%、67%と高く、総合科学部、歯学部、工学部昼間が53%、54%、50%と低くなっている。

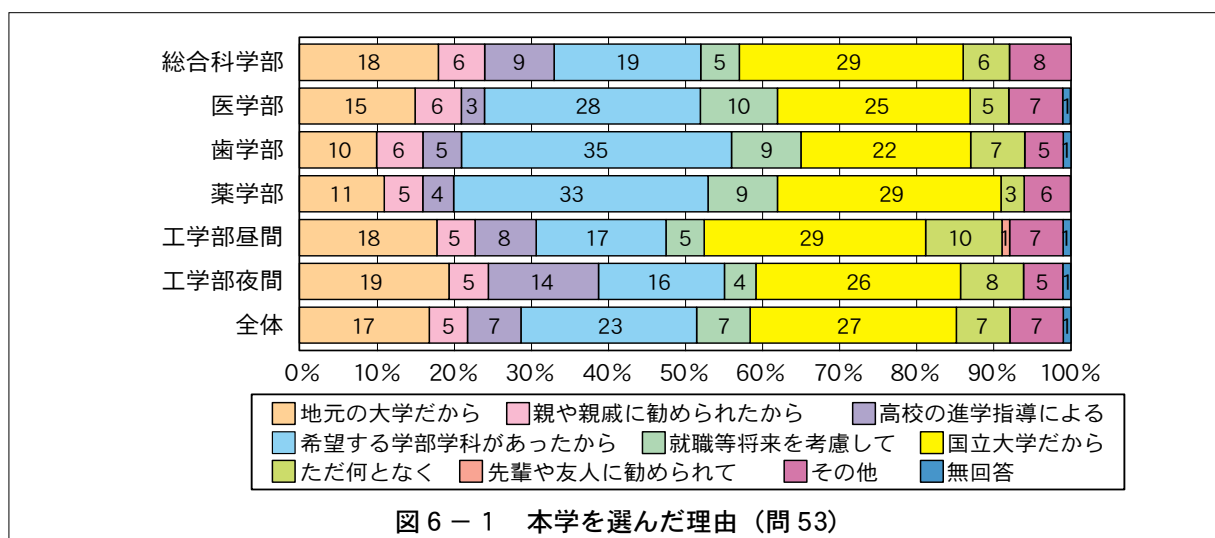


図6-1 本学を選んだ理由 (問53)

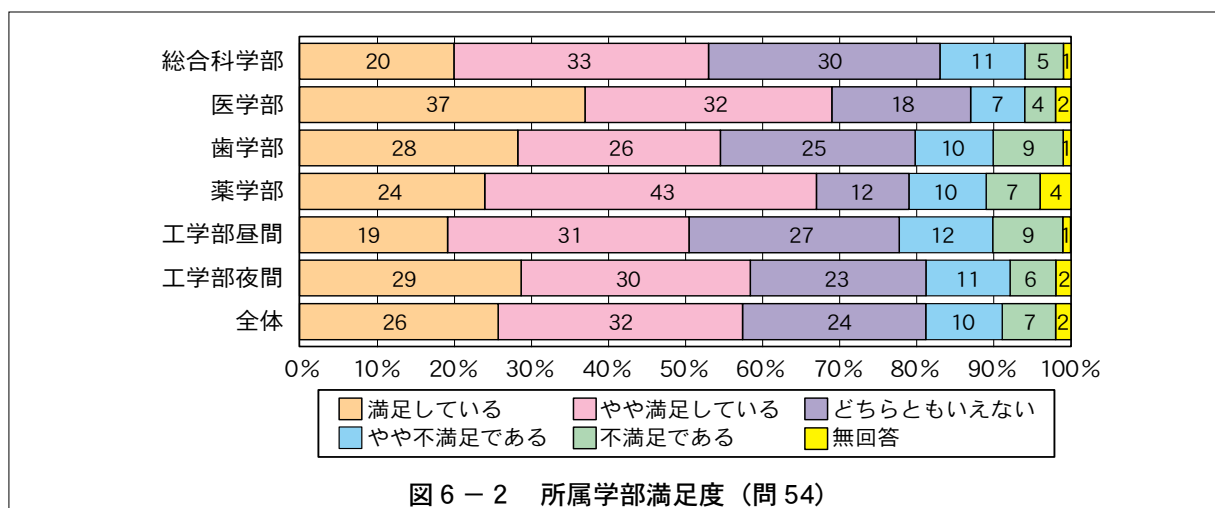


図6-2 所属学部満足度 (問54)

## 6-2 単位取得状況と授業出席状況 (図6-3～図6-7)

図6-3のこれまでの単位取得状況のうち、「全部取得できた」、「ほとんど取得できた」の合計の比率を見ると、総合科学部から工学部夜間の順に、93%、95%、92%、96%、87%、82%となっており工学部が他学部比べて低いですが、全体としておおむね良好である。これらの数値は前回調査結果と同様であるが、工学部夜間は前回調査時の88%から低下しており、これらの数値の低下が留年・退学につながることから注意が必要である。後述の授業が満足できない理由で「授業内容が難しすぎて理解できない」の比率が高いことと密接に関連していると考えられる。

図6-4は、授業への出席状況である。「全部出席している」、「ほとんど出席している」が85%であり、10%程度の学生があまり出席できていない状況にある。これらの状況は学部間で大きな差はない。学年別の出席状況を調べたものが図6-5である。全学年について「全部出席している」、「ほとんど出席している」の合計比率を見れば、医学部5年生と薬学部2年生の95%が最も高く、医学部2年生の74%が最も低くなっている。

図6-6は、「出たり出なかつたりしている」、「ほとんど出席していない」、「まったく出席していない」と答えた学生の欠席理由である。学部によってはサンプル数が少ないため全体の平均で見ると「授業が理解できない」より「授業に魅力がない」、「勉学に意欲がわかない」が多く、教員側の「勉学意欲をかき立てる授業」、「魅力ある授業」への更なる改善が望まれる。欠席理由のうち「その他」が26%を

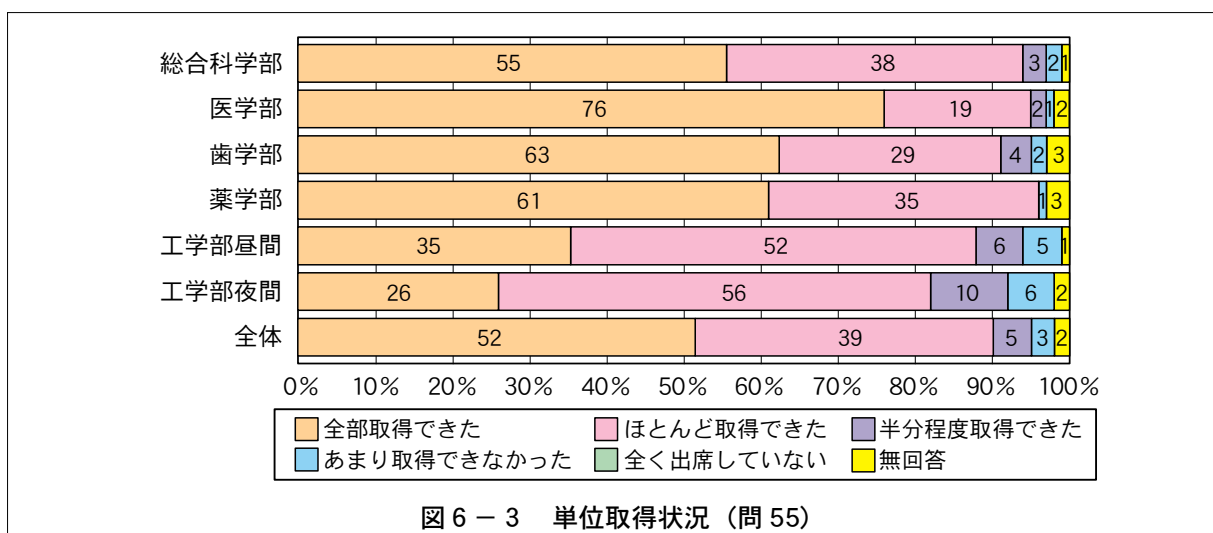


図6-3 単位取得状況 (問55)

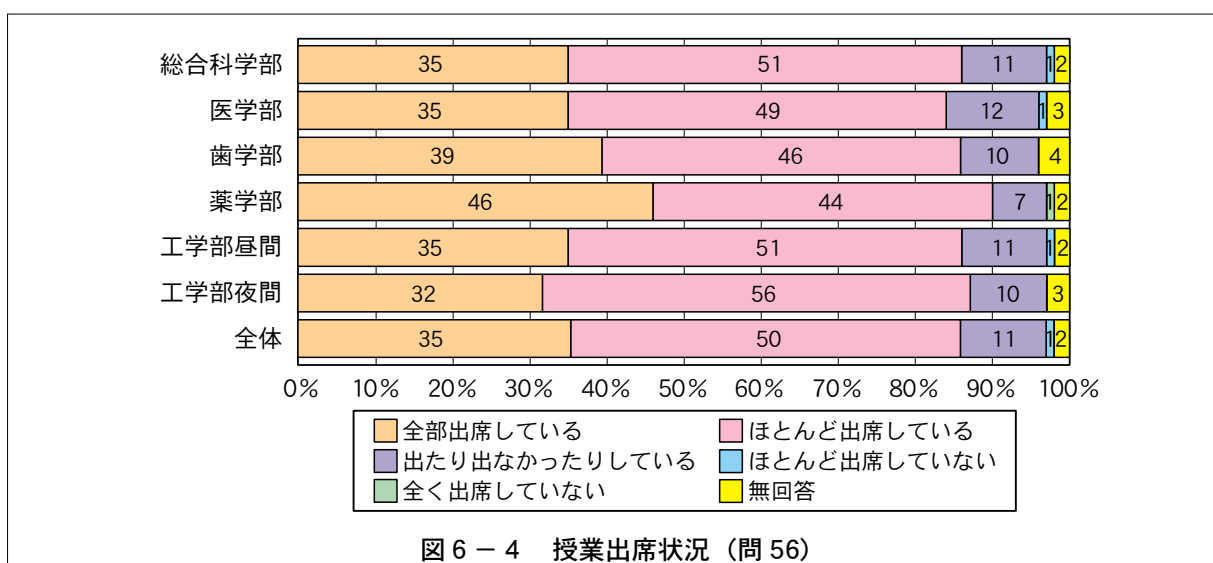
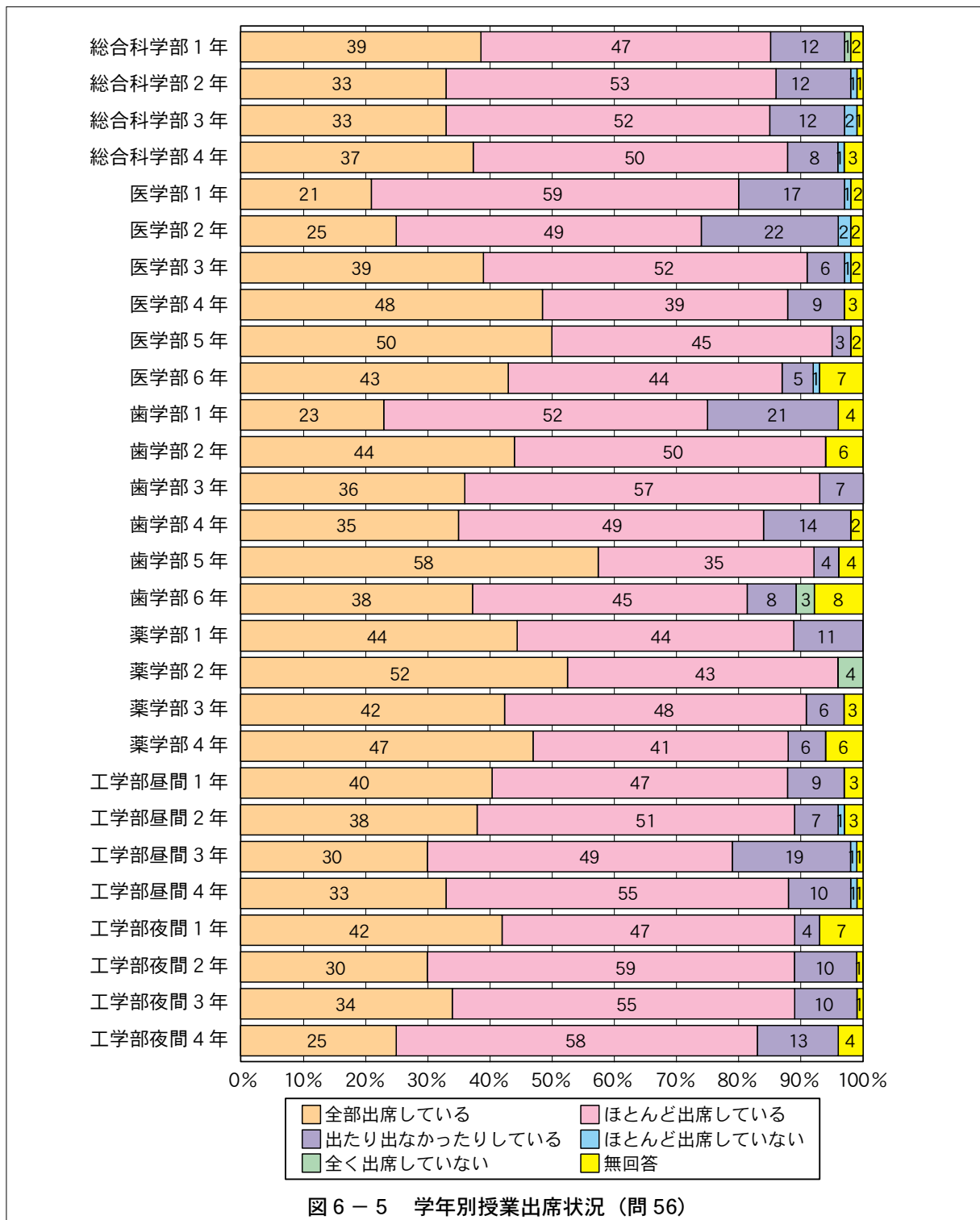
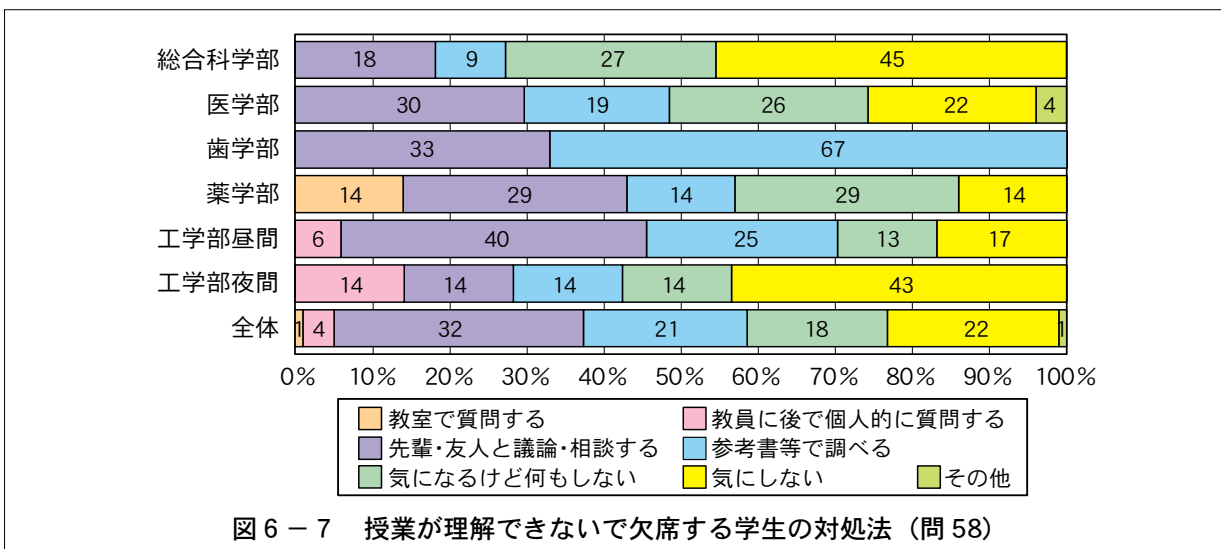
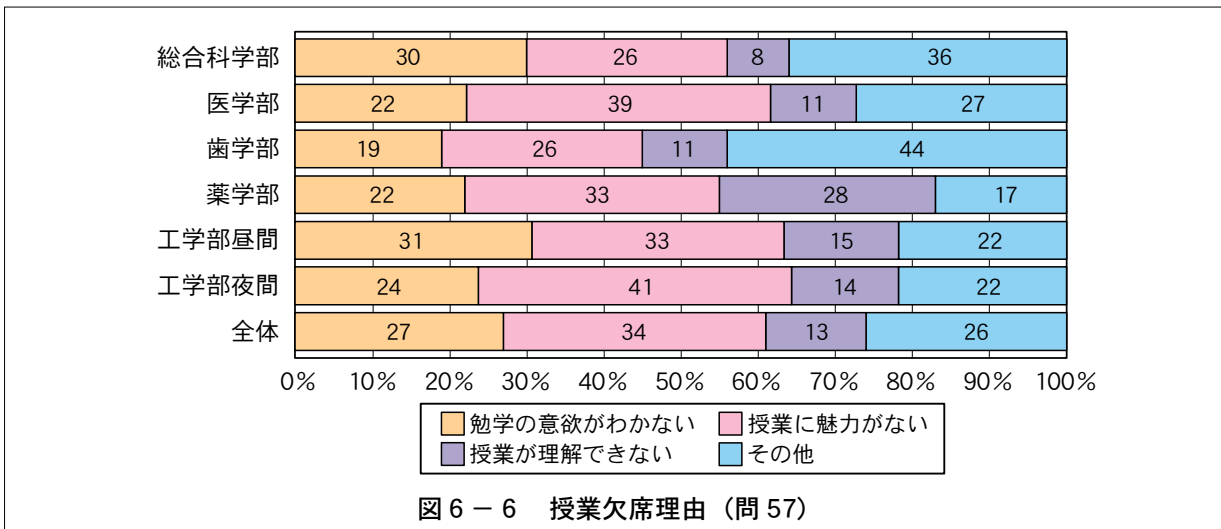


図6-4 授業出席状況 (問56)

占めており、これらの理由を明らかにすることが必要である。

「授業が理解できない」と答えた学生にその対処方法を尋ねた結果が図6-7である。学部によってはサンプル数が少ないため全体の平均で見ると、「教室あるいは後で教員に質問する」は5%と極端に少なく、「気になるけど何もしない」あるいは「気にしない」という対処をする学生が42%を占める。後述するようにオフィスアワーを充実させ利用しやすくするなど、学生へのきめの細かい対応が重要である。





### 6-3 授業の満足度 (図6-8, 図6-9)

図6-8で示される授業に対する満足度は、「満足している」「やや満足している」の回答を「満足感を有している」と捉えると総合科学部から工学部夜間への順に、54%、46%、43%、32%、40%、46%となっており、平均で44%である。前回の調査ではそれぞれ47%、35%、37%、39%、36%、40%で、平均で39%であり、前回調査より上昇している。また不満足感を抱いている比率（「やや不満足である」、「不満足である」）の平均は18%で約5人に1人が不満を持っているが、前回調査の22%から18%に減少しており、全体としてみればFD活動の推進などによる授業改善の効果が伺われる。特に総合科学部では満足感を有する学生の割合が54%と最も高く、前回調査より7ポイント高くなっている。ただし、薬学部では前回調査より満足感を有する比率が減少し、不満足感を持つ比率が29%に増大している。

図6-9は、満足度の調査で「やや不満足である」、「不満足である」と答えた学生に授業が満足できない理由を尋ねた結果である。平均で見ると「授業内容がつまらない」が32%、「教員の教え方に工夫がたりない」が27%と高い。特に薬学部では「教員の教え方に工夫が足りない」が41%と高く、上の不満足度とも対応させると、教授法の一層の改善が要望されている。一方、工学部夜間では「授業内容が難しすぎて理解できない」が22%と学部間で最も高く、しかも前回の20%から増大しており、図6-3の単位取得状況が最も低いことと密接に関連していると思われる。工学部夜間学生に対して、授業



内容と単位取得についての検討が今後必要であることを示唆している。

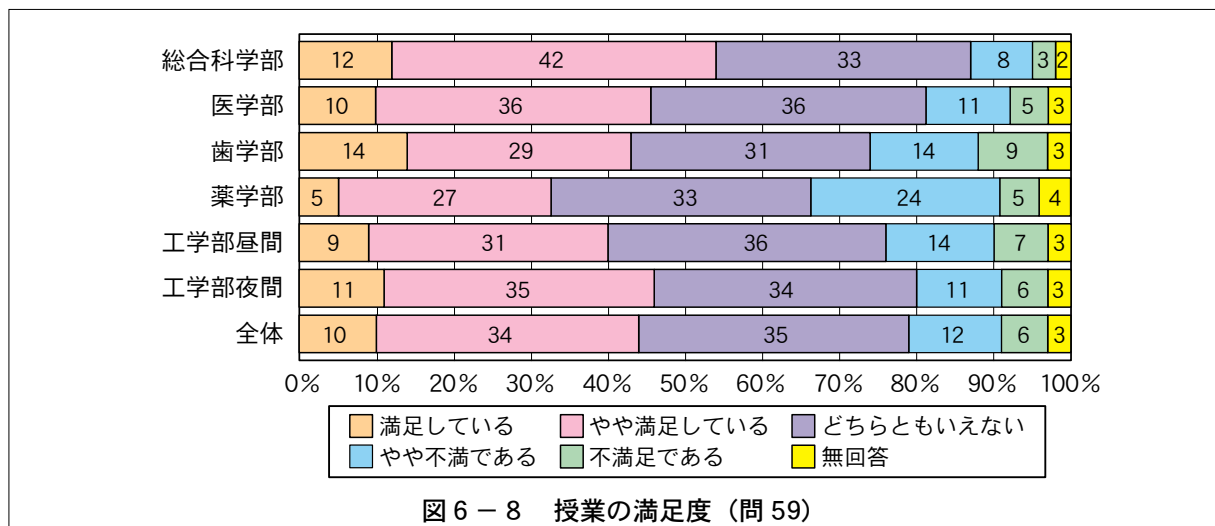


図 6-8 授業の満足度 (問 59)

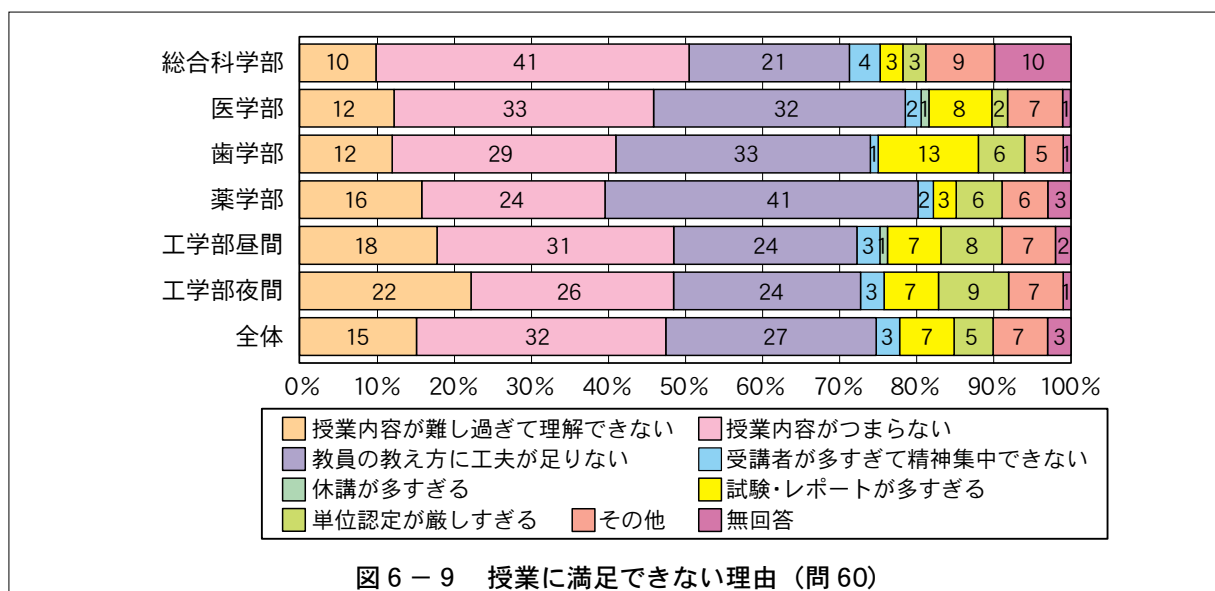


図 6-9 授業に満足できない理由 (問 60)

## 6-4 授業予習復習時間とカンニング経験 (図 6-10, 図 6-11)

図 6-10 の授業の予習・復習の時間については、各学部において1時間未満が58～74%で、平均で66%と3人のうち2人が1時間未満という短い学習時間となっている。この1時間未満の平均の比率は、前々回の調査(平成13年8月)が71%、前回調査が69%で漸次減少してきており、学習時間がわずかに増える傾向にある。1時間以上の比率は総合科学部から工学部夜間の順に32%、39%、38%、24%、27%、30%となっており、前回調査と同様に医学部と歯学部で高く、薬学部と工学部で低い。この比率をいかにして高くするかが課題である。

図 6-11 は、カンニングをしたことがあるかの問いに対するものである。平均で17%の学生があると答えているが、前回調査の22%から減少している。この比率は学部間で差があり、医学部、歯学部で前回調査と同様、23%、28%と高く、薬学部で7%と低くなっている。薬学部、工学部昼間では前回調査よりそれぞれ13%、14%低くなっており、厳密な試験実施の取組みにより効果が現れている。



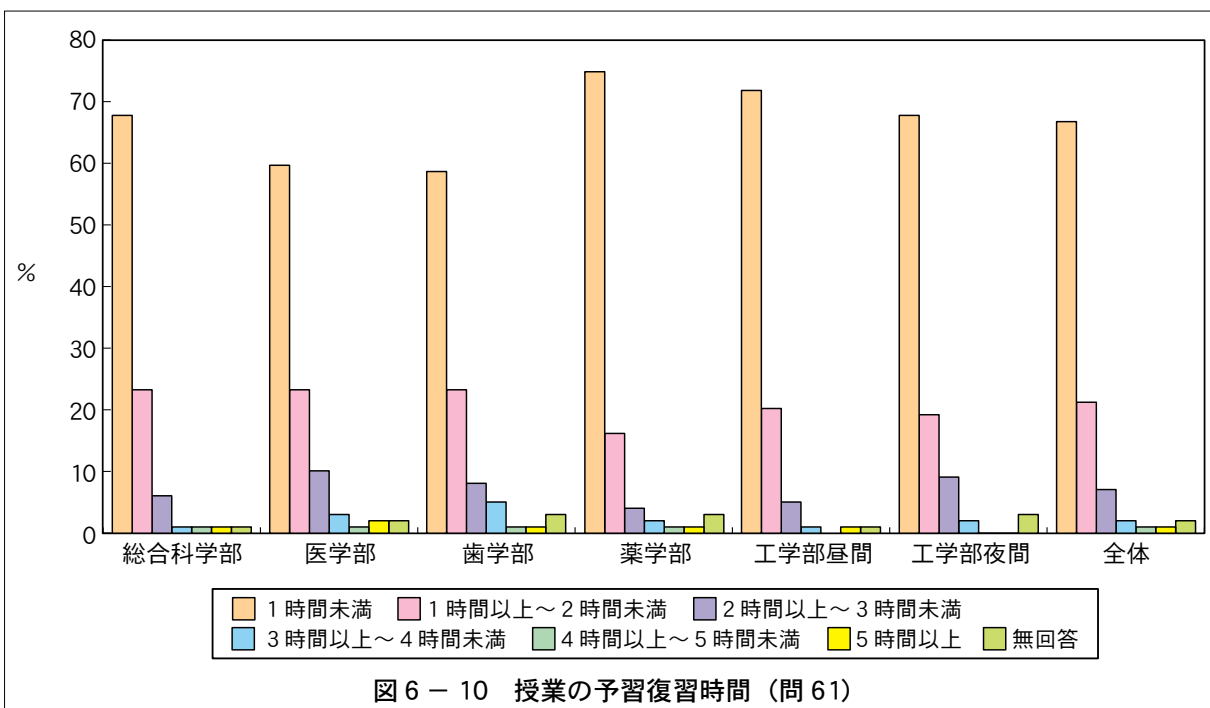


図6-10 授業の予習復習時間 (問61)

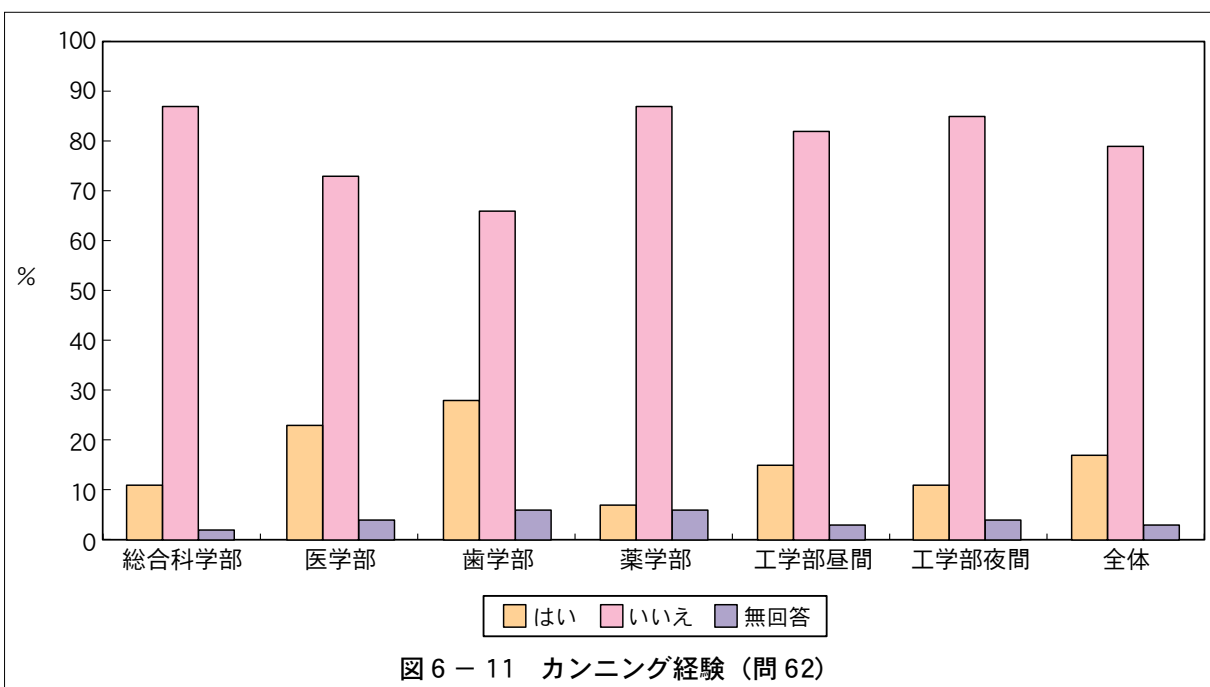


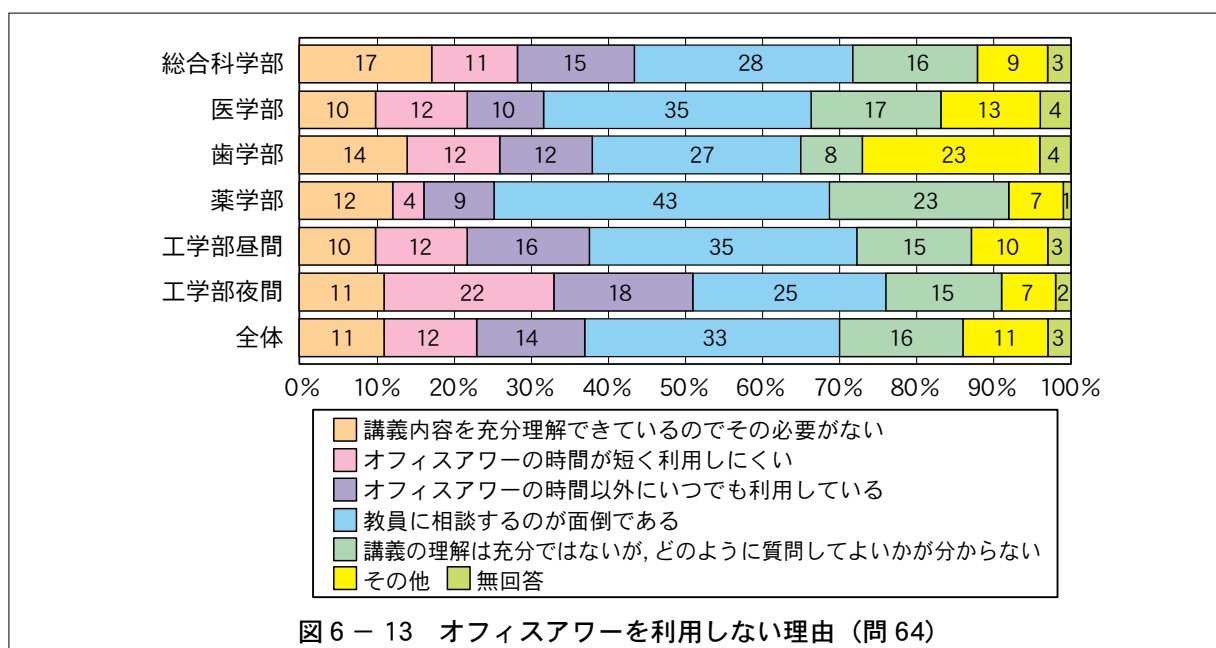
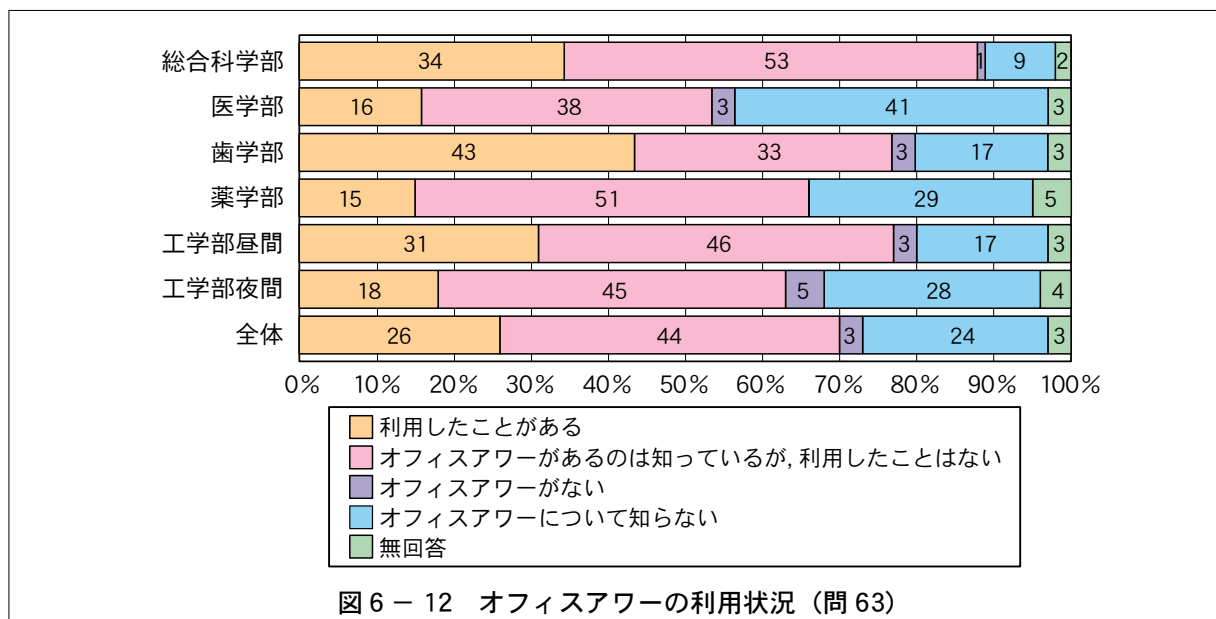
図6-11 カンニング経験 (問62)

## 6-5 オフィスアワーの利用状況 (図6-12, 図6-13)

図6-12は、今回の調査で初めてオフィスアワーの利用状況について尋ねた結果である。利用者は、全体の平均で見ても4人に1人(26%)に留まっており、オフィスアワーについて知らないものが4人に1人となっている。いまだ十分にはオフィスアワー制度が学生に浸透していないことが伺われ、特に医学部では41%の学生が知らないと答えている。図6-7の「授業で理解できないときの対応」で教員に聞く割合が5%と極めて低かったことから学生に対するオフィスアワーの周知徹底と利用しやすい環境を整えることが必要である。

図6-13は、上の質問に関連してオフィスアワーを利用しない主な理由を尋ねたものであり、平均で

見ると最も高いのが「教員に相談するのが面倒である」(33%)であり、特に薬学部では43%と高い。学生が質問に訪れやすい環境作りあるいはその雰囲気作りが必要とされている。工学部夜間では「時間が短く利用しにくい」という比率が22%と高く、オフィスアワーの時間帯の検討が要望されている。

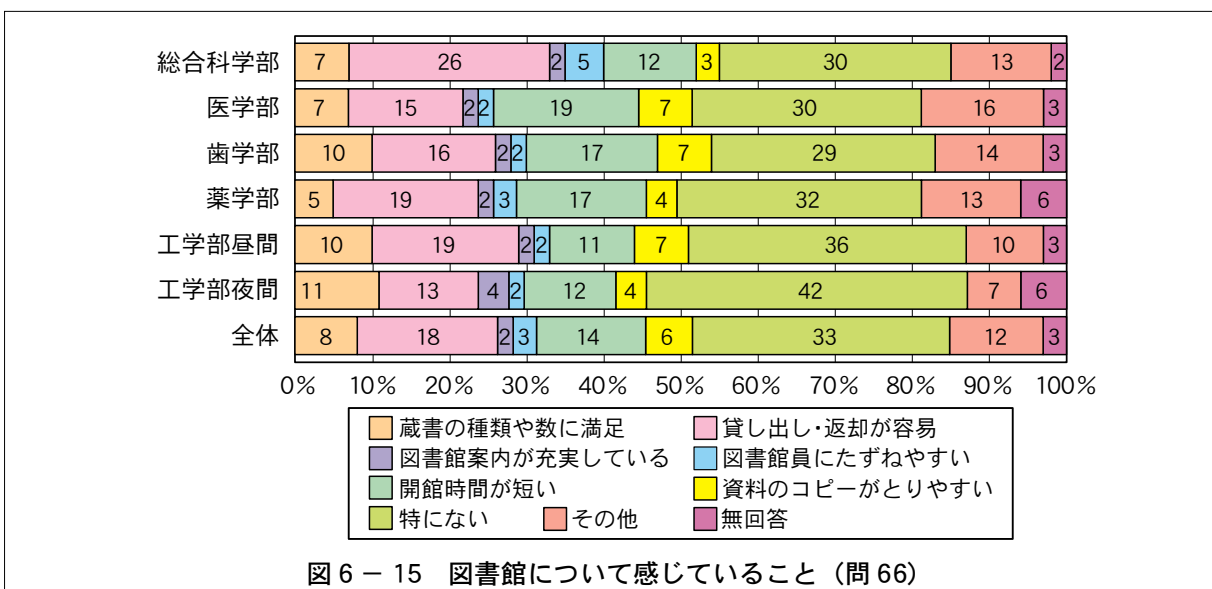
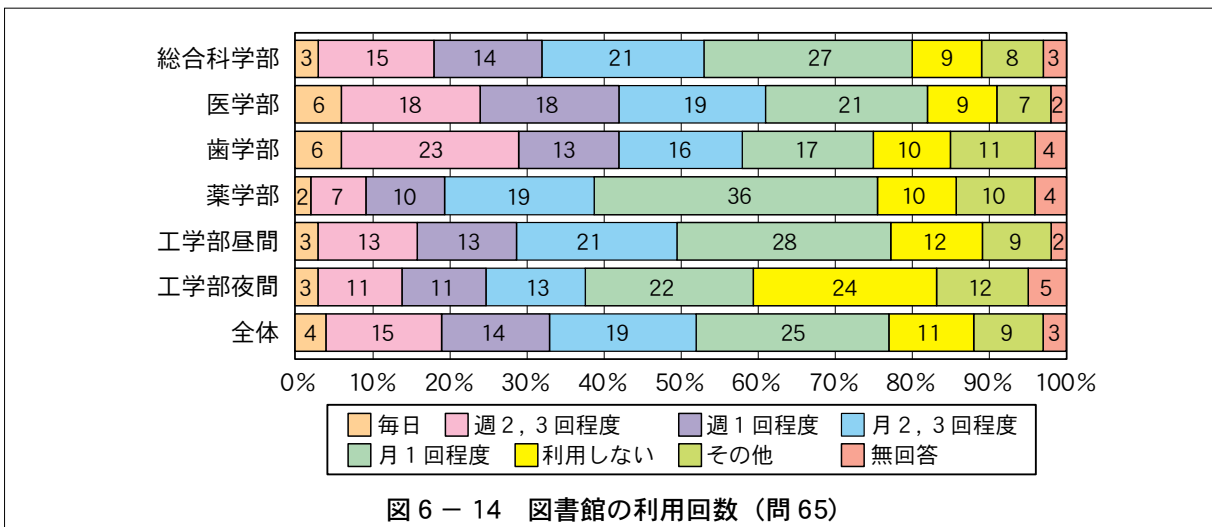


## 6 - 6 図書館の利用状況 (図 6 - 14, 図 6 - 15)

図 6 - 14 は、図書館の利用回数を調べた結果である。平均で週に 1 回以上の利用が 3 人に 1 人 (33%) であり、月 1 回以下が 45% と利用率は高くない。学部毎に週 1 回以上の利用の比率を見ると、総合科学部から工学部夜間の順に 32%, 42%, 42%, 19%, 29%, 25% となっており、医学部、歯学部の利用率が高く、薬学部が低くなっている。情報を得る手段として、インターネット以外にも多くの書籍に触れることは大切であり、また図書館の利用率を向上させることは学生同士のコミュニケーションの増大につながることから重要である。

図 6 - 15 は、図書館について感じることを尋ねたものである。「貸出し・返却が容易」という比率が

18%で、その面では利便性が良いと学生は感じているが、利用時間の延長に対する要望も14%の比率である。一方、33%の学生が「特に感じることはない」と答えているが、さらに利用率を上げるためにも利用が少ないあるいは利用しない理由を調査することが必要である。



# 第7章 課外活動について

## 7-1 サークル加入状況 (図7-1~図7-3)

### <加入率>

サークルへの加入率は、全体で74%を占めている。体育系サークルと文化系サークルの比較では学内及び学外で体育系40%、文化系18%であり、体育系サークルへの加入率が高い。前回調査との比較では、「学内体育系サークル」は37%で前回と同様であり、「学内文化系サークル」も17%で前回と同様であった。「現在加入していない」は16%、「加入したことがない」は24%を示し、加入していない学生は1ポイント減少している。サークル加入率は、前回調査時と同様の傾向を示している。

学部別のサークル加入状況(図7-1)は、歯学部、薬学部、医学部では60%以上の学生が学内及び学外のいずれかの体育系、文化系サークルに加入している。また、文化系サークルへの加入者が最も多いのは総合科学部(27%)であり、体育系サークルでは歯学部(56%)、薬学部(55%)、医学部(53%)の3学部で加入率が高い。加入率が低いのは工学部夜間で、体育系、文化系の両サークルへの加入率は合計で35%である。学部別加入率傾向も前回調査時と同様の傾向を示している。

「以前加入していたが現在は加入していない」割合が16%あり、途中でやめる理由を調べることでさらに学生意識を知ることができるかもしれない。

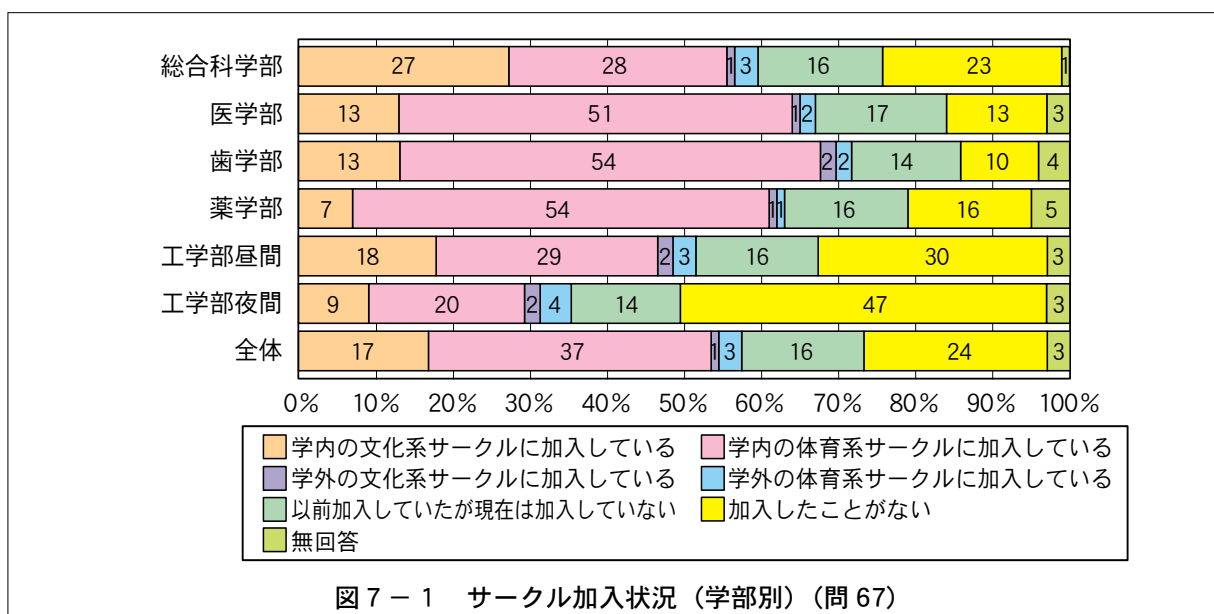
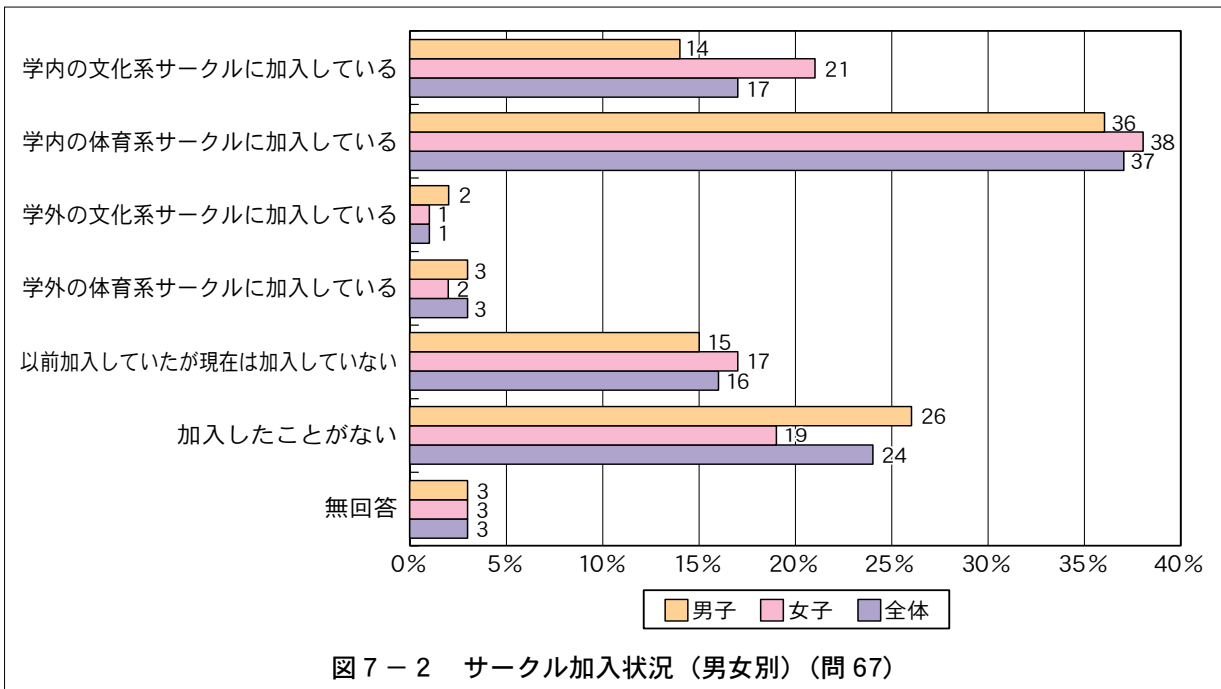


図7-1 サークル加入状況(学部別)(問67)

### <男女別>

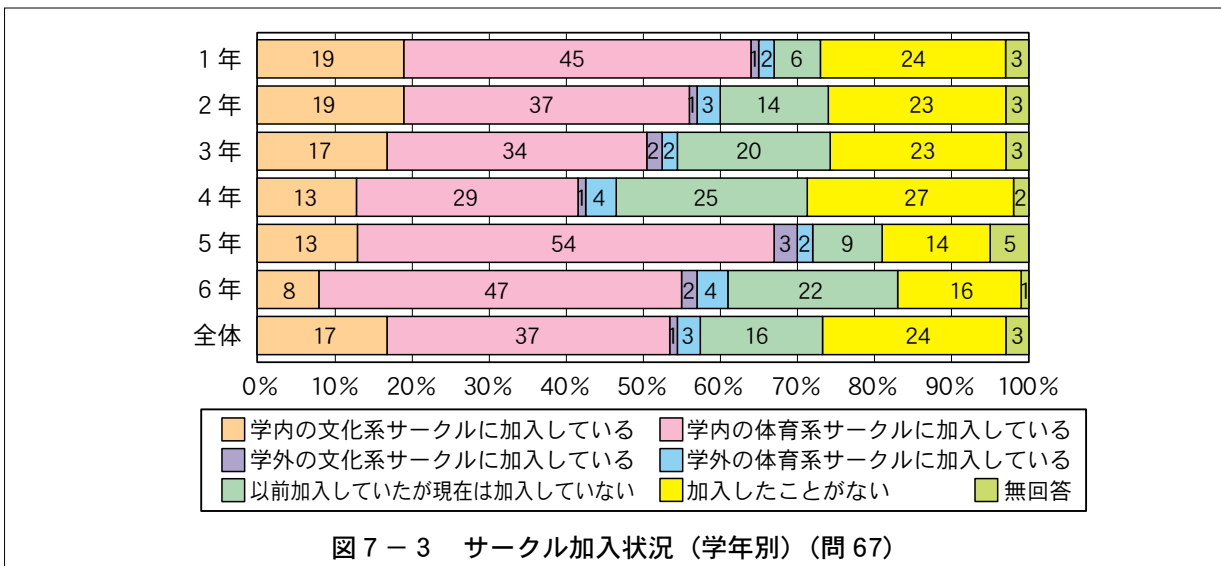
男女別のサークル加入率(図7-2)において差が見られたのは、「学内文化系サークル加入率」と「加入していない」割合であった。前者は女子学生の方が男子学生に比べて若干加入率が高く、後者では男子学生の方が高かった。いずれも前回調査時の傾向と同様であった。



### <学年別>

学年別 (図 7-3) では、1 年生および 2 年生で学内の体育系、文化系サークルへの加入率が高い。しかし、学年進行に伴い「以前加入していたが現在は加入していない」学生の割合が増加している。このサークル加入状況はサークル活動を 4 年間継続するのが難しいことを示している。学年の進行とともに、専門性の高い学習が求められる、教室外の準備学習や復習の時間を要するためと推測される。なお、5 年生、6 年生で学内体育系サークルへの加入率が高くなっているが、5 年生と 6 年生は医学部医学科と歯学部の学生だけになるため、医学科、歯学部の学生のみで学年別比較を試みた結果、学年進行に応じて加入率が減少しており、他の学部と同様な傾向が見られた。

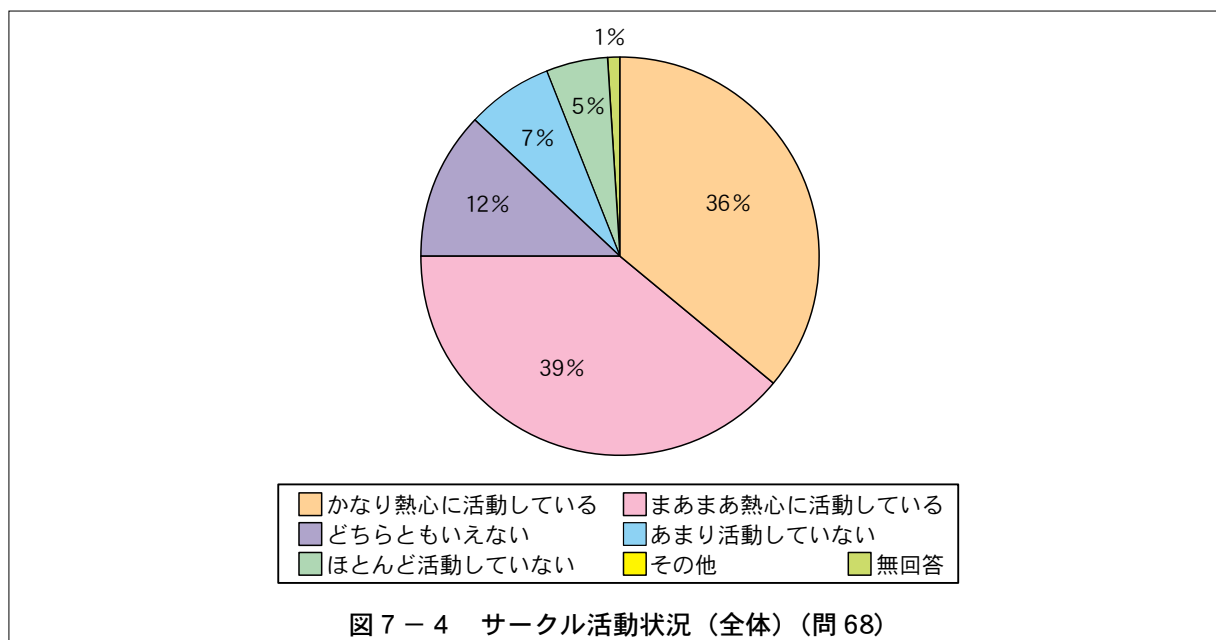
以上、学生の加入状況は前回調査時とほぼ同様の傾向にあった。



## 7-2 活動状況 (図 7-4, 図 7-5)

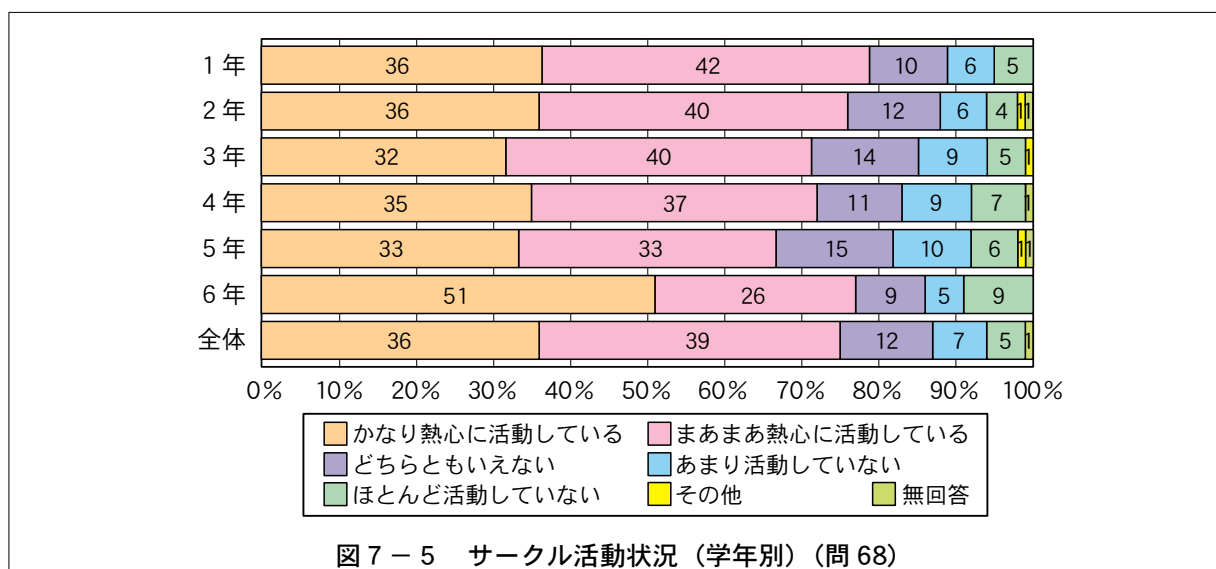
サークル活動状況 (図 7-4) は、2,238 名のサークル入会者の回答を検討した。「まあまあ熱心に活

動している」は39%で、「かなり熱心に活動している」は36%であり、75%の学生がサークル活動を積極的にすすめている。これは、前回調査時と全く同様の割合である。「どちらとも言えない」が12%、「あまり活動していない」が7%、「ほとんど活動していない」が5%である。これも前回調査の結果とほぼ同じ結果となっている。サークル活動への加入者状況、サークル活動状況は活発だといえる。



### <学年別>

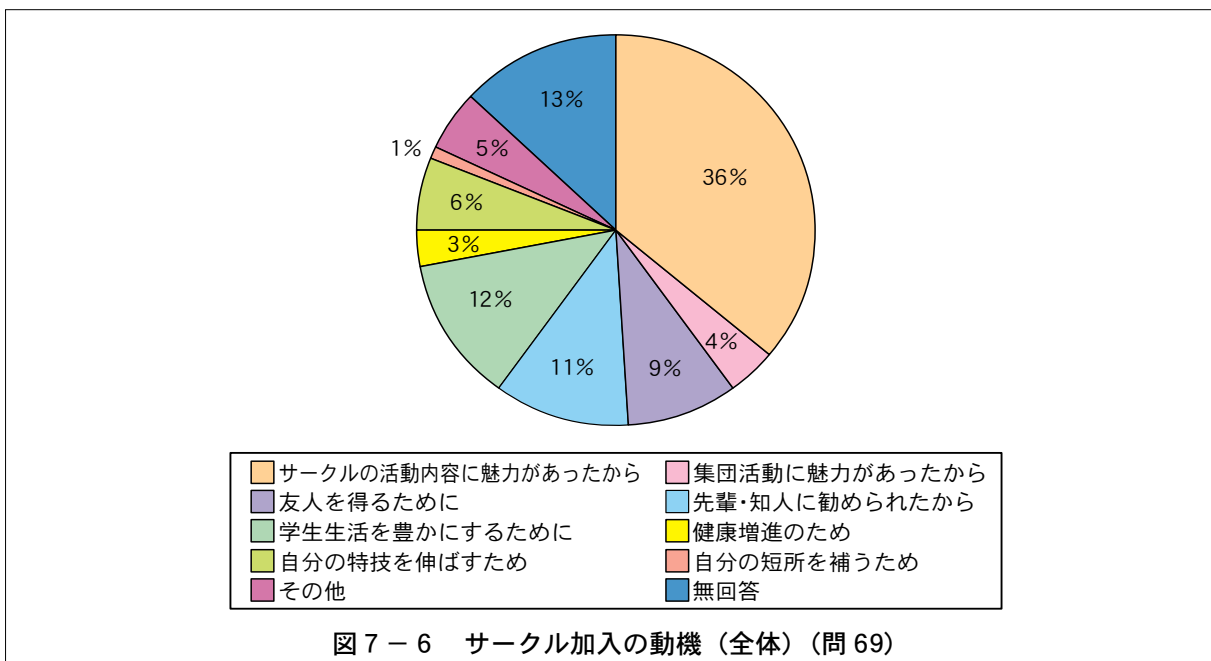
学年別 (図 7-5) をみると、1年生、2年生の方が3年生以上と比較して「かなり熱心」に活動している学生と「まあまあ熱心」に活動する学生が若干多い傾向がある。学年が高くなるにつれて「どちらとも言えない」学生、「あまり活動していない」学生、「ほとんど活動していない」学生が増加する傾向にある。



## 7-3 加入の動機 (図 7-6 ~ 図 7-7)

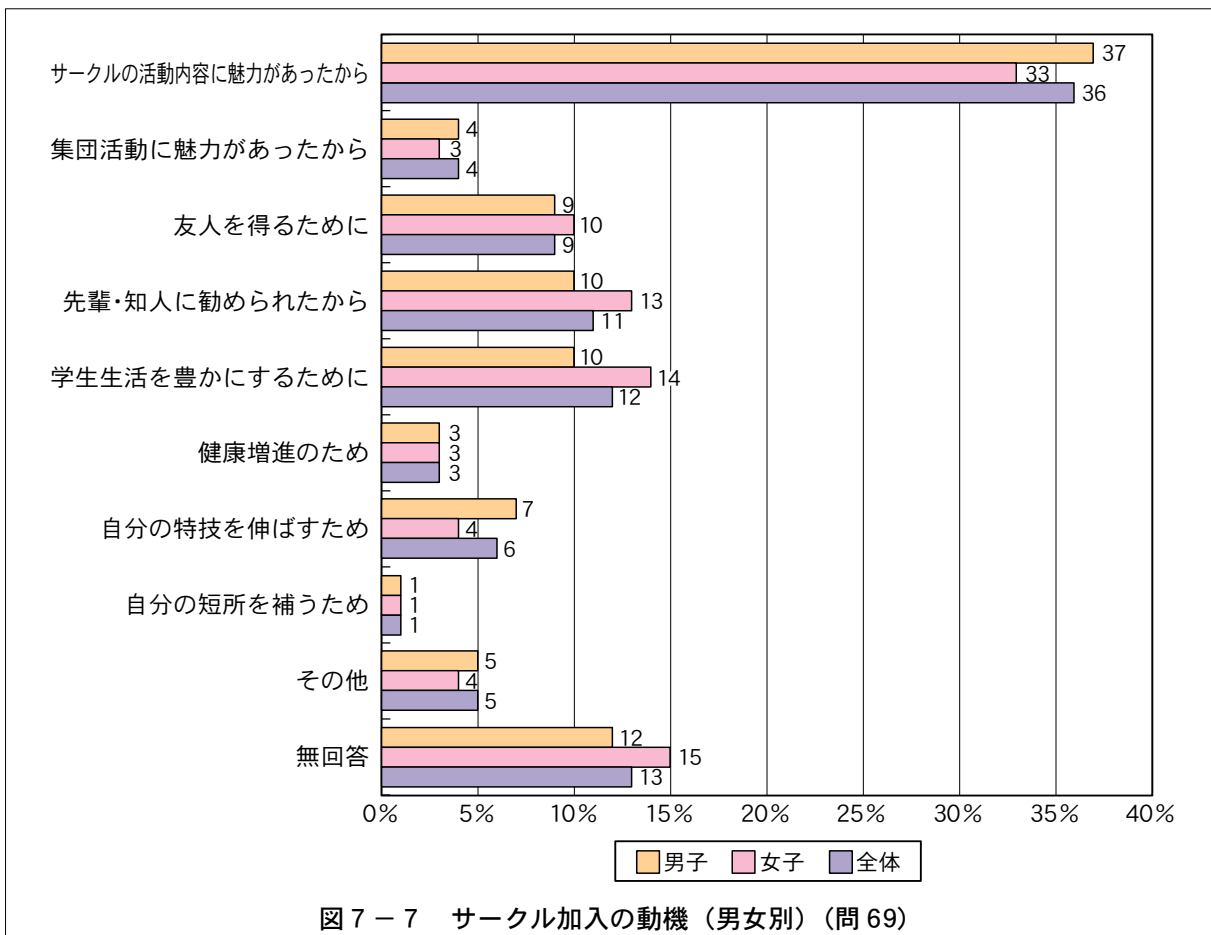
サークルへの加入動機 (図 7-6) は、「サークルの活動内容に魅力があったから」が36%で最も高く、次いで「学生生活を豊かにするため」、「先輩・友人に勧められたから」、「友人を得るため」、「自分

の特技を伸ばすため」と続いている。これは前回調査時と比較するとすべて2～3%低下している。「その他」と「無回答」を合わせて、18%になっている。



<男女別>

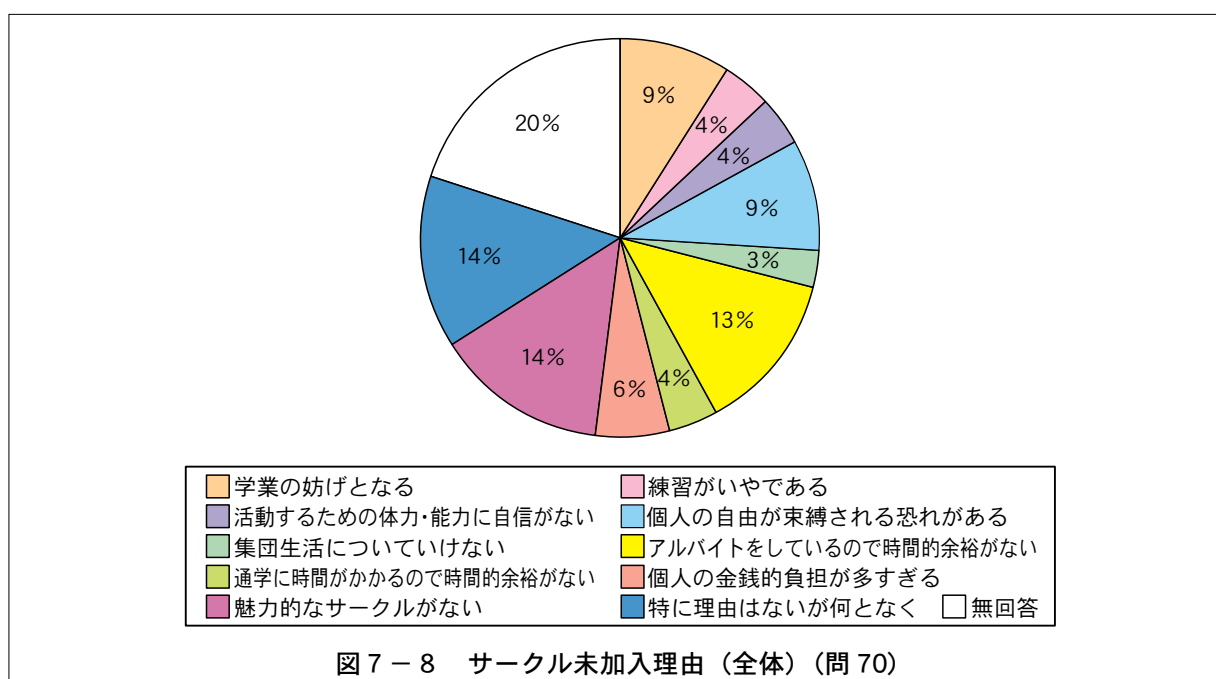
男女別 (図7-7) にみたサークル加入動機は、「サークル活動内容に魅力があったから」が男女ともに最も高い動機であった。女子学生の方が男子学生に比べて高い加入動機となっているのは「学生生活



を豊かにするため」、「先輩・友人に勧められたから」、「友人を得るため」の3項目であり、それぞれ4%、3%、1%高くなっている。男子学生が女子学生よりも高くなっている加入動機は「自分の特技を伸ばすため」と「集団活動に魅力があったから」の2項目であり、3%、1%高くなっている。サークルへの加入動機にも男女の相違があり、女性は他者依存的であり、男性は自己本位的にサークルに加入すると言える。

#### 7-4 サークルに加入していない理由 (図7-8～図7-11)

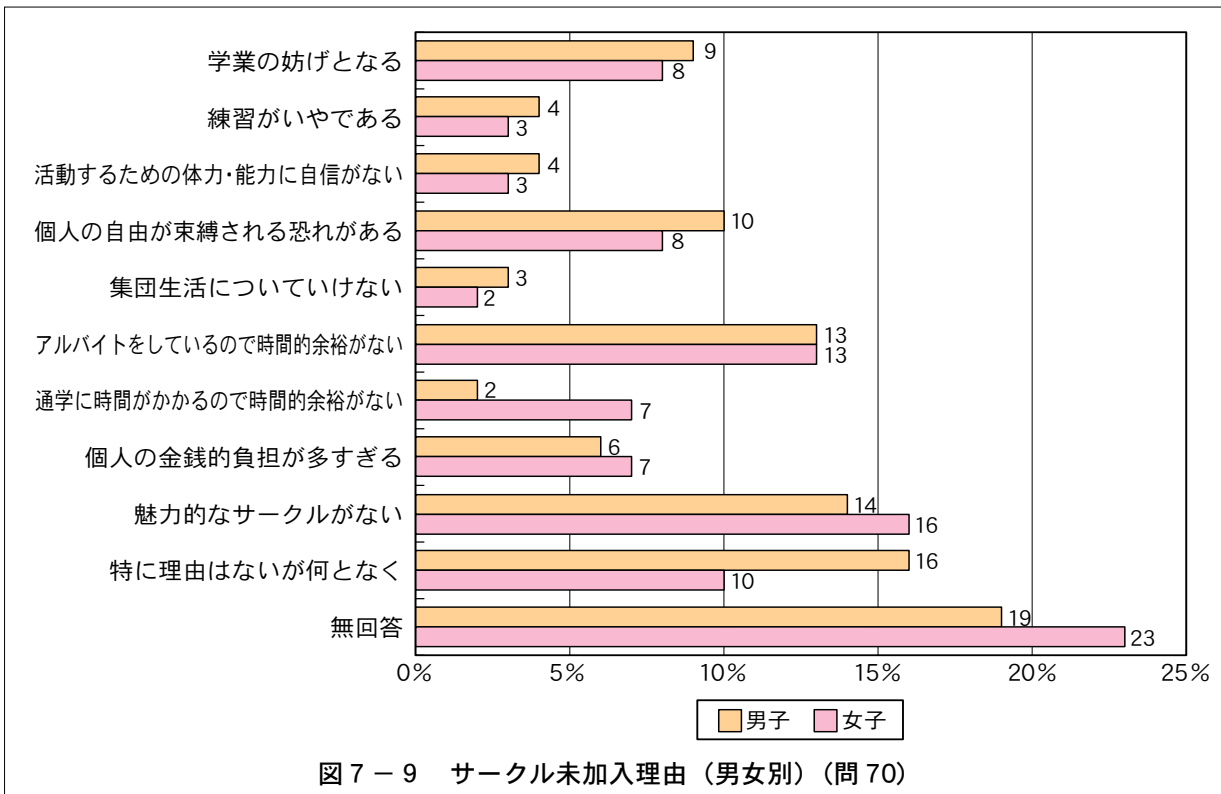
サークルに加入していない1,533名の回答結果(図7-8)から、最も高いのが「特に理由がないが何となく」であり、「魅力的なサークルがない」、「アルバイトをしているので時間的余裕がない」、「個人の自由が束縛される恐れがある」、「学業の妨げになる」と続いている。これは前回調査時とほぼ同じ順位である。それぞれの項目は3～4%低くなっている。この質問でも20%が無回答となっている。



#### <男女別>

加入しない理由を男女別(図7-9)でみる。ほとんどの項目で男子学生の割合が高くなっている。主な理由は男女で大きな差はなく、「特に理由はないが何となく」(16%、10%)、「魅力的なサークルがない」(14%、16%)、「アルバイトをしているので時間的余裕がない」(13%、13%)、「個人の自由が束縛される恐れがある」(10%、8%)である。前回調査時には「学業の妨げになる」と回答した男子学生の割合が高かったが、今回は男女で差がなくなっている。



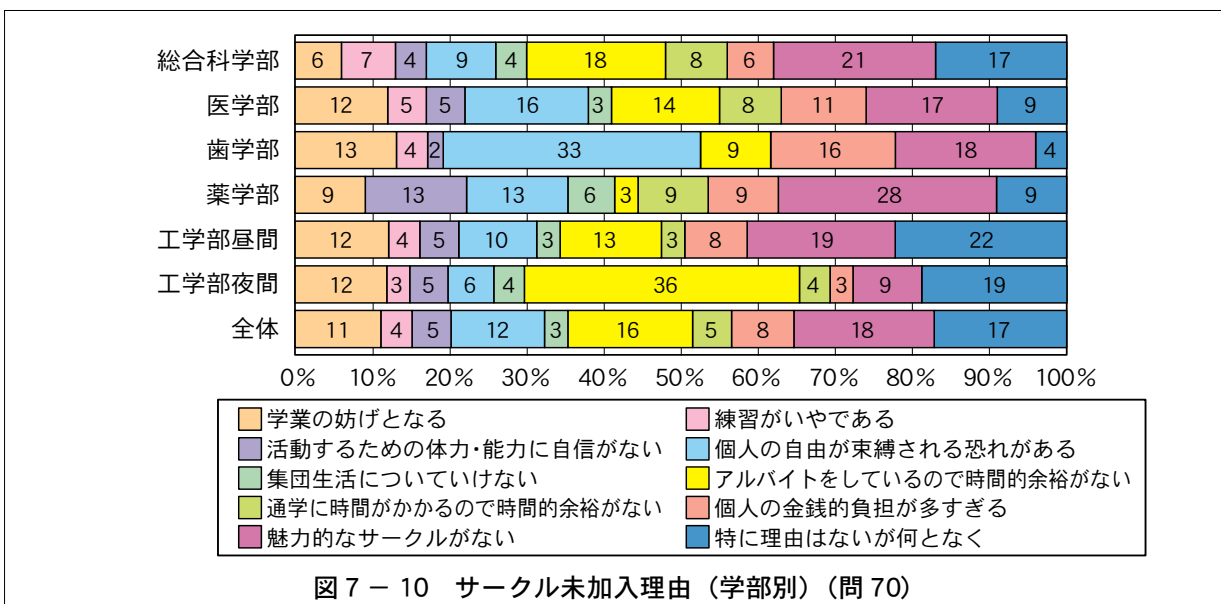


＜学部間の比較＞

学部別の未加入理由を示したのが、図 7-10 である。図 7-1 から明らかなように未加入率の高い学部は、工学部夜間 61%、工学部昼間 45%、総合科学部 42%となっている。工学部夜間と総合科学部では「アルバイトをしているので時間的余裕がない」がそれぞれ理由の第 1 位、第 2 位となっている。この 2 学部については経済的な理由が大きいと言える。

医学部、歯学部、薬学部は、未加入率が先の 2 学部比べて低い。その中で、医学部は「魅力的なサークルがない」と「個人の自由が束縛される恐れがある」がそれぞれ第 1 位か第 2 位を占めている。これら 3 学部は束縛されたくない気持ちが強いと言える。

全体的な傾向としては、「魅力的なサークルがない」と「特に理由はないが何となく」が大きな理由になっている。



<学年別>

学年別（図7-11）の結果では、医学部・歯学部だけになる6年生を除き、すべて無回答の割合が選択肢の中で最も高くなっており、18～27%となっている。その中で「特に理由がないが何となく」と「魅力的なサークルがない」がどの学年でも第2位もしくは第3位となっている。1年生、5年生と6年生で「個人の自由が束縛される」（10%、15%、30%）がそれぞれ第3位、第2位、第1位となっている。2年、3年、4年では、「アルバイトをしているので時間的余裕がない」がそれぞれの学年（16%、14%、14%）で第2位、第3位となっている。

1年生で「魅力的なサークルがない」、「特に理由がないが何となく」、「個人の自由が束縛される」が上位に上がっている。

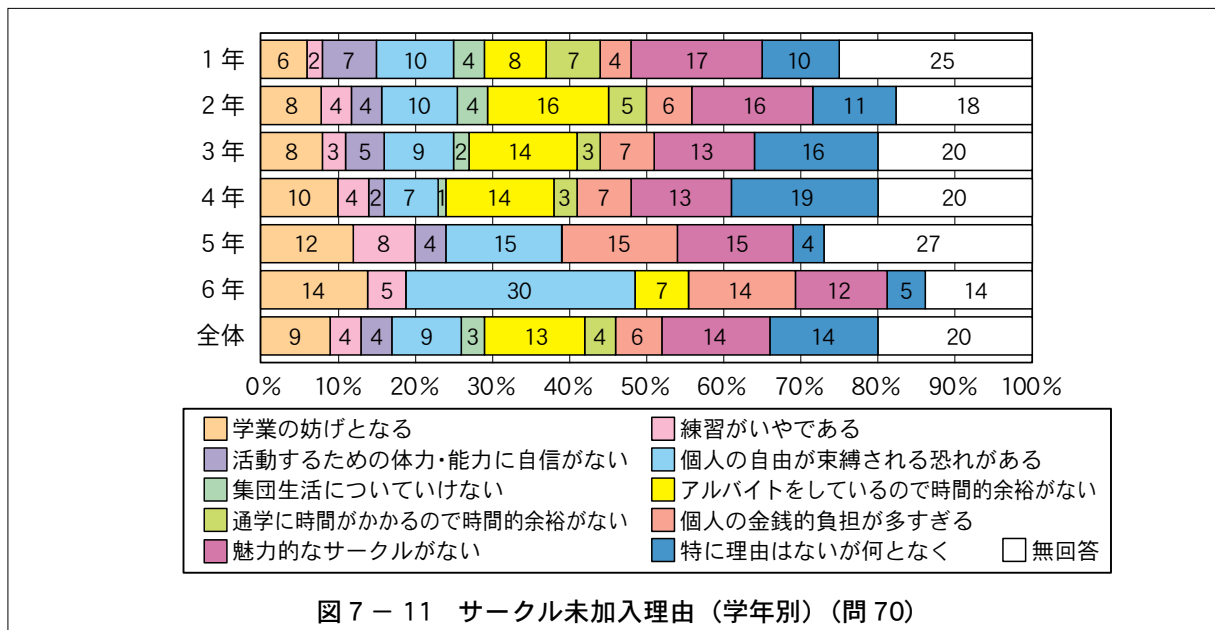


図7-11 サークル未加入理由（学年別）（問70）

7-5 学生行事（図7-12～図7-15）

新入生歓迎会や大学祭などの学生行事（図7-12）については、3,878名の学生が回答した。大学行事の必要性は68%が認めている。項目別に見ると、「必要だし積極的に参加している」は前回調査時の

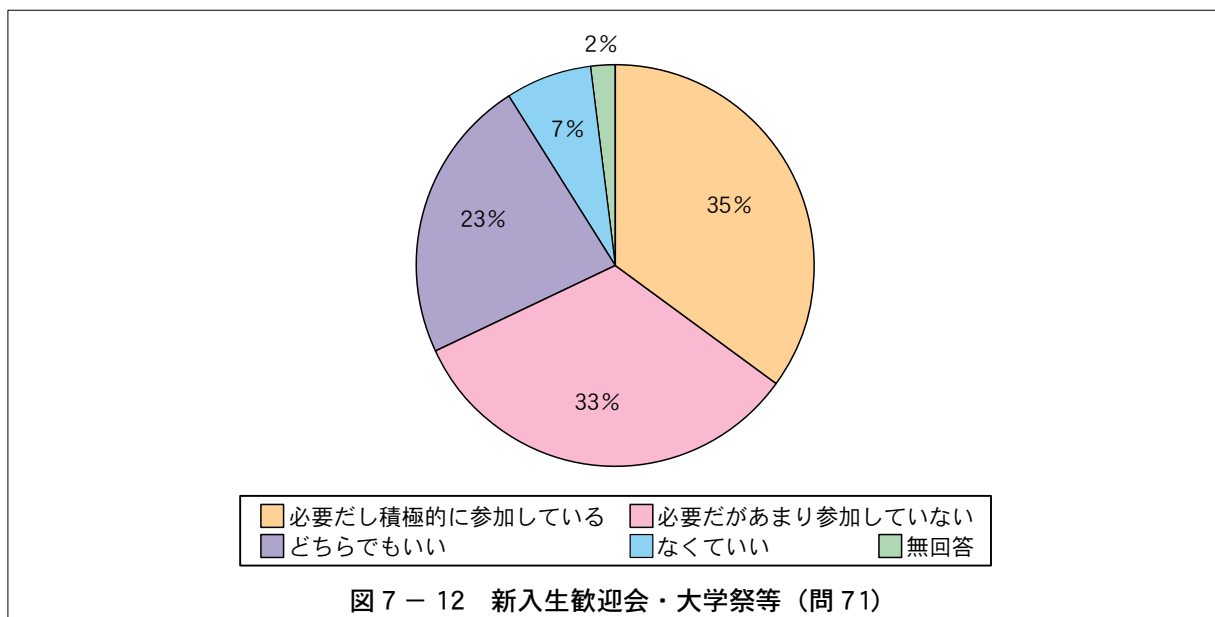


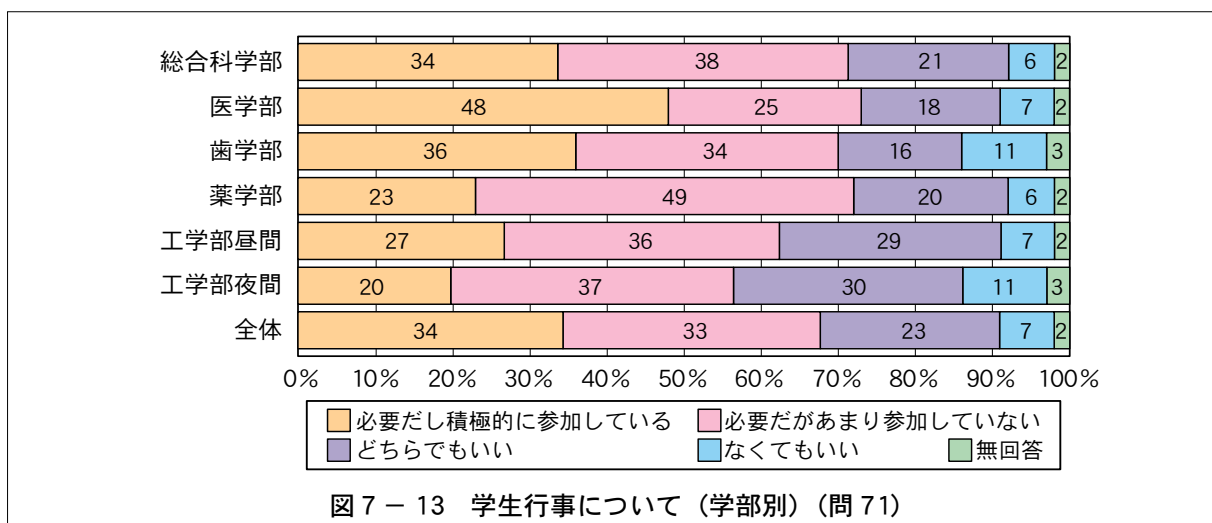
図7-12 新入生歓迎会・大学祭等（問71）

32%を3%上回り、「必要だがあまり参加しない」は33%で前回調査時と同様である。「どちらでもいい」は23%で前回調査時より3%減少し、「なくてもいい」は7%で前回調査時と同様である。行事への参加意識は前回調査時より高くなっている。

### <学部別>

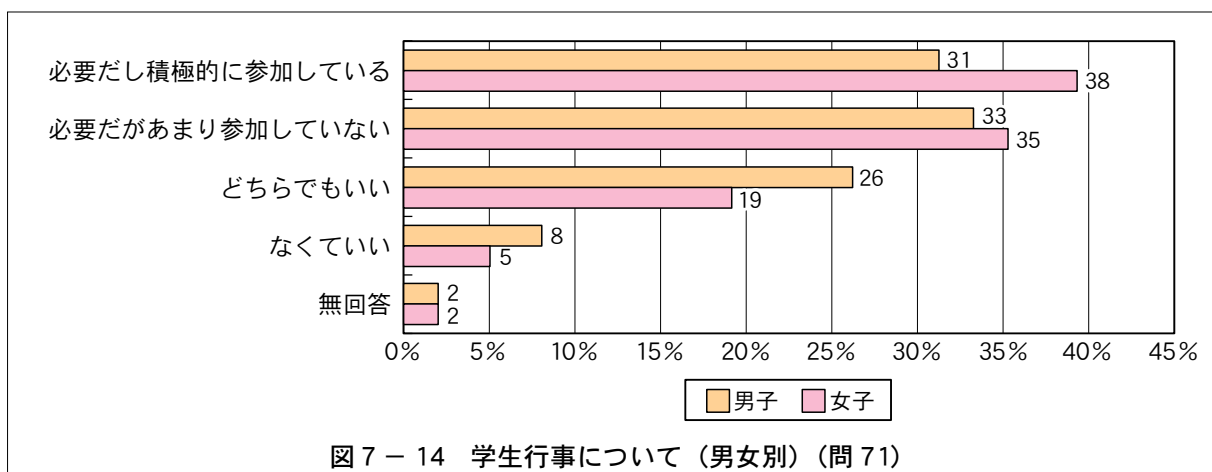
学部別の意識は図7-13に示した。学生行事の必要性を認めているのは、工学部（昼間・夜間）以外の学部で70～73%である。しかし、実際に「積極的に参加している」のは、医学部が最も高く、歯学部、総合科学部の順になっている。これは、前回調査時と同じである。「必要だがあまり参加しない」のは、薬学部、総合科学部、工学部昼間である。

学生行事への参加意識には学部間で相違があるが、70%前後は必要性を認めている。



### <男女別>

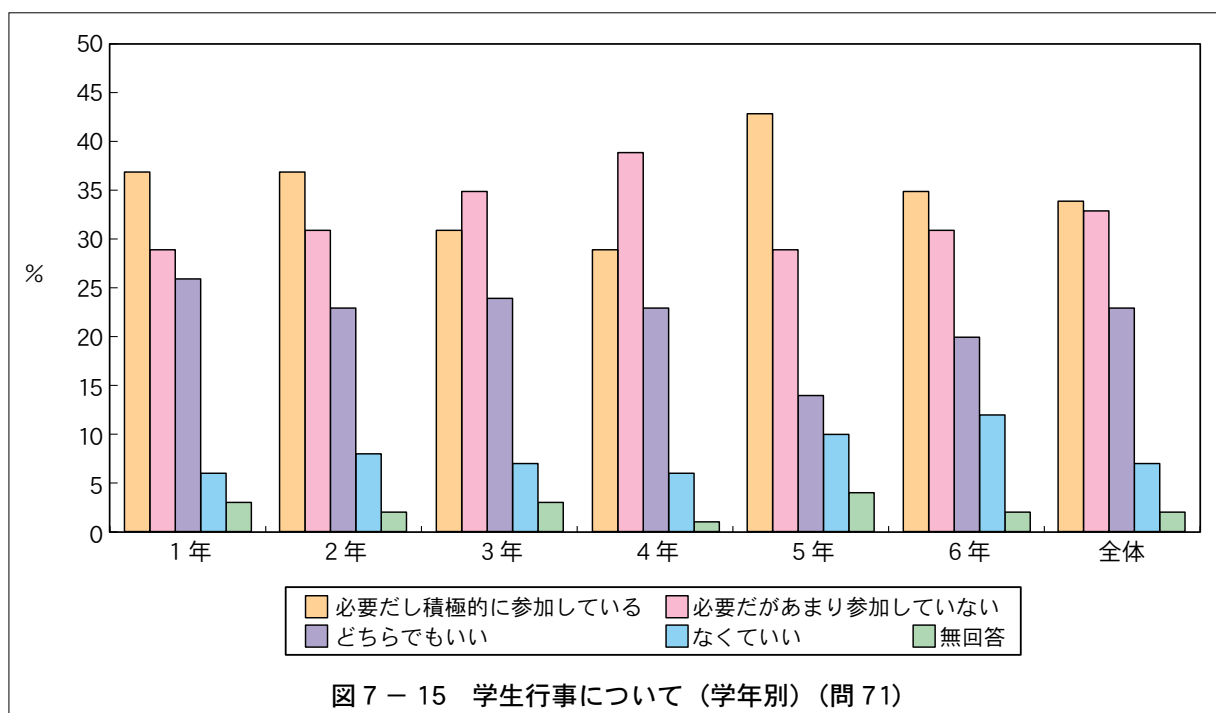
男女別（図7-14）では、前回調査時と同様、女子の方が男子に比べて学生行事への参加意欲は高い。また、前回調査時と比べ、「必要だし積極的に参加している」は男女共、それぞれ1%、2%高くなっている。



### <学年別>

学年別（図7-15）の参加と意識の状況では、1年生と2年生は「必要だし積極的に参加している」割合が高い。3年生と4年生になると「必要だがあまり参加していない」割合が高くなる。1～2年生

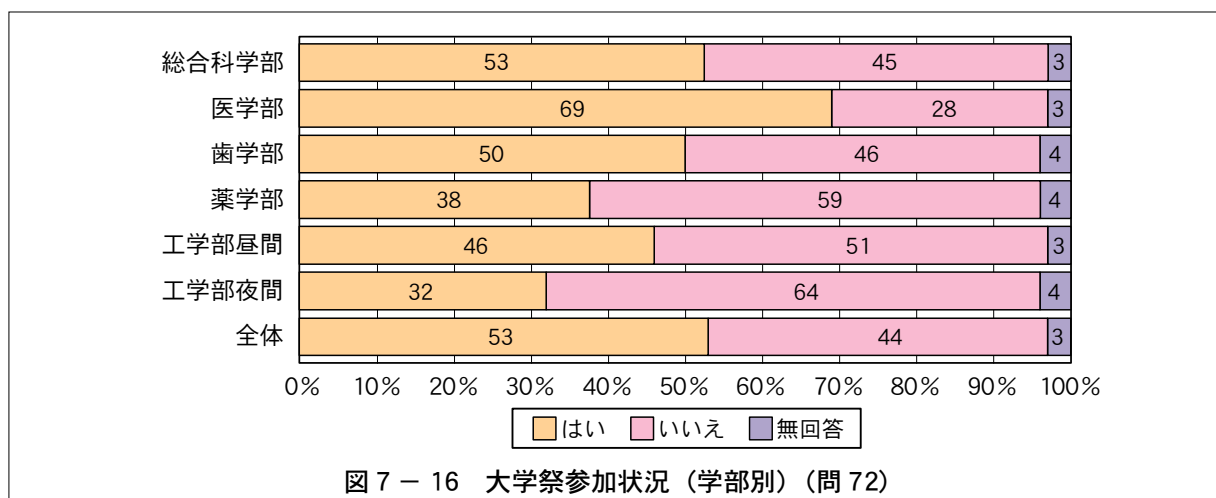
は学生行事に参加できる心と時間の余裕があるが、3～4年になると就職活動や研究などでその余裕がなくなるのかもしれない。



新入生歓迎会や大学祭などの学生行事への参加は、学生が友人や教職員との関わりを深めることを通して人間形成の上で大きな役割を果たす機会になり得る。より多くの学生の関心を高め、参加を促進していくために、学生を支える工夫を教職員が努力する必要があるだろう。

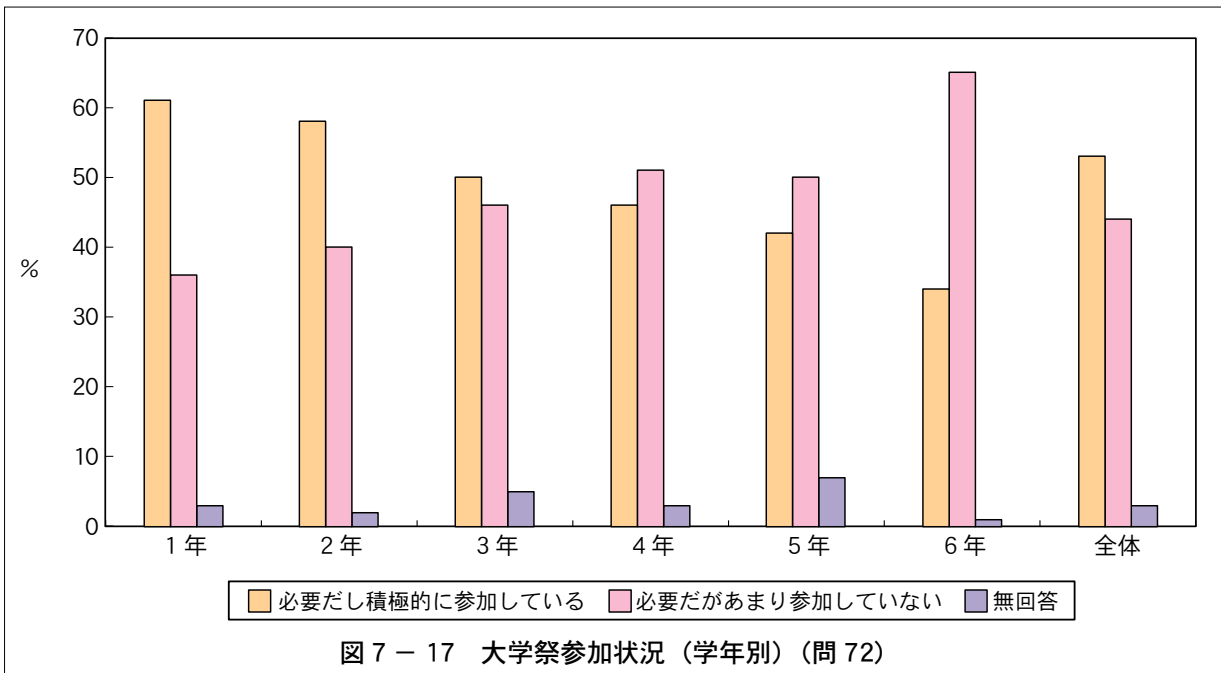
## 7-6 大学祭への参加状況（図7-16、図7-17）

大学祭への参加意志（図7-16）は、全体の53%が「参加する」と回答している。前回調査時と同様、医学部が最も高く、総合科学部、歯学部が半数を超えている。学生行事全体の状況である図7-14とほぼ同様の傾向である。前回調査時との比較では薬学部が19%低下している。



### <学年別>

学年別（図7-17）では、1年生61%、2年生58%、3年生50%と学年進行に従って参加率は減少している。前回調査時に比して1年生と2年生の参加が2%低下している。



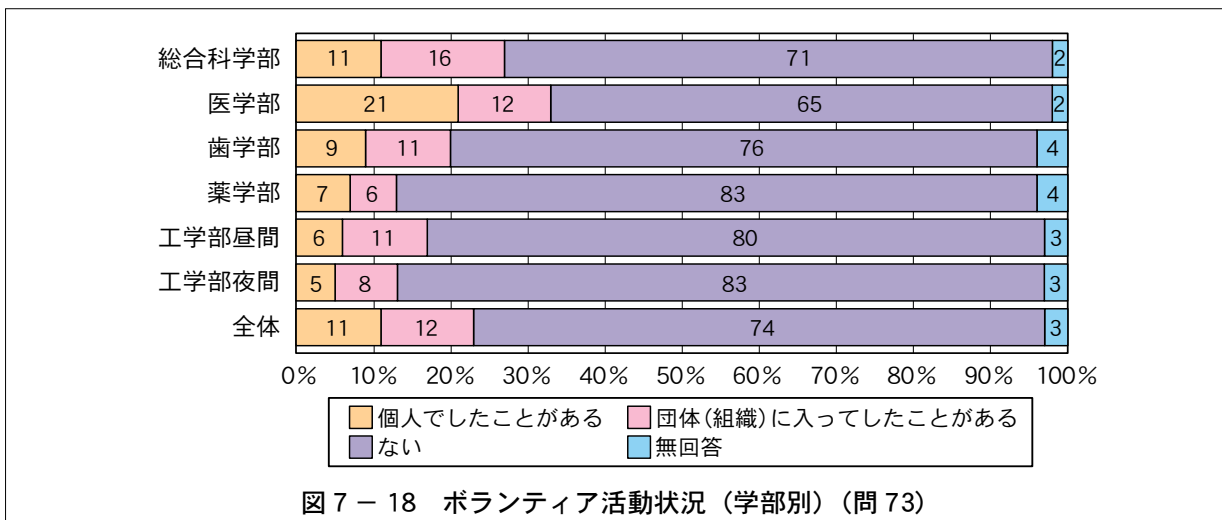
## 7-7 ボランティア活動 (図 7-18~図 7-19)

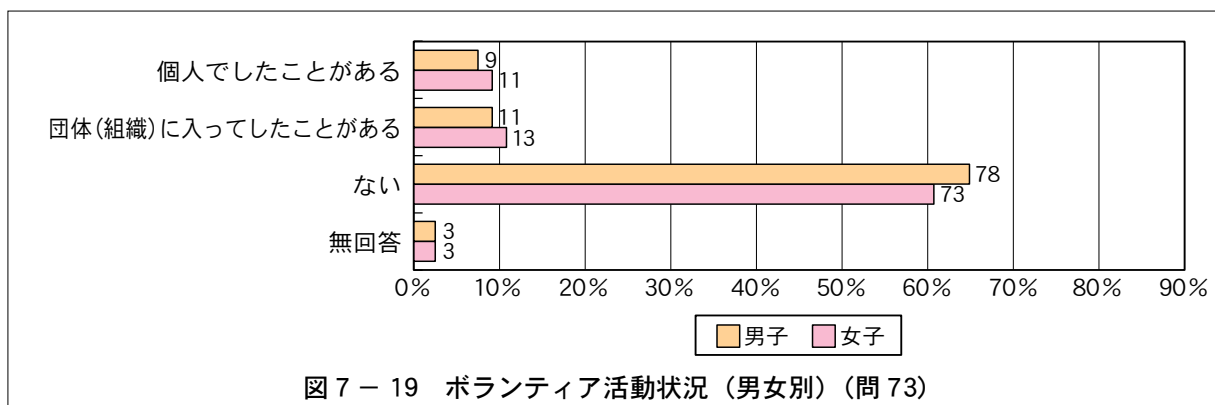
### <大学入学後のボランティア活動>

ボランティア活動 (図 7-18) では、全体では「個人でしたことがある」学生は 11%、「団体 (組織) に入っていたことがある」学生は 12%であり、前回調査時とほぼ同様の傾向であり、ボランティア活動経験者は高いとは言えない。その中で医学部は個人と団体と合わせて 33%であり、前回調査時と同様、一番割合は高くなっている。

### <男女別>

男女別 (図 7-19) では、「個人でしたことがある」と「団体 (組織) に入っていたことがある」を合わせて男子学生の 20%、女子学生の 24%が活動を経験している。前回調査時と比べると「個人でしたことがある」女子学生は 4%低下し、「団体 (組織) に入っていたことがある」男子学生は 1%高くなっているもののほぼ同じ傾向である。ボランティア経験者はいずれも女子学生に多い。





## 7-8 まとめと今後の課題

課外活動は、前回調査時とほぼ同様の傾向となっている。サークルの加入状況については、工学部夜間が低くなっている。これは、すでに就業している学生も多く、授業形態（実験の多さ等）等も関連していると推測される。学生は、各自の個性と条件に適応したサークル又は団体に加入し、大学生活を送っている状況と言える。学年が高くなるにしたがって活動が低くなるのは、卒業研究、就職あるいは進学に向けての活動に学生のエネルギーが向けられることが考えられる。また、2年生以上になると「アルバイトをしているので時間的余裕がない」がサークル未加入理由の上位に上がってくる。経済的に自立しようとする自立心の表れか、社会の経済情勢の反映かは不明であるが、経済的理由が大きくなっていく。

サークル加入率を上げるには、入学時の新入生合宿研修、大学入門講座等を利用して正課外活動で得られる豊かな大学生活作りへの関心を高める企画を作成すること、より多くの学生がさまざまな活動を楽しめるように課外活動の幅を広げること等の工夫と共に、課外活動を支える環境作りが必要である。対人コミュニケーションスキルに乏しい学生が増加する傾向にある中で、サークル活動を通してそれまでとは違った対人関係を築く経験ができるのであれば、加入率を上げる努力をすることは意義があると言える。その反面、アルコールハラスメント、いじめなどが生じる可能性もある。大学は各学部の学生会および団体連合等を通じて活動状況を把握し、学生の発達に応じたサークル活動を適切に支援する必要があるだろう。

学生行事は、70%の学生が必要性を認めている。その中で「あまり参加しない」学生をいかにして参加するように仕向けるかが課題である。大学祭を始めとした学生行事は、本来学生の自主的・主体的な活動であり、学生の多面的な能力を開発する場であり、様々な交流の機会でもある。学生行事を学生にとって「魅力のある」ものにするためには、十分な企画と計画が必要となって来る。ここでも、その意義と役割を重視し、より多くの学生の積極的な参加が実現できるよう各学生団体に対してどのような支援ができるかを大学は検討する必要があるだろう。

ボランティア活動経験学生は極めて少ない。ボランティア活動は、学生のホスピタリティマインドを身につける経験として重要であり、地域社会に貢献する活動でもある。今後の拡充が期待される活動領域である。生協委員、学部レベルで学内の清掃活動等を行っているが、それらと共に地域社会へのボランティア活動の推進を目指す必要がある。学生ボランティアセンター等を開設し、ボランティア情報の提供、ボランティア活動の計画、ボランティア相談等に応じることも一案であると考えられる。

## 第8章 進路・就職について

### 8-1 進路情報入手手段 (図8-1)

図8-1は、学部生全員に対して複数回答可として尋ねたものである。各学部ともよく似た傾向があり、インターネット利用、先輩・知人、指導教員が多く、次いで就職情報誌、新聞マスコミや大学内資料の順である。医学部・歯学部・薬学部では、「先輩・知人」から情報を入手する割合が高い。低学年時から就職支援室利用の活性化を図る必要もある。

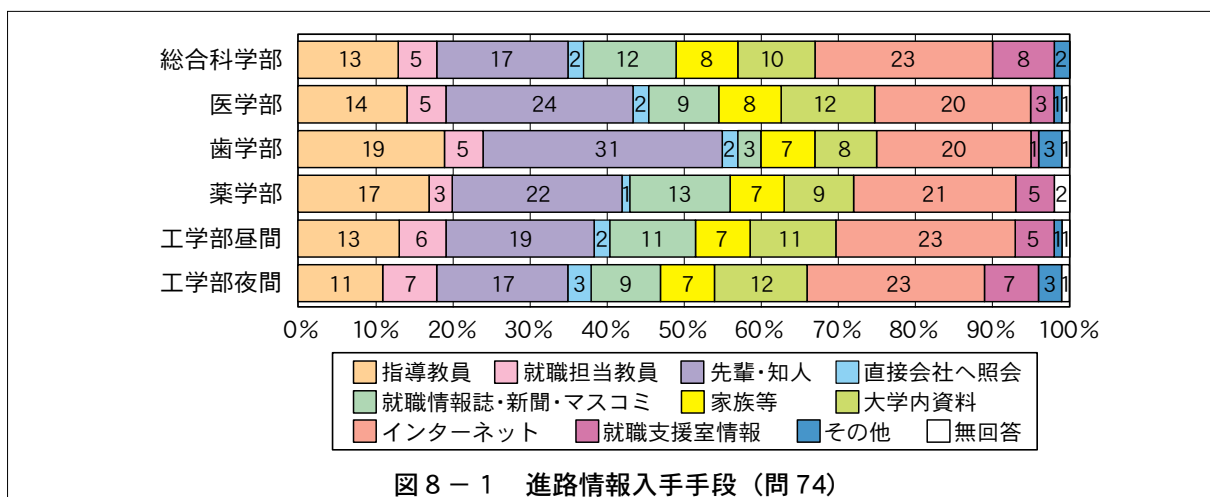


図8-1 進路情報入手手段 (問74)

### 8-2 就職・進学希望について (図8-2)

今回の調査で初めてこの設問を設けた図8-2は、学部生全員に対して複数回答可として尋ねたものである。医学部・歯学部は75%・74%、総合科学部66%、工学部夜間58%が就職希望である。それに対して薬学部34%、工学部昼間43%が就職希望であり、学部によって就職・進学希望の割合が違う事が分かる。

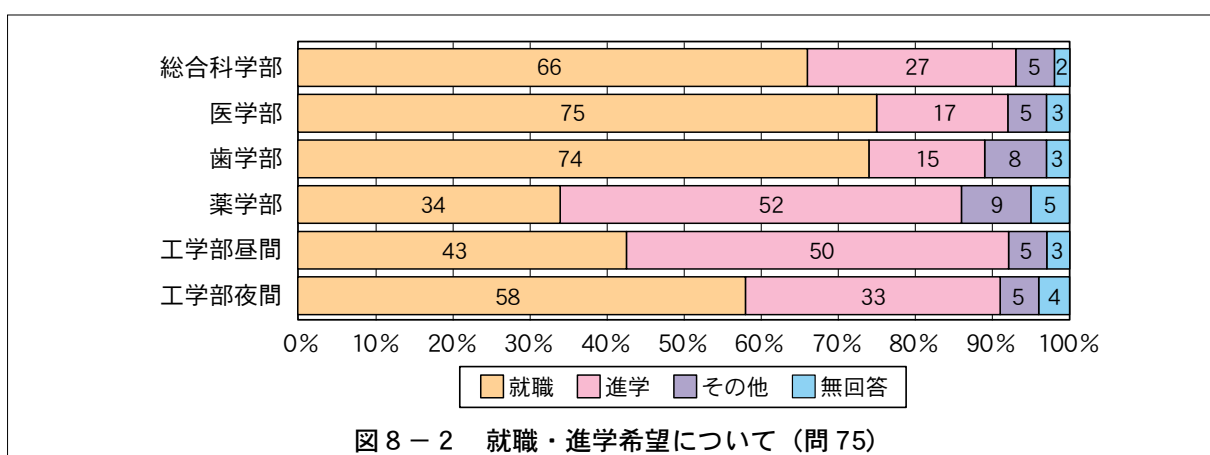


図8-2 就職・進学希望について (問75)

### 8-3 就職先選択で重視するもの (図8-3)

図8-3は、学部生全員に対して複数回答可として尋ねたものである。各学部共によく似た傾向を示している。全体を見ると就職先の将来性・安定性22%が最も多く、次いで収入19%、人間関係の良い



ところ18%，能力を發揮できるところ15%，勤務先の地理的条件13%となっている。社会的評価7%は少なく，先端技術を評価してくれるところ2%，研究評価をしてしてくれるところ1%は更に少ない。全体的に安定志向である。この事は前回(21%，18%，18%，17%)，前々回(23%，20%，21%，17%)の調査と比べても傾向は変わっていない。

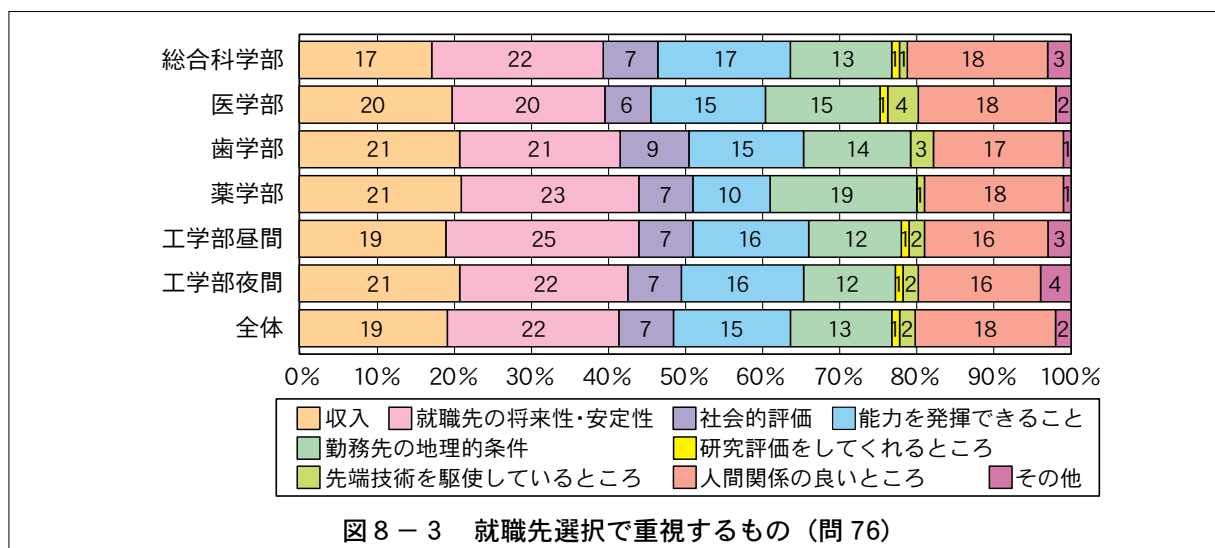


図8-3 就職先選択で重視するもの (問76)

### 8-4 希望する職種 (図8-4)

図8-4は，学部生全員に対して複数回答可として尋ねたものである。全体での希望職種の多い順は専門職(医師等)35%，技術職22%，公務員13%，事務職7%，企業等の研究職5%，教育職4%，大学・官公庁の教育・研究職4%，マスコミ関係3%である。全体を前回調査と比べると専門職(医師等)が(前回22%)13%増えている事が目立っている。

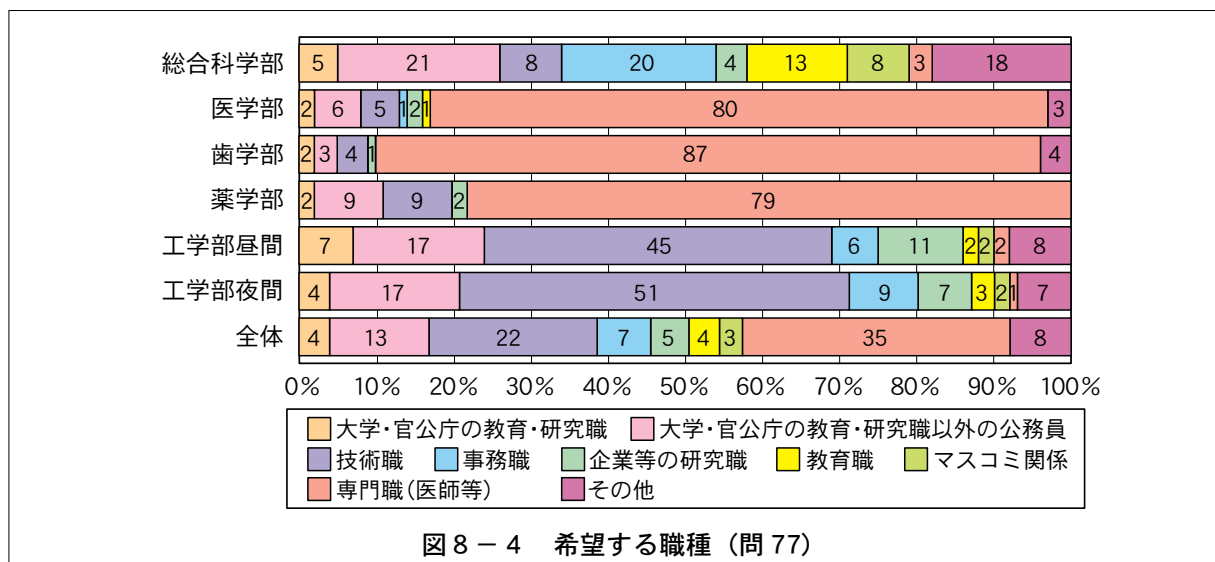


図8-4 希望する職種 (問77)

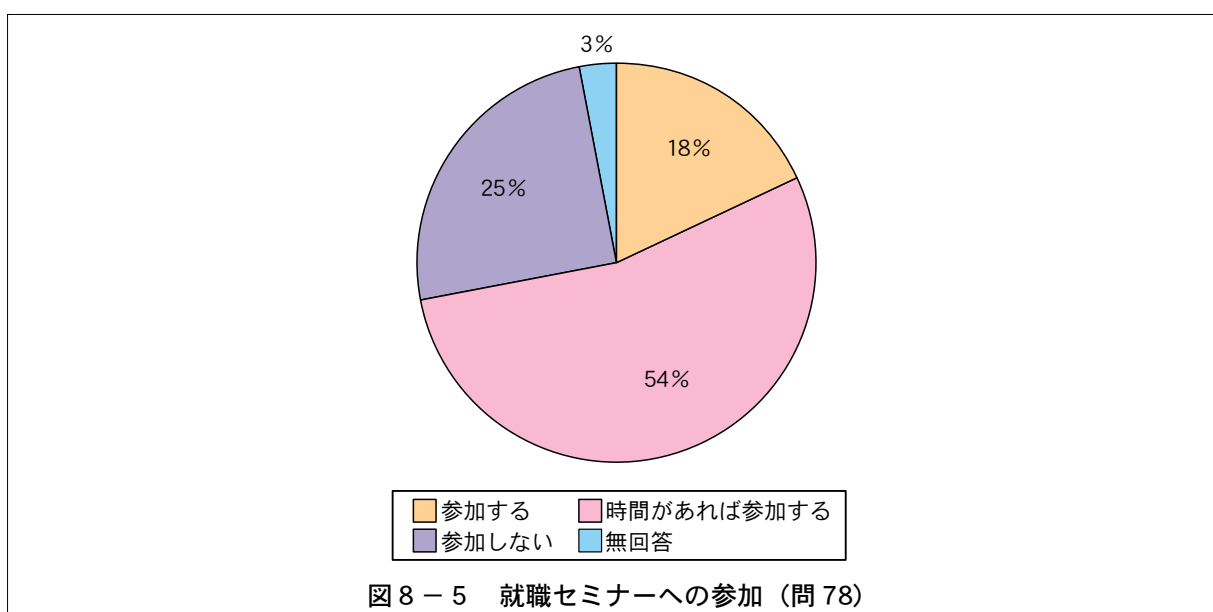
学部別で前回調査と比較すると，医学部専門職(前回63%，今回80%)で17%の増加，歯学部専門職(前回75%，今回87%)で12%増加，薬学部専門職(前回45%，今回79%)で34%増加となっている。医学部，歯学部では専門職が増えた分，大学・官公庁の教育・研究職や公務員，企業等の研究職，マスコミ関係が減っている。薬学部では，専門職が増えた分，企業等の研究職が，(前回21%，今回2%)19%減となった。医学部，歯学部，薬学部共に専門職志向が強くなっている。工学部では，昼間，技術職(前回39%，今回45%)で6%の増加，公務員(前回14%，今回17%)3%の増加。夜間，技術職



(前回 38%, 今回 51%) で 13% の増加, 公務員 (前回 15%, 今回 17%) 2% の増加となっている。その一方で大学・官公庁の教育・研究職, 昼間 (前回 16%, 今回 11%) で 4% の減, 夜間 (前回 11%, 今回 7%) で 4% の減となっている。工学部では研究職志向が若干弱まり, 技術職志向が強くなっている。総合科学部は公務員, 事務職, 教育職が多く, 前回とほぼ同じ志向である。

### 8-5 就職セミナーへの参加 (図 8-5)

図 8-5 は, 大学が行う就職セミナー参加について学部生全員に尋ねたものである。「参加する」18% (前回 22%), 「時間があれば参加する」54% (前回 52%), 「参加しない」25% (前回 23%), 「無回答」3% (前回 3%) である。前回調査と比べてほぼ同様の傾向ではあるが「参加する」と「時間があれば参加する」を合わせた割合は前回 74%, 今回 72% で若干下がっているのが気になる。いっそうの周知が必要であろう。



### 8-6 就職支援室の利用状況 (図 8-6)

図 8-6 は, 全員に対して就職支援室の利用状況を尋ねたものである。全体の就職支援室の利用状況を見ると「就職支援室を利用した事がない」83% に対して「現在も利用している」「以前に利用したことがある」の合計は 14% であり, 利用した事がない割合が際立っているが, これは, 全学年を対象としている事情もある。

各学部別に「現在も利用している」「以前に利用したことがある」の合計を前回調査と比較すると, 総合科学部 (前回 33%, 今回 31%) で 3% の減, 歯学部 (前回 6%, 今回 3%) で 3% の減, 薬学部 (前回 13%, 今回 11%) で 2% の減, 医学部は変わらない, 工学部昼間 (前回 12%, 今回 16%) で 4% の増加, 工学部夜間 (前回 12%, 今回 21%) で 9% の増加である。総合科学部, 歯学部, 薬学部で若干の減少があるが, 工学部では利用が増えている。

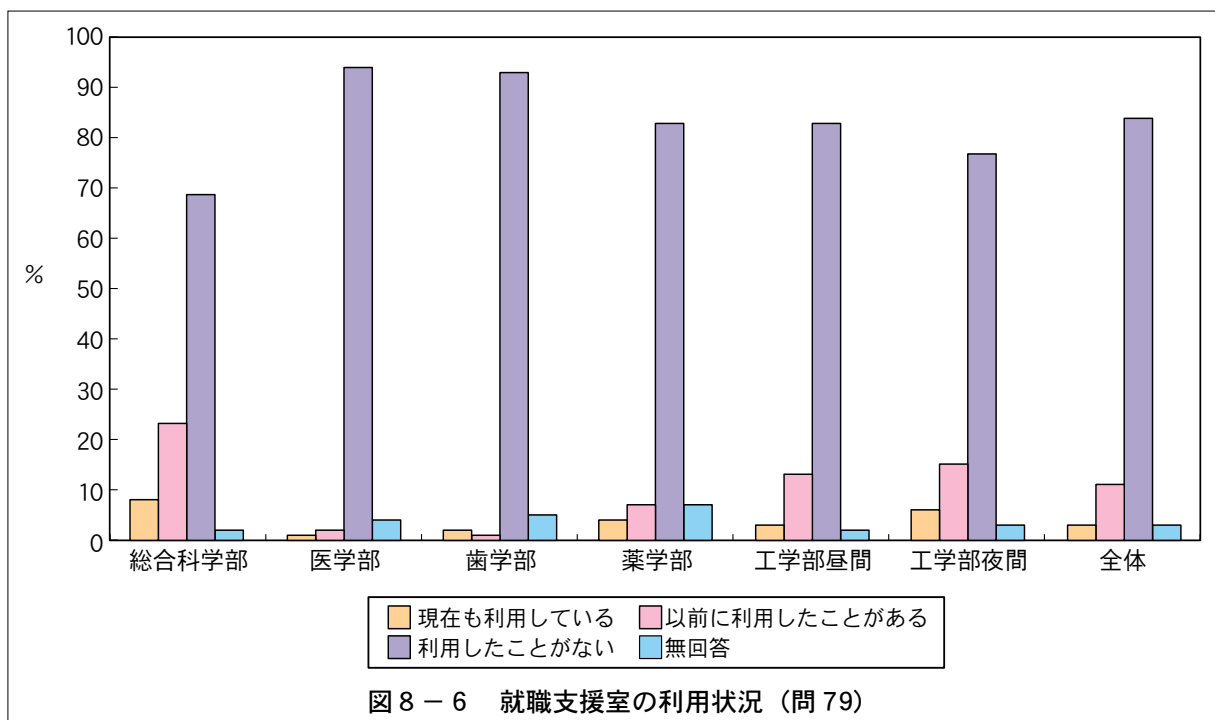


図 8-6 就職支援室の利用状況 (問 79)

### 8-7 就職情報入手方法 (図 8-7)

図 8-7 は、学部卒業予定の就職希望学生に対して複数回答可として就職情報入手方法を尋ねたものである。グラフには学部卒業予定の就職希望学生以外（1～3年生と進学希望者）が無回答に入るため無回答のパーセンテージが高くなっている。中でも薬学部は就職希望が34%であるために無回答が特に多い。全体の傾向としてはインターネット利用がやはり多い。学部生全員に尋ねた 8-1 の進路情報入手手段と比較すると総合科学部、工学部昼間、工学部夜間では、「先輩・知人からの情報」が少なくなり、より実践的な「会社説明会」や「就職支援室の情報・就職の手引き」等の利用が増えている。

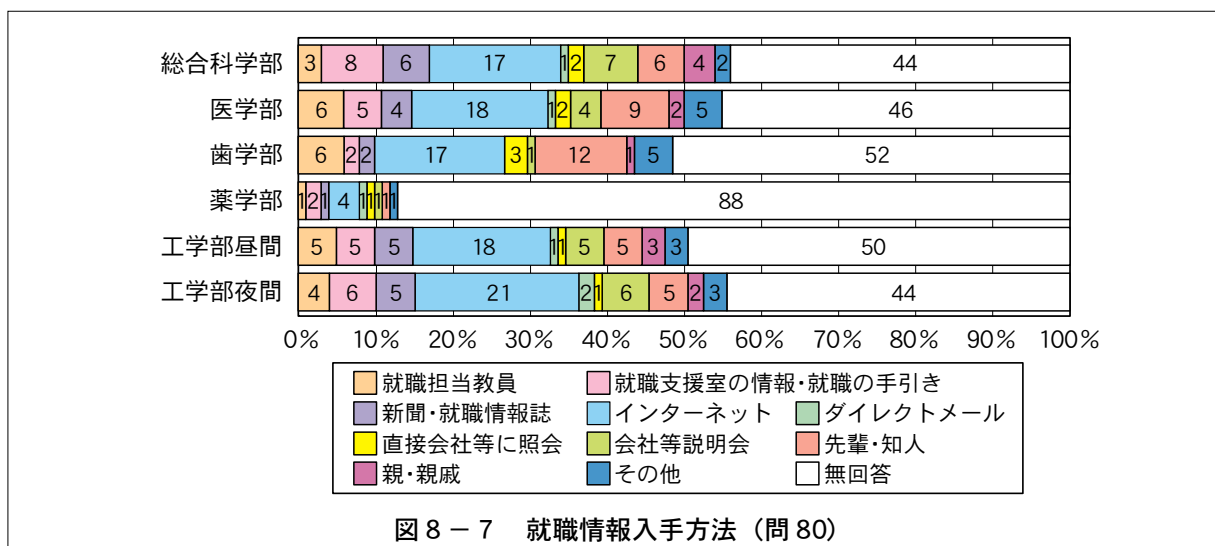


図 8-7 就職情報入手方法 (問 80)

## 第9章 学部の現状と課題

### 9-1 総合科学部

総合科学部は、人間社会学科と自然システム学科の2学科があり、収容定員は人間社会学科700名、自然システム学科360名である。教員134名が指導している。

「経済状況」について、学生の家庭の年間所得は、250万未満と500万までが38%ある。これは大学全体の平均より5%多い。保護者等からの援助額は「全くない」「3万円未満」を合わせると47%と高い。低所得で援助額も少ないという事が考えられる。また、平均支出額は、全学部中最も低く、食費も1ヶ月2万未満が50%もある。保護者等からの援助が少なく、支出が少ないのは、自宅通学の割合が36%と高いのも理由の一つと考えられる。援助が少ない事と関連するが、アルバイトをしている学生は68%と全学部中最も高い割合を示している。そのうち「アルバイトを週3日以上する」が42%あり、アルバイト従事時間も多くなっているが、アルバイトによる勉学への支障は低いようである。しかし、従事時間数に比例してアルバイトによるトラブルは36%と高いため、十分に注意を促す事が必要である。

「健康状態」については、就職や進路、生き甲斐や目標、勉学、交友、異性関係等の悩みや不安が多いようだが、悩みや不安は友人や家族に相談する機会が多いのは良いが、誰にも相談しない割合が女子に多いため注意が必要である。

「学生生活上の問題点」としては、アカハラ被害における女子の比率が高い、女子学生の多い総合科学部では注意が必要である。対人関係の苦手な学生や精神的に不安定な学生に対する教員の意識改革が求められる。教職員との交流では、「教員と会話をする」や「親しい関係にある」割合が高く、教員と学生のコミュニケーションは良好である。

「修学状況」については、総合科学部を選んだ理由として「国立大学だから」が最も多く、次に「希望する学部・学科があった」「地元の大学だから」と続くが、これからの状況を考えると「希望する学部・学科があった」から選んだという意欲の高い学生の比率を高める努力が必要である。学部の満足度に関しては53%が満足としているが、ここでもより努力が必要である。幅広い分野を持つ学部としての総合性を生かしながらも、学部としての入口、出口や教育内容の明確化を行い、より鮮明に教育方針を打ち出す必要がある。授業の満足度では満足度を有する学生の割合が54%と全学部中、最も高く、前回調査より7%高くなっている。これは、自己点検評価委員会が毎年学期毎に授業評価アンケートを行い、学生からの各授業評価やコメントを各教員にフィードバックしてきた結果、授業改善の効果が現れてきた事と考えられる。オフィスアワーの利用状況では、「利用した事がある」(34%)、「利用した事はないが存在を知っている」(53%)の合計が87%で、全体的にオフィスアワーの周知がよくできている。

「課外活動」におけるボランティア活動に関しては、毎年3回、学部で取組んでいるアドプト吉野川(吉野川清掃活動)の経験者が多いため「団体に入ってした事がある」が、16%と全体より高い割合を示している。これからも継続していきたい。サークルは、文系を持つ学部という事もあり、文科系サークルへの加入率が高い。また、未加入も多く、その理由としてアルバイトによる経済的理由や魅力的なサークルがない、何となく、がある。

「進路・就職」については、就職希望66%、進学希望27%である。希望する職種としては、公務員、事務職、教育職が多いが、他学部のように特定の職種に偏らず、多様な職種を希望しているのが特徴で、学部の性格を表している。就職先選択で重視するものは、「就職先の将来性・安定性」が多く、人間関係、収入、能力の発揮と続く。他学部に比べて、「収入」を重視する割合が若干少なく、「能力の発揮できる場所」が若干多い事が特徴である。

## 9-2 医学部

「経済的な状況」について、全体として見た時の医学部の学生は、比較的家庭が裕福（年収1,000万以上が23%）で、その月額収入、支出とも全学の平均に比べてやや多い傾向がある。その一方で、年収250万円未満が10%、250～500万円の学生が19%あることを見過ごしてはならない。このことは、学生が感じる経済状態において「大変苦しい」が8%、奨学金受給中であり更に希望する学生が29%いることにも現れている。

アルバイトをしている学生の割合は62%である。アルバイトの従事日数では、1週間に1日が14%、2日が18%、3日が17%と多く、4日は8%、5日以上が5%となっている。1週間当たりの従事時間数は5時間未満が27%、5～10時間未満が29%、10～15時間未満が20%で大半を占める。しかし、15～20時間未満が11%、20～25時間未満が7%、25時間以上も5%いる。実際にアルバイトをしている学生の19%（131名）が学業に影響していると感じている。1週間に15時間以上アルバイトに従事している学生数が157名あり、長時間のアルバイト従事は明らかに学業に影響している。

「健康状態」では、精神的に「安定している」が男女ともに38%である。約2/3の学生は「いららする」、「何となく不安」、「落ち込みやすい」、「やる気がでない」といった症状を有していて、これは現在社会そのものの縮図でもあるかもしれない。悩みごとは8割の学生が多かれ少なかれ持っている。内容は勉学、進路が多く、学生としては健全な悩みである。悩みごとの相談相手は友人が男女ともに半数で、1/4が家族である。教員、学生相談室に相談する割合が少ない。もう少し、学生相談室に相談に来てくれるようにアピールする必要があるだろう。

「学生生活」については、大学生生活の意義を、「勉学や研究」、「豊かな人間関係を結ぶこと」、「サークル活動」などにおいており比較的健全である。学生が受けた迷惑行為については第5章で詳しく解析されているので簡単に述べる。「悪徳商法」、「いたずら電話」、「ストーカー」、「セクハラ」、「アカハラ」などのトラブルに遭った学生が女性で約15%、男性で約20%近くいる。今後はこのような問題が増加していくことが予想される。対処方法をよく指導しておく必要がある。健康状態のところでも提起したが、迷惑行為を受けた時に学生はほとんど学生相談室に相談していない。親しい友人がいないと答えた学生が約5%、迷惑行為や困ったことに対し誰にも相談しない学生が多いことは問題である。学生が相談しやすい環境整備をさらに進めるとともに、教員に対する継続的な注意喚起が必要である。

所属学科への満足度は「満足 まあまあ満足」が69%、「やや不満足 不満足」は25%である。授業への出席率は「全部 ほとんど出席」が84%あり、これまでの単位取得状況も「全部 ほとんど取得」が約95%と良好である。授業に関しては「満足 やや満足」が46%と低い。教員側の意識改革が必要かもしれない。しかし、勉学への意欲がでない、授業がわからない、わからなくても何もしない学生がいることも事実である。このような学生にどう対応していくべきか、今後大きな課題である。

試験におけるカンニング経験者の割合では、医学部学生が23%と高く、実数では231名と最も多い数字である。カンニングに対する罪悪感が希薄なのではないかと危惧される。学生への指導を強化すると同時に、試験の監督態勢を見直してカンニングをしない環境作りが必要である。

「課外活動」では、サークル活動に熱心で、特に学内の体育会系のサークルに多数の学生が加入している。サークルに参加している学生の多く3/4は「熱心 まあまあ熱心」に活動している。サークルに一度も加入したことがないのは医学科で13%である。大学祭へは69%の学生が参加しており、これは全学平均の53%に比して高い。また、新入生歓迎会などの学生行事への参加も多いし、関心も高い。ボランティア活動の経験（33%）は学部間では最も高い。

「勉学」、「課外活動」を通して、全般的には積極的な学生が多いと考えられる。しかし、勉学に対する意欲がなく、授業がわからなくても何もしない学生もいる。これらの学生がサークルへの参加にも不熱

心であるかどうかは不明である。学生ごとに事情が異なるはずであるので、これら学生の問題を明らかにし、対応できるようにしていくことが、実態調査を通じて求められていくべきである。

「就職」では、学部の特徴であるが専門職が80%と圧倒的である。全体的に大学が行う就職セミナーへの参加に消極的であるのは就職に対する不安があまりないからであろう。

以上を要するに、医学部の学生は全体として健康的な学生生活を送っており、医学部に固有の大きな課題はないといえる。

### 9-3 歯学部

2年前の第22回の調査と比較して、今回の歯学部学生の調査結果の特徴を確認してみたい。まず第1点は、調査項目は前回とほぼ同じであったことから、調査結果は、2年という時間経過による学生側の変化が伺える。第2点は、調査表の回収率を見ると、全体としては、前回の93%に対して77%で、学年別に見ると1年生89%、2年生69%、3年生23%、4年生97%、5年生100%、6年生75%であった。調査対象の学生の変化として、歯学部3年生からの回収率が極めて低く、調査に対する意識が低いことが気にかかる。

個別の調査項目の結果としては、以下の諸点に特徴がある。

第1章の「家族、住居、通学」等については、前回とほぼ同じである。「収入」については、3万円未満が27%から17%へ著減しており、10~15万円の収入を得ている学生が34%と8%も増加している。第2章の「経済状況」について「大変苦しい」と答えた学生は7%いるものの、全学的に見ると、概して学業へのゆとりがあるようだ。このことはアルバイトをしていない学生が50%もいることと関連していると思われる。奨学金の受給状況は前回と差がない。ただ、アルバイトをしている学生でトラブル件数が前回の17%から22%に増えていることは、全学的な傾向ながら、注目されるところで、学生への注意喚起が必要である。第3章の「健康状態」では、歯学部女子の睡眠時間が4~6時間が51%で、睡眠不足傾向にあり、集中力や活動能力の低下を来さないように注意喚起が必要である。「気になる症状」が無いと答えた学生は前回67%に対して35%と著減している。「現在の精神状態」で充実・安定していると答えた学生は43%から39%に減少しており、「何となく不安」という学生も21%から15%に減っているものの、「やる気が出ない」と答えた学生は10%から19%と逆に増加している。これらの結果は、学生気質の変化を如実に物語っている。「保健管理センターを知らない」学生が20%もいることから、その存在意義について、蔵本保健室を含め、周知徹底の案内を繰り返し行う必要があるといえる。第4章「食事」については、「朝食」をとらない学生が前回より3%減っているものの、23%もいることから、食育指導の繰り返しが必要であるといえる。また、弁当利用者が多いことから、教室以外で食事がとれるアメニティーを整備することが強く求められている。歯学部学生は蔵本食堂を利用している学生が多いことから、食堂の運営者にはそのニーズに答えるように一段と経営努力を求めたい。前回の調査でも指摘されているように、単に安いだけでなく、食事内容のカロリー表示など食育を配慮した食事の提供を御願ひしたいところである。また、食堂環境の改善・整備をするために、施設の改築を含め、施設部にもご協力・支援を頂きたい所である。第5章の「学生生活上の問題点」では、学生生活の意義について、「ただ何となく」や「特に重点もなく」と答えた歯学部学生が19%いることに対して、職業教育として、専門科目の教育以外に、キャリア教育の必要性があるといえる。歯学部としては、正課外授業を柔軟に活用して、キャリア教育を押し進める必要がある。「迷惑行為」については、様々な新種の問題が常に生じていることから、恒常的に注意喚起と情報提供が必要である。教員との関係では、教員が相談相手としての役割も担っていることを歯学部FDでも再確認していくことが必要である。第6章「修学」については、歯学部所属満足度が「満足している」と「ほぼ満足している」という学生が54%であ



り、前回の61%から低下している。一方、「授業満足度」は前回の37%から43%へ向上している。調査回収率の悪かった学年があったこととも合わせ、「講義の工夫」や「授業内容に面白さ」を求めている学生のニーズへの改善を図るとともに、学生の意欲啓発もキャリア教育の一環として、平行して行う必要があるものと考えられる。第7章「課外活動」では、前回同様の結果がでている。引き続き、社会人になるための基礎力育成の場として、また、学部間の協調の仕組みとしても重要な意義があることから、サークル加入を今後とも促していく必要がある。第8章「進路・就職」については、18年度から、新たな法律のもと、卒後臨床研修制度がスタートした。就職支援室の利用は3%と少ないものの、歯科という専門職の就職には、国家試験合格率の向上、キャリア教育の一層の充実、全国にまたがった同窓会組織の協力をもとにした就職支援体制の活用が求められていることには変わりはないといえる。

総括すると、歯学部では、全入時代の学生気質の変化を配慮して、学生のニーズに答えられるよう対応していくことが差し迫った全入時代の課題であるといえる。

## 9-4 薬学部

今回の調査の回収率は36%（回答実数113）と前回に比較して著しく低かったが、以下に薬学部の現状と課題について報告する。

薬学部を選んだ主な動機として「希望する学部学科があったから」と回答した学生の比率が歯学部に次いで33%と高く、次いで「国立大学だから」との回答が29%あった。前回の調査結果と同様に、薬学部では目的意識を持って入学した学生が比較的多いといえる。おそらく、このような状況を反映して、「学部・学科に満足している」と「やや満足している」をあわせた比率が67%と比較的高い割合を示したと思われる。「また授業によく出席していますか」への設問に対しては、「全部出席している」が46%と「ほとんど出席している」が44%で、あわせると90%と高い比率であった。一方、授業の欠席理由として、「授業に魅力がない」と答えた学生も全体平均なみの33%あった。これに関連して、オフィスアワーの利用状況については、「利用したことがある」が全学部の中で15%と最も低く、今後、薬学部教員と学生のオフィスアワーのより一層の活用が望まれる。

経済状況については、自宅通学者の比率が他学部（全体では28%）に比べて低い20%であり、歯学部と同じく薬学部には地元出身者の数が比較的少ないことが特徴になる。生活費が高額になる自宅外通学者が多いことを反映して1か月の平均支出額が7万円以上の比率が52%で、全体に比べて高い比率になっている。一方、約半数の学生がアルバイトをしていない。この結果は、カリキュラムとの関係でアルバイトができる時間・日数に制限があることによると考えられる。またアルバイトをしている学生についてもその収入額は少ない。また奨学金を「現在受給中」と回答とした比率は25%と全体平均値とほぼ同じ比率である。保護者等からの1か月あたりの援助額が7～10万円の区分が24%あり、この比率が他学部と比較してやや高くなっていることが以上の原因の一つとも考えられよう。1か月の平均収入額が7万円未満である学生が40%で前回の結果の49%よりやや減少しているものの、現在の経済状況について「やや苦しい」と「大変苦しい」と回答した比率の合計は27%（全体では36%）で、やはり約1/2～1/3の学生は「ぎりぎりの経済状態」の中で学生生活をおくっていることが読み取れる。

「悩み」については、50%が「勉学に悩んでいる」と回答している。これと関連して、授業に満足できない理由として、「教員の教え方に工夫が足りない」が41%、「授業内容がつまらない」が24%、「授業内容が難しすぎて理解できない」が16%の割合であった。これらの比率は前回の調査結果とほぼ同様であり、前述したオフィスアワーの活用も含めて今後より一層の教員による対応が求められる。試験においてカンニングをしたことのある学生の比率は7%で、前回調査（20%）と比べると、大幅に減少していることはここ2年余りの指導の結果と思われる。

迷惑行為については、「大学内でセクハラを受けた」および「大学内でアカハラを受けた」と答えた学生はいなかった。「いたずら電話」と「ストーカーにあった」がそれぞれ4名と3名で、少人数ではあるが、より良い学生生活のために教職員の一層の指導と対応が必要である。アルバイトでのトラブルについては14%が「経験した」との回答で、前回の19%よりやや減少している。健康状態については、「保健管理センターを健康診断で利用」が59%と高い比率であるが、現在の精神状態は「比較的安定している」の回答が男子、女子ともに42%で、おおむね良好といえよう。昼食については、「蔵本会館食堂を利用」する学生が34%、次いで「弁当を購入」が23%で、これらの区分が全体の2/3をしめている。前回の調査結果の報告書における提言と同様に、学生生活実態調査の結果からメニュー、食堂の席数、弁当の種類の増加などの改善策を蔵本会館食堂と生協に御願ひする次第である。

卒業後の進路については約半数の52%が(大学院)進学を希望している。就職については、将来は病院や薬局などにおける薬剤師としての専門職を希望する学生が79%と前回の45%に比較して著しく増加している。この結果にともない、企業の研究職、大学・官公庁の教育・研究職、技術職等の研究関連職種を希望する学生の合計比率が逆に著しく減少した。前回の調査結果と比較したとき、これらの結果が今回の調査の中で最も大きな特徴の一つである。この原因には薬学部における6年制の導入が大きく関係していると思われ、学生への進路指導の今後の大きな指針となる。現在、男子の23%、女子の31%が就職や進路について悩みや不安を抱いており、就職支援室等との連携を保ちながら、よりきめの細かい就職指導や進路指導を行うことが今後ますます必要となろう。

## 9-5 工学部

「工学部を選んだ理由」としては、「国立大学だから」、「地元の大学だから」、「希望する学部学科があったから」の比率が高く、合計が60%強で前回の調査結果と同様である。目的意識を持った積極的理由として「希望する学部学科があったから」、「就職等将来を考慮して」の合計比率は、過去2回の調査から今回へ(25%, 25%), (23%, 25%), (22%, 20%)の比率であり、医学部、歯学部、薬学部に比べてかなり低く、しかもわずかに減少する傾向にある。[括弧内は回答比率(昼間, 夜間)である。]この傾向は、工学部受験生が全国的に減少してきており、本学工学部だけの問題ではないかも知れないが、入学後、意欲を持って勉学に取り組む学生を確保するためには、学部・学科の特徴、学ぶ内容に加えて自分の将来像を描きやすいように卒業後の進路・仕事の具体的内容についてわかりやすく広報することが必要である。一方、工学部に所属することの満足度のうち「満足している」、「やや満足している」の合計比率は、前々回調査から今回へ(51%, 44%), (51%, 53%), (50%, 59%)と昼間はほとんど変わらず、夜間では増大してきており、上の工学部を選んだ積極的理由の比率とは必ずしも対応していない。

「修学状況」のうち授業に対する満足度は、「満足している」、「やや満足している」の合計比率が前々回調査から今回へ(33%, 32%), (36%, 40%), (40%, 46%)と増大しており、FD活動の推進などによる授業改善の効果が伺われる。一方、これまでの単位取得状況のうち、「全部取得できた」、「ほとんど取得できた」の合計比率は(87%, 82%)で他学部に比べて低い。特に夜間では「半分程度取得できた」、「あまり取得できなかった」が16%に達しており、前回調査より増大している。これらの結果は、授業が満足できない理由のうち「授業内容が難しすぎて理解できない」が(18%, 22%)で他学部より高く、前回調査より増大していることと密接に関連していると思われる。教員には「教え方を工夫していかに分かりやすく教えるか」が要望されている。また授業が理解できない場合の対処法として「気になるけど何もしない」、「気にしない」の合計比率が(30%, 57%)と多くなっているが、オフィスアワーを利用しない理由で「教員に相談するのが面倒である」、「オフィスアワーが短く利用しにくい」の

回答が多いことと関連させると、オフィスアワーをさらに充実させるとともに、学生に対してきめの細かい対応をすることが必要である。

「家庭の年間所得」が500万円未満の比率は、過去2回の調査から今回へ(23%, 40%), (29%, 49%), (34%, 49%)と増加しており、昼間で1/3、夜間主で1/2の学生の所帯が500万円未満の収入である。家庭からの仕送りは(39%, 56%)が3万円未満であり、それに関連してアルバイトをしている学生の(35%, 52%)が週15時間以上従事しており、アルバイトが「勉学の支障になっている」と答えた比率がほぼ4人に1人(26%, 26%)で、他学部に比べて高いことの一因になっていると思われる。経済状況が「やや苦しい」、「大変苦しい」と答えた学生が(9%, 13%)を占め、奨学金制度等を用いてどのように支援していくかを検討するとともに勉学に対してバランスの取れたアルバイトをするようにアドバイスをする必要がある。

「健康」について何らかの「気になる症状」があると答えたのは男子で(46%, 47%), 女子で(67%, 61%)で、何らかの「悩みや不安」があるという回答は男子で(77%, 71%), 女子で(80%, 84%)である。悩みの内容は、多い順に「勉学」、「就職や進路」、「経済状態」、「生き甲斐や目標」となっており、悩み事の「相談相手」はほとんどが「友人」で、「教員」及び「学生相談室」は極めて少ない。また「誰にもしない」が男子で(18%, 28%), 女子で(34%, 23%)と高比率である。さらに「現在の精神状態」で男子の(54%, 54%), 女子の(53%, 68%)が何らかの精神的不安定さを持っている。しかし、保健管理センターの「健康診断以外の利用」は(22%, 10%)と低く、「知らない」、「行ったことがない」の比率が(22%, 32%)であり、保健管理センターの活動の周知徹底が必要である。健康面で気になる症状、悩み、精神的不安定さを抱いている学生は多いが、その相談先として現状では学生相談室、保健管理センターの利用は少なく、友人が相談相手になっており、健全な大学生活を送る上で友人の果たす役割が大きいといえる。

「昼食の利用場所」は、昼間では「第1食堂」が39%、「自宅(下宿)」が13%、「弁当を購入」が12%、「第2食堂」が11%で、「第2食堂」の利用率は依然として低い。「昼食時の混雑がひどい」と答えた学生は前回調査と同じ35%あり、混雑を避ける意味からもさらに第2食堂の利用率を増やす方が必要である。

「学生生活上の問題点」のうち迷惑行為を受けたと答えた学生は、悪徳商法24人、いたずら電話19人、ストーカー4人、セクハラ1人、アカハラ3人となっている。このうち、相談相手として「友人」、「誰にもしない」を挙げた学生が多く、「学生相談室」を挙げた学生は少数で、いまだ「学生相談室を知らない」学生が(13%, 18%)あり、学生相談室の活動の周知徹底が必要である。

「課外活動」に関して、学内のサークルへの加入率は(47%, 29%)で他学部に比べて低い。加入しない理由は、昼間で「特に理由はないが何となく」が多く、夜間で「アルバイトをしているので時間的余裕がない」が多い。サークル活動は、学生のコミュニケーション能力を増進し、社会性を育てる上でも重要であり、サークル活動への加入を促すことが必要と思われる。

「進路・就職」に関して、進路を考える上で情報入手手段はインターネットが多く、次いで先輩・知人、就職担当教員、就職支援室の情報等となっている。希望職種は、「技術職」が(45%, 51%)で最も多く、次いで「大学・官公庁の教育・研究職以外の公務員」(17%, 17%)、「企業等の研究職」(11%, 7%)で、前回調査に比べて技術職指向が強くなり、研究職指向が少し減っている。「就職や進路」について悩みを抱えている学生は多いが、工学部では各学科に就職担当教員が配置され、就職支援室利用者も増えてきていることから就職に関して大きな問題はないと考えられる。



## 第10章 総括と提言

今回の調査結果は、学部学生の全員（6,003名）を対象として実施され、4,023名（67%）からの回答を集計したものである。調査は、生活全般、経済状況、健康状態、生活上の問題点、修学状況、課外活動、就職・進路などに関するもので、今回新たに追加した設問を加えて、80問である。

これらの調査結果から学生生活の現状を把握し、課題と問題点を探り、改善へ取り組むことは我々教職員の務めである。各章を通じて得られた結果と課題を総括し、提言をまとめてみると次のようになる。

1. 経済状況：1か月の平均収入が前回と比較してやや多くなっており、経済状況として「ゆとりがある」および「ふつう」と答えている割合は若干増加している。しかしながら、「やや苦しい」および「大変苦しい」が合わせて36%もあり、経済的支援のあり方として、奨学金や授業料免除のさらなる拡充をはかる必要がある。また、アルバイトをしている学生のほとんどは「支障は生じていない」と回答しているが、実際には留年生の殆どがアルバイト従事時間数が多く、特に1年生の夏休みあたりからアルバイトを始める学生が多いので、クラス担任を中心として、勉学とのバランスを取るよう助言・指導する必要がある。
2. 健康状態：睡眠時間の不足と考えられる学生が多く、これは集中力、活動能力さらには免疫力の低下に繋がる可能性があり、事故防止および病気予防のために改善させる必要がある。また「頭痛・めまい」、「アトピー・アレルギー」、「不眠」など、気になる症状を持つ学生も多く、予想以上に健康面で問題を抱えている。「保健管理センター」の役割が期待されるが、これらの症状は生活の質とも密接に関連するため生活指導等が必要である。一方、悩みや不安を抱えた学生は約8割いるが、その内容は「勉学」と「就職や進路」が多く、続いて「交友・異性関係」、「生き甲斐や目標」となっている。悩み事の相談相手はほとんどが「友人」で、「教員」および「学生相談室」はきわめて少ない。前者の「勉学」と「就職や進路」については学生として健全な悩みと考えられ、「友人」の果たす役割が大きい。しかしながら、後者の「生き甲斐や目標」などを悩みに持つ学生については「教員」および「学生相談室」の役割は大きく、各教員の認識を高め、「オフィスアワー」と「学生相談室」の周知徹底を繰り返し行うとともに、相談時間の延長やカウンセラーの増員など、一層充実した体制にする必要がある。
3. 食事：朝食をとらない学生が4人に1人おり、食育推進のための取り組みが必要かも知れない。昼食と夕食はほとんどの学生がとっており、心配することはない。ただ、昼食の利用場所として学生食堂は低価格で喜ばれているが、従来から苦情の出ている「ひどい混雑」と「場所の不便さ」については改善がなされていない。学生および教職員のニーズに応えるべく、食堂の運営者には一層の改善努力が必要である。また、最近は弁当を教室でとる学生が多いので、教室外で食事ができるアメニティあるいは環境美化にも考慮した緑地内のテーブル設置などが求められる。
4. 生活上の問題点：「大学生生活の意義」では、約75%の学生が「勉強や研究」、「サークル活動」、「豊かな人間関係を結ぶこと」としており、喜ばしい結果が出ているが、残りの学生は「特に重点もなく程々に」と「ただ何となく」としており、憂慮するものがある。大学入門講座等の初期教育の重要性もさることながら、大学で学ぶことの意義を明確にするために、また大学での学びが実社会でも有効であることを示すためにも、「キャリア教育」への取り組みが必要である。

「迷惑行為」では、前回の調査に比較して、「受けていない」割合が増加し良好な結果である。しかしながら、「受けた」学生がまだ22%いて、その割合は女子よりも男子で多く、誰にも相談しない学生が多い。男子にも今以上の注意喚起が必要であり、「オフィスアワー」と「学生相談室」の活動

の周知徹底が必要である。「悪徳商法にひっかかった」学生数は男子68名、女子65名で、ほぼ同数だった。被害率としては女子が高く、しかも薬学部と工学部が多い。この種の被害は今後増加して行くことが予想され、特に当該学部の対処方法の指導など徹底しておく必要がある。「いたずら電話」と「ストーカー」では女子の被害が減少し、男子が増加した。これはインターネットが普及し、学生が簡単にブログや掲示板に書き込むことが可能となったことに因るものと思われる。冗談でも社会通念から逸脱した内容を書き込めば、それがきっかけとなって、「いたずら電話」や「ストーカー」行為の被害者になる恐れもある。今後急速に増加することが予想され、しかも多岐にわたって対策が後手になる可能性があるため、SNS（ソーシャル ネットワーキング システム）における学生の個人情報遺漏対策などを徹底して注意しておく必要がある。「セクハラ」および「アカハラ」でも「教員」や「学生相談室」への相談はほとんどない。対人関係の苦手な学生や精神的に不安定な学生に対して、許容的に接する度量の広さが教員には要求される。また、相談室の広報活動を続けるとともに、啓蒙・啓発活動により多くの教員に出席してもらい、教員の意識を高める必要がある。

「友人の存在」では、6%の学生が「親しい友人」がいないと回答している。このことが、やがては授業の欠席や留年に繋がり、精神状態も悪くなり、充実した学生生活を送れなくなる場合が多い。従って、対人関係の苦手な彼らに対して友人をつくる機会を、たとえば合宿研修やハイキング、スポーツ大会など、低学年の時期に実施できるように企画することが必要である。

「大学事務室の対応への満足度」では、前回に比べてやや改善されているが、それでも「満足している」割合は小さい。学生の目線に立ったサービスと共に、「学生との窓口になる学務部・学部の職員は大学の顔である」という意識を持つなど、大学事務室職員のさらなる努力が求められている。

「盗難等犯罪被害」では、前回とほぼ同じで、20%弱の学生が被害に遭っている。その中で、約40%の学生が「大学構内」で被害に遭っており、防止のために、その概要をいち早く全学に通知し、注意を呼びかけることが必要である。

5. 修学状況：「本学を選んだ理由と所属学部の満足度」では、約60%の学生が満足しているが、6人に1人は不満を持っており、特に工学部昼間で不満が多い。入学後、意欲を持って勉学に取り組む学生を確保するためには学部・学科の特徴、学ぶ内容に加えて自分の将来像を描きやすいように卒業後の進路・仕事の具体的内容についてわかりやすく広報することが必要である。「授業欠席理由」では「授業が理解できない」よりも「授業に魅力がない」が上回っており、また「授業の満足度」でも約5人に1人が不満を持っている。教員側の「勉学意欲をかき立てる授業」、「魅力ある授業」へのさらなる改善が望まれる。

「カンニング経験」では約17%が「経験あり」と回答している。カンニングに対する罪悪感が希薄でないかと危惧され、学生への指導を強化するとともに試験の監督態勢の見直しが必要である。

「オフィスアワーの利用状況」では、利用者は4人に1人に留まっており、オフィスアワーについて知らない者も4人に1人いる。利用者増加のためには、学生に対するオフィスアワーの周知徹底と利用しやすい環境にすることである。また、社会人学生や工学部夜間学生に利用可能な時間帯の検討も必要である。

「図書館の利用状況」に関しては、利用率は高くなく、一方で利用時間の延長に対する要望が14%もあるので、時間延長について検討が必要である。

6. 課外活動：「学生行事」では、新入生歓迎会や大学祭などの学生行事に35%が積極的に参加している。これらの行事は学生が友人や教職員との交流を通して人間形成の上で大きな役割を果たす機会であることを70%前後の学生が認めているので、参加を促進していくために大学はどのような支援ができるかを検討する必要がある。

「ボランティア活動」では、活動経験者は医学部が33%で学内では最も高いが、全体では23%であり高いとは言えない。ボランティア活動は、学生がホスピタリティマインドを身につける経験として重要であり、地域社会に貢献する活動でもある。ボランティア活動の推進を目指し、学生ボランティアセンター等を開設し、ボランティア情報の提供、ボランティア活動の計画、ボランティア相談等に応じることも一案である。

長い学生生活の中での課外活動の経験は、知的視野を広げ、豊かな人間性を図る上で必要不可欠のものである。学生が自らの能力を大いに発揮する意味からも、課外活動情報システムの構築や課外活動に使用できる施設の利用の拡充及び課外活動奨励賞を設けることなどが必要である。また、サークル間の連携を深め、全学の応援団なども結成し、相互に支えあう様々な工夫を凝らし、殆どの学生がサークルに所属し、活動を楽しみつつ、学業に励むことができるような大学環境を、学生のニーズを中心に築くことが求められている。

7. 進路・就職について：就職に関する悩みを抱えている学生は多いが、就職支援室の利用者は少ない。就職支援室では、「キャリア形成支援」をはじめ、「就職ガイダンス」、「合同企業説明会」、「就職セミナー」の開催など、きめ細かな指導・助言をしているので、これらの活動を生かすべく各学部教員の協力が必要である。

今年度の学生生活実態調査では、学部学生に対して今後の福利厚生施設等の改善並びに修学指導に資する基礎資料が得られた。すなわち、学部生に対して大学の果たさなければならない課題が具体的に数多く見えている。学生生活支援室としては、学生相談室や就職支援室と協力して、学生および全教職員の協力を得ながら、学生のニーズに応える改善を積極的に行って行きたいと考えている。弛まないご協力をお願いする次第である。

## あ と が き

徳島大学の学生生活実態調査は昭和28年に初めて行われており、今回で24回目となります。かなり前から調査されてきていて驚きましたが、50年余りで24回ですから、ほぼ1年おきに調査してきたこととなります。今年度の調査は、平成16年度と同様に学部生全員を対象に実施しましたが、隔年とはいえ学部生全員に対して2回続けて調査したことになり、このようなことは長い歴史の中で初めてです。それだけにこの調査で取り上げた内容は、必ずしも最近の学生が抱えている問題のすべてではないにしても、3年間の学生生活の変化の実情がこれまでよりも正確に把握できたのではないかと思います。したがって、この調査で得られた結果や提言を参考にさせていただいて、徳島大学として学生の修学効果を上げるための改革と、より快適な生活環境を実現するための検討を出来るだけ早く取り組むことが必要と思います。一方、今回の調査で私個人が強く感じましたことは、「いたずら電話」と「ストーカー」被害が女子よりも男子で増加したことです。これはインターネットが普及し、学生が簡単にブログや掲示板に書き込むことが可能となったことに因るものと思います。この種の問題は、今後急速に増加することが予想され、しかも多岐にわたって対策が後手になる可能性がありますので、SNS（ソーシャル ネットワーキング システム）における学生の個人情報遺漏対策を徹底して注意しておく必要があると思いました。

このように、学生生活における問題も徐々に様変わりし、かつ複雑になっています。全国規模の学生生活調査や意識調査なども大いに参考になると思いますが、今回の調査で明らかになった点は我々の大学で身近に生じていることです。徳島大学の個々の構成員が広い視野に立ち、相互理解を持ちながら、このためには現状の把握と責任の自覚が大事だろうと思います。学生生活支援に対してご協力下さることをお願いする次第です。また、本報告には不備な点多々あると思いますが、より良い修学・生活環境にするために、ご意見、ご批判を賜れば幸いです。

最後に、この調査の実施および報告書の発行に際しまして、ご支援・ご協力を賜りました川上副学長、企画、執筆、編集にご尽力戴きました学生生活支援室ワーキンググループ（福富、中馬、平木）の先生方をはじめ学生委員会の先生方に深く感謝致します。また、アンケートの集計と企画調整、編集にご尽力下さいました学務部学務課職員及びアンケート調査にご協力下さった学部学生に厚く御礼申し上げます。

平成19年3月

学生生活支援室長

逢坂 昭 治

Campus  
Life

# キャンパスライフ

## 第23回学生生活実態調査報告書

平成19年3月

徳島大学